

小豆島地域公共交通網形成計画

平成 28 年 3 月

土 庄 町

小 豆 島 町

< 目 次 >

計画の策定にあたって	1
1. 地域の現状等	2
1.1 人口	2
1.2 主要施設分布	3
1.3 通勤	3
1.4 通学	4
1.5 通院	5
1.6 観光	6
2. 上位計画の整理	7
2.1 土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10 月）	7
2.2 小豆島町の人口ビジョンと総合戦略 2015～2019（H27.10 月）	8
2.3 都市計画区域マスタープラン（土庄・内海都市計画区域）（H24.10 月）	10
2.4 香川県離島振興計画（H25～H34 年度）（小豆島地域振興計画）（H25.4 月）	11
2.5 香川せとうちアート観光圏整備計画（H27.3 月）	12
3. 公共交通の現状等	13
3.1 航路の状況	13
3.2 路線バスの状況	14
3.3 路線バスアンケート（住民アンケート）	17
3.4 病院アンケート（来院者アンケート）	30
3.5 通学アンケート	38
4. 地域公共交通の役割と課題整理	41
4.1 地域公共交通の役割	41
4.2 地域公共交通の課題整理	44
5. 基本的な方針	45
6. 計画の目標	47
7. 目標達成のための施策・事業	49
8. 計画の達成状況の評価	66

計画の策定にあたって

➤ 計画策定の趣旨及び位置付け

小豆島は、瀬戸内海で最大の人口を有する島であり、温暖な瀬戸内海の気候を活かし、オリーブの国内栽培の発祥地としても知られている。日本三大渓谷の一つである寒霞渓、二十四の瞳映画村など、豊かな自然と歴史とあわせ、オリーブや醤油、胡麻油、素麺など、地域の魅力あふれる産品を目的に、年間100万人の方が訪れる観光のメッカとなっている。また、2010年（H22）より開催された瀬戸内国際芸術祭により、瀬戸内海の島々を船と公共交通とで周遊するといった新たな観光スタイルが定着するとともに、国内だけでなく海外からも多くの方々が来訪されている。さらに、2015年（H27）には、小豆島を含む「せとうち・海の道」が国土交通省の広域観光周遊ルートとして大臣認定されるなど、小豆島地域における観光産業の重要性が高まっている。

一方で、離島指定を受ける小豆島には、約3万人（H22）の人々が生活しているが、他地域をしのぐ人口減少と少子化、高齢化の進展に伴い、将来的（H52）には、人口は約4割減少するとともに、2人に1人は65歳以上となり、さらにその半数以上は75歳以上と、超高齢化社会を迎えることが予測されている。今後、自分で車を運転できない住民が増加することを踏まえると、現在の自動車一辺倒の社会の見直しが必要であり、誰もが安心して利用できる公共交通の担うべき役割が重要視されている。

また、小豆島地域では、土庄町、小豆島町の両町にそれぞれある総合病院を統合し、2016年（H28）に小豆島中央病院を開院するとともに、2017年（H29）には統合高校を開校予定であり、両施設が立地する池田地区については、土庄地区、内海地区といった既往拠点に加え、新たなまちづくりの拠点としての重要性が高まっている。

以上より、小豆島地域では、地域の主要産業である観光について、さらなる振興を図るとともに、多くの来訪者の移動を支える公共交通基盤の整備が必要となっている。さらに、現在及び将来的な超高齢化社会を踏まえると、小豆島地域に暮らす、訪れる全ての人々が安心して利用できる移動手段の確保、新病院、統合高校、新拠点といった新たなまちづくりに対応した公共交通網の形成が必要であることから、地域の真のニーズや課題に対応した、『小豆島地域公共交通網形成計画』を策定するものとする。

➤ 計画の区域

本計画の区域は、小豆島地域（土庄町、小豆島町）とする。

➤ 計画の期間

本計画の期間は、平成28年度～平成32年度の5箇年とする。

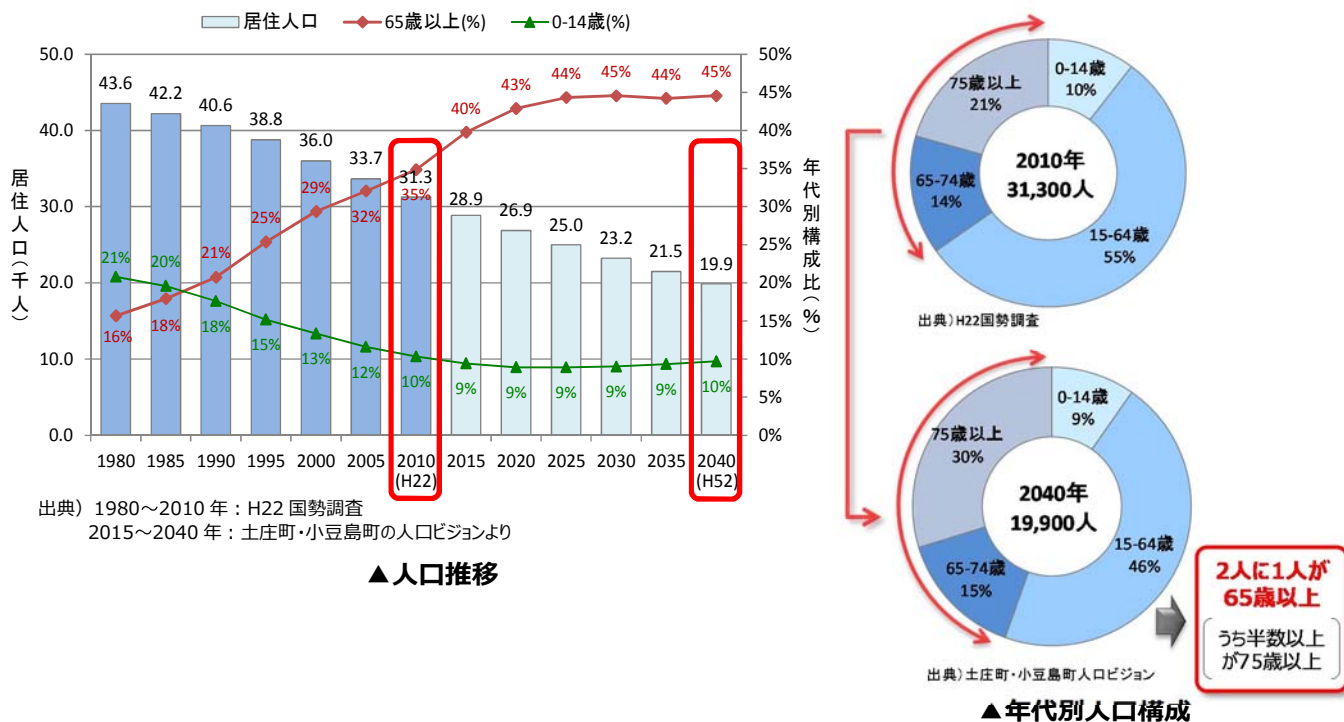
（うち 前期：平成28～30年度、後期：平成31～32年度）

1. 地域の現状等

1.1 人口

・2010年（H22）の居住人口は3.1万人。今後人口減少が進み、2040年（H52）には2.0万人（約3.5割減）となる見込み。少子高齢化が進み、高齢化率は2040年（H52）には45%まで増加する。しかも、75歳以上が30%を占め、超高齢社会を迎えることが予測されている。

⇒自分で車を運転できない住民が増加。生活基盤として公共交通がますます重要となる。



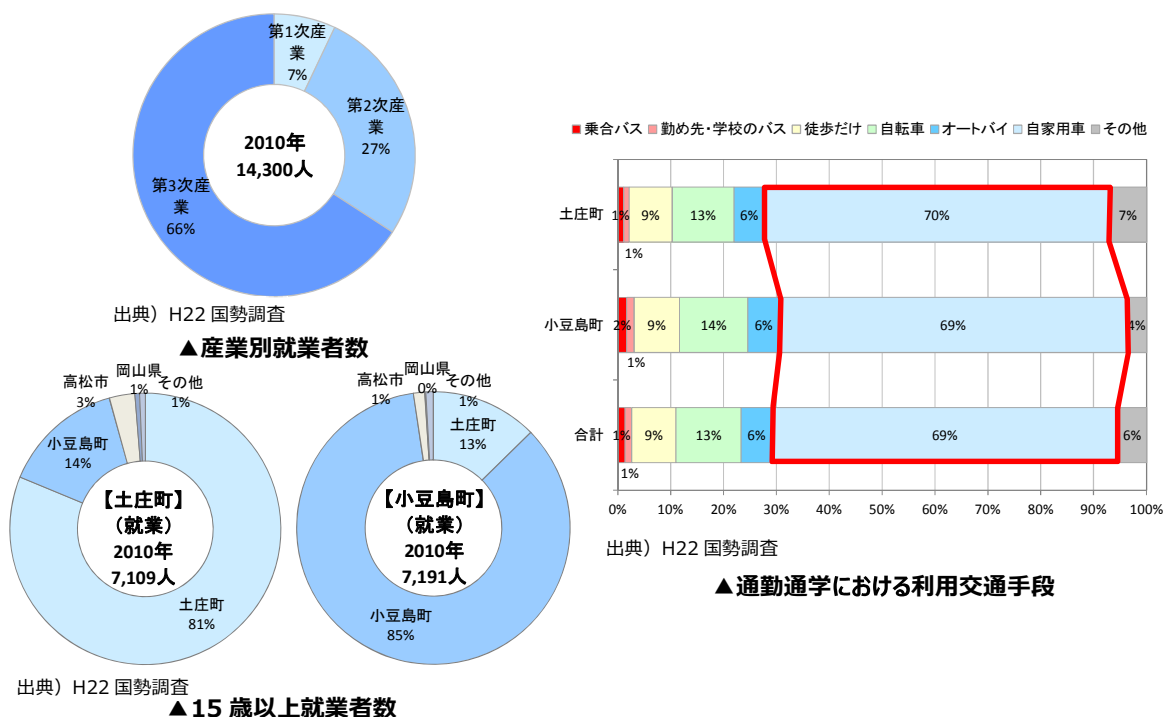
1.2 主要施設分布

- ・地域の主要施設は、両町の町役場の存在する、土庄地区、内海地区に集中している。
- ⇒今後、統合病院及び統合高校の立地により、両地区に加え、池田地区の重要性が高まる。



1.3 通勤

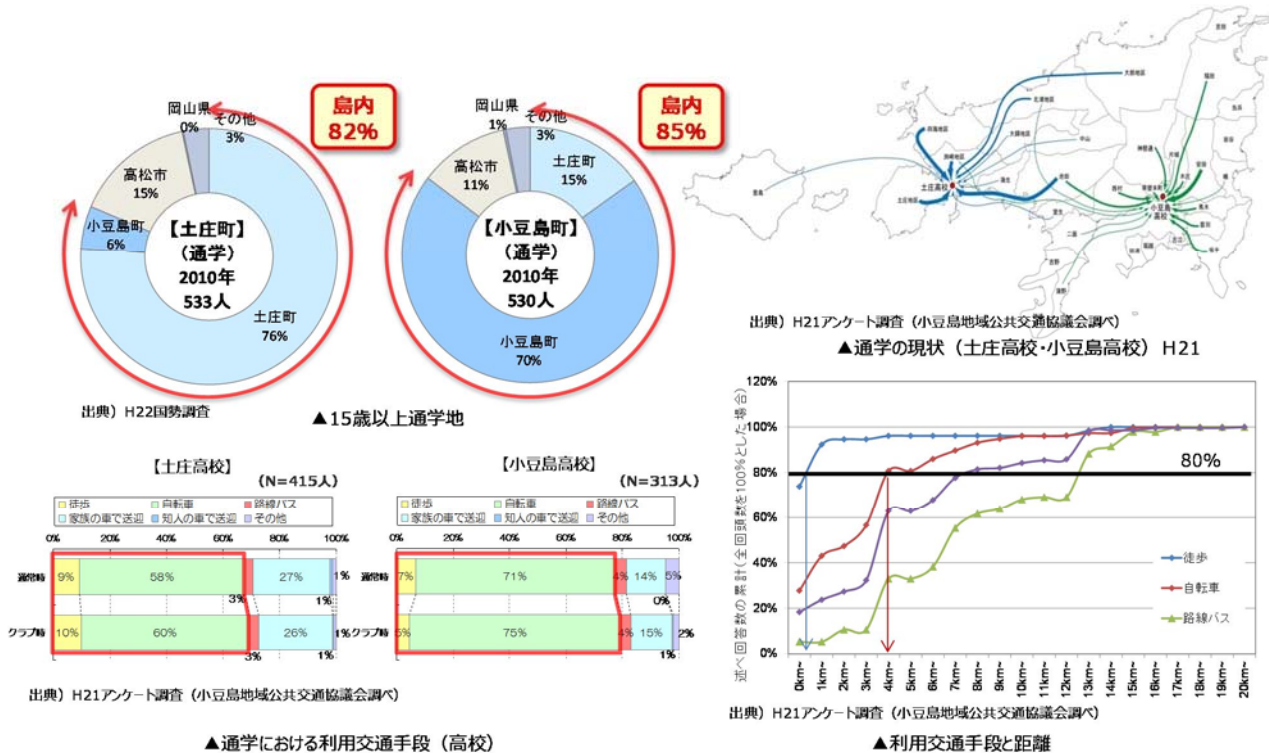
- ・第3次産業の就業者数が7割で、通勤先は島内がほとんどである。
- ・通勤通学における利用交通手段は、乗合バスがわずか1%であるのに対し、自家用車は69%を占める。
- ⇒主な通勤手段は自家用車で、路線バスはほとんど利用されていない。



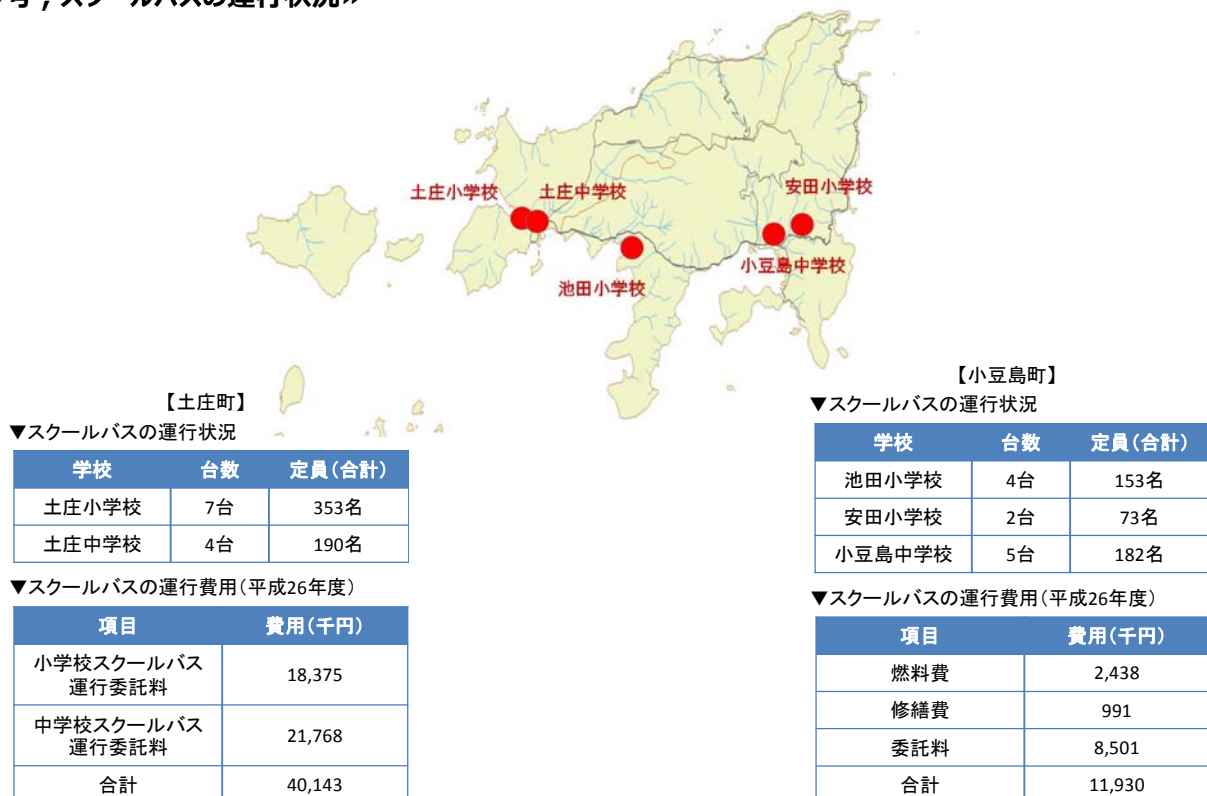
1.4 通学

- ・通学地は島内が8割以上である。
- ・高校生の通学手段は徒歩・自転車がほとんどで、路線バスは3～4%程度。家族の車で送迎も2～3割ある。
- ・距離別にみると、徒歩は1km以内、自転車は4km程度で8割以上に達する。

⇒高校からの徒歩圏域は約1km、自転車圏域は約4km程度と想定される。



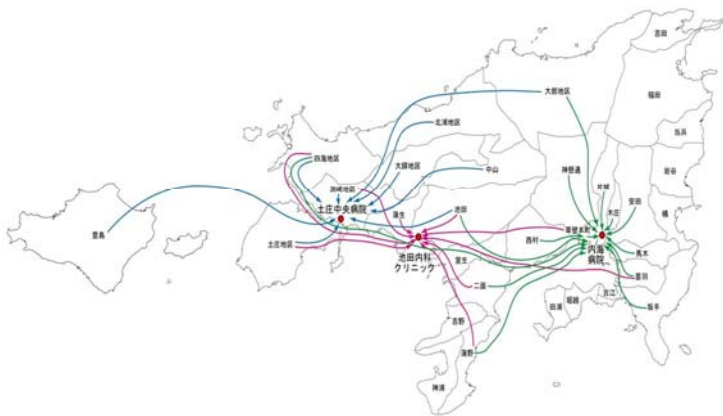
「参考 ; スクールバスの運行状況」



1.5 通院

- ・島内の主な3病院への通院手段は、車（自分で運転）が49%、家族の車で送迎が14%、路線バスが11%。
- ・路線バス利用者の5割、家族の車で送迎の8割が70代以上であり、高齢になると自分で運転する以外の交通手段で通院している状況が伺える。

⇒高齢化が進むなか、高齢者等の通院手段を確保していく必要がある。



出典) H21アンケート調査(小豆島地域公共交通協議会調べ)

▲通院の現状(土庄中央病院・池田内科クリニック・内海病院)



出典) H21アンケート調査(小豆島地域公共交通協議会調べ)

▲通院における利用交通手段(3病院)



出典) H21アンケート調査(小豆島地域公共交通協議会調べ)

▲通院における利用交通手段(年代別:3病院)

「参考」小豆島中央病院の計画

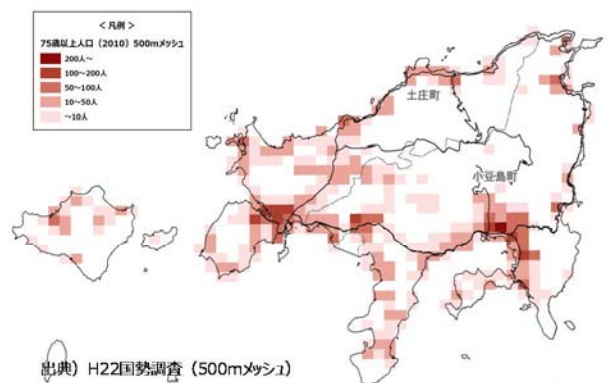
- ・土庄中央病院と内海病院が統合し、小豆島中央病院が開院予定（2016年4月）。
- ・統合により、医療内容の充実や救急医療体制の強化が図られる。



▼小豆島中央病院の診療科

診療科	土庄中央病院	内海病院	小豆新病院(仮称)
内科	○	○	○
小児科	○	○	○
外科	○	○	○
整形外科	○	○	○
脳神経外科	○	—	○
皮膚科	○	○	○
泌尿器科	○	○	○
婦人科	○	—	—
産婦人科	—	○	○
眼科	○	○	○
耳鼻咽喉科	○	○	○
リハビリテーション科	—	○	○
放射線科	—	○	○

出典) 小豆新病院(仮称) 基本構想案H24



出典) H22国勢調査(500mメッシュ)

▲75歳以上の人口分布(2010年)

◆小豆島中央病院に求められる医療機能、目指す医療

○医療の継続的な提供

○医療内容の充実、島外搬送の減少

- ・香川大学の支援により、**心臓血管障害や脳血管障害等の検査や治療**が可能となる。
- ・2病院での医療器械の重複配置解消により、経営効率化が図られることで、**新たな医療器械も整備**できるようになり、医療内容の充実を図ることができる。
- ・三次医療は、これまで通り、県立中央病院や香川大学付属病院の救命救急センターで行うが、**心臓カテーテル検査、頭部外傷の治療等、対応できる医療の拡充**によって、患者の島外への搬送の減少を図っていくことができる。

出典) 小豆新病院(仮称) 基本構想案H24より抜粋

「参考；福祉バス等の運行状況」

・土庄町、小豆島町ともに、以下の福祉バスを運行している。



▲福祉バスの運行ルート

▼福祉バスの運行状況

【土庄町】

項目	内容
便数	行き 1便(7:50発) 帰り 2便(11:00発、13:30発)
停留所	土庄中学校前バス停(イマウエ歯科、大森外科) 富岡通りバス停(三浦眼科) 土庄中央病院前バス停(土庄中央病院) 本町バス停(三枝医院、松本歯科) 西本町バス停(外園医院) フェリーターミナルバス停(高橋歯科) マルナカ前バス停(平井クリニック) 銀波浦前バス停(はらだ歯科)
対象	70歳以上の方及び障害者手帳所持者の医療機関通院
経費	H26:3,737(千円)

【小豆島町】

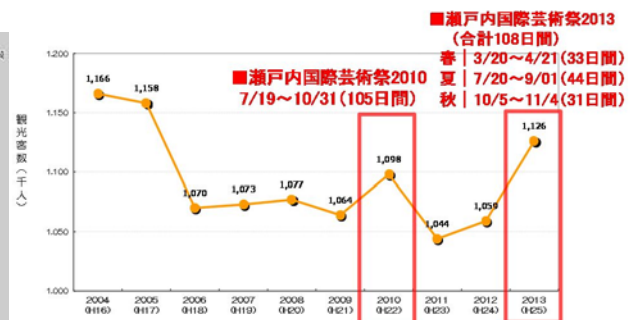
項目	内容
便数	循環 4便 (小蒲野往路便→小蒲野復路便→中山往路便→中山復路便で循環)
停留所	小蒲野往路・復路便 新池田港、池田中学校前、竹生、石場、牛ヶ浦、小池、長崎 中山往路・復路便 新池田港、池田中学校前、奥中山、中山、西中山
対象	65歳以上の高齢者及び障害者手帳所持者
経費	H26:4,231(千円)

1.6 観光

・主な観光施設は島の南部に点在している。島内での移動手段はマイカーが64%で、路線バスは17%にとどまっている。
・ただし、観光客数については、毎年100万人程度で推移していたものが、瀬戸内国際芸術祭を開催した2013年は112.6万人に増加。
期間中の路線バスの平均利用者数は、期間外の約2.6倍となっている。



▲主要観光施設の入込客数（2008年）



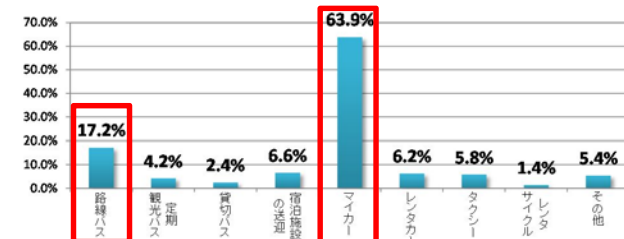
出典）香川県観光客動態調査報告概要より

▲観光客数の推移



資料：小豆島オービスバス(株) (2013.3/20～11/4)
(うち期間中：3/20～4/21、7/20～9/1、10/5～11/4)

▲芸術祭期間における日平均利用者数（芸術祭線）



出典）H19 アンケート調査（小豆島のバス交通活性化報告書 2007 年四国運輸局）

▲観光客の島内での移動手段

2. 上位計画の整理

2.1 土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10）

【基本目標】

（１）重要業績評価指標（KPI）を重視した目標設定

- ・国の「総合戦略」では、政策の「基本目標」を明確に設定し、それに基づく適切な施策を内容とする「政策パッケージ」を提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組み（PDCAサイクル）を確立しています。
- ・本町においても「土庄町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」が示す人口・経済の中長期展望を踏まえ、実現すべき重要業績評価指標（KPI）を重視した数値目標を設定します。

（２）４つの「基本目標」

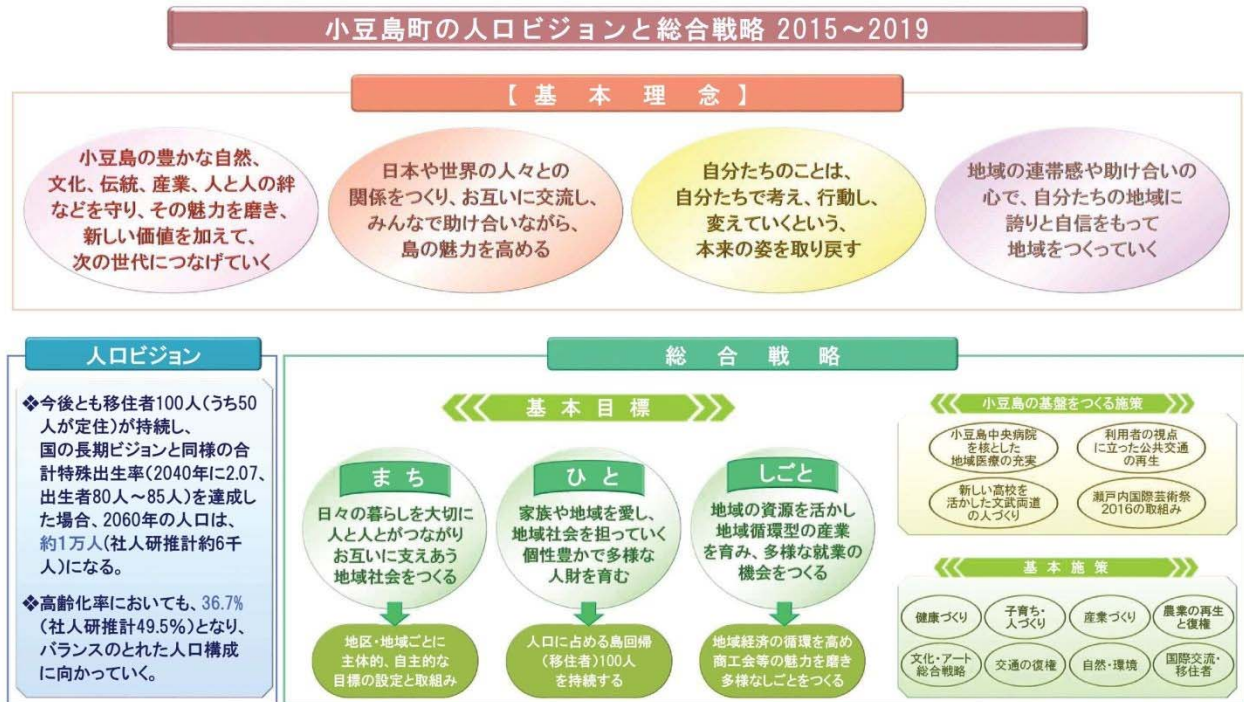
- ・国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「長期ビジョン」を踏まえ、４つの基本目標を設定しています。
- ・「土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、国の基本目標を勘案し、本町の实情に合わせた基本目標を次のように設定します。

土庄町の 基本目標	<基本目標①> 人の流れを創る
	<基本目標②> 魅力ある産業を創る
	<基本目標③> 子育てを楽しめる環境を創る
	<基本目標④> 時代に合った住みやすいまちを創る

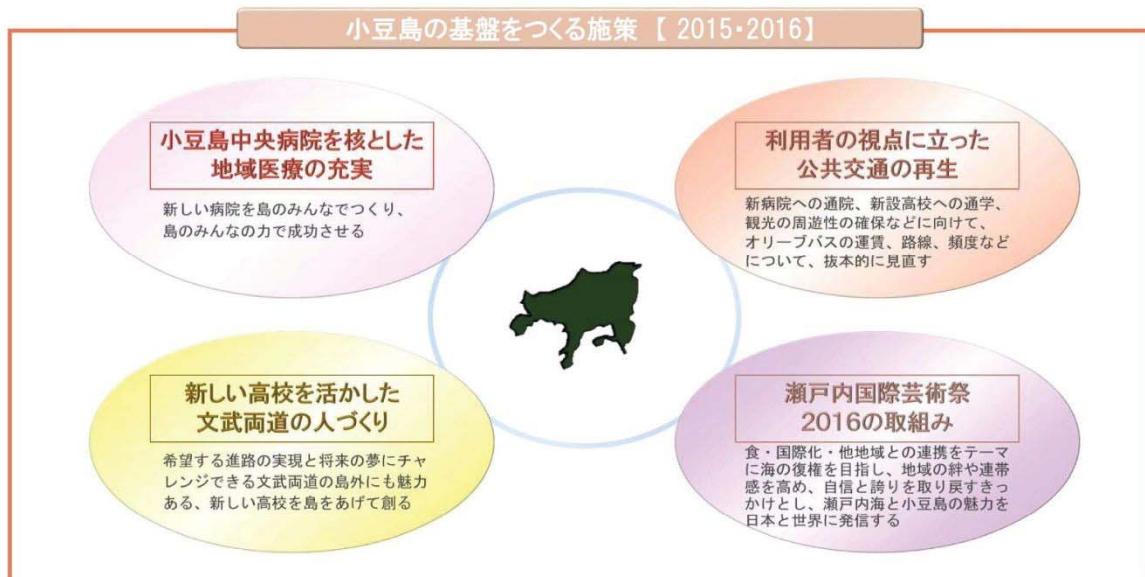
【基本的方向と具体的施策】

基本目標	施策の基本的方向	具体的な施策	基本目標	施策の基本的方向	具体的な施策
1. 人の流れを創る	(1) 交流人口の増加による賑わいづくり	I. 観光の振興 ①地域資源等を活用した新たな魅力づくり ②周遊性向上による観光利便性強化 ③体験型観光の推進 ④インバウンドによる新たな需要創出	4. 時代に合った住みやすいまちを創る	(1) 安心・安全・安定のまちづくり	①医療体制の整備 ②高齢者の健康寿命延伸 ③安心できる生活基盤の整備 ④官民協働の地域活動推進 ⑤まちづくりを担う人材の確保
		II. 島外からの交流促進 ①大学等学校との連携による交流創出 ②多様な滞在プログラムの充実 ③交流拠点の整備			
2. 魅力ある産業を創る	(2) 移住・定住による流入人口の増加	①移住促進 ②定住促進		(2) 既存ストックの有効活用	①行政ストックを活用した総合戦略の推進 ②民間ストックを活用した総合戦略の推進
				(3) 連携中枢都市圏による広域連携の推進	①圏域全体の経済成長の牽引 ②高次の都市機能の集積・強化 ③圏域全体の生活関連機能サービスの向上
3. 子育てを楽しめる環境を創る	(1) 結婚から子育てまでの切れ目ない支援	①産業振興による生産性向上支援 ②農畜水産物の消費促進 ③担い手の確保	本計画に特に関連する項目		
		①結婚支援 ②子育て支援 ③教育環境の充実 ④環境整備			
	(2) ワークライフバランスの推進	①新たな雇用を生み出す企業誘致 ②地域経済を牽引する民間事業者への支援			
		①啓発活動の強化 ②子育て支援（再掲） ③働く女性の活躍推進			

2.2 小豆島町の人口ビジョンと総合戦略2015～2019（H27.10）



小豆島町の総合戦略の「小豆島の基盤をつくる」施策

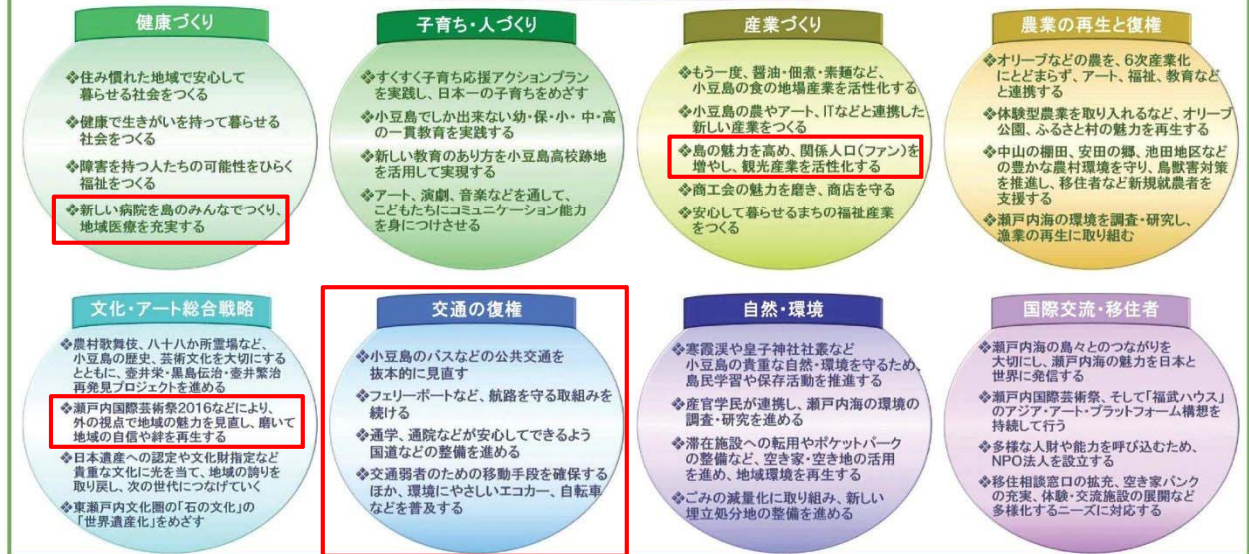


 本計画に特に関連する項目

小豆島町の総合戦略の基本施策 2015～2019

基本施策

【小豆島を21世紀の日本と世界の「希望の島」に】



□ 本計画に特に関連する項目

VI「交通の復興」のコンセプトと取り組み

現状

周辺環境の大きな変化は小豆島にとって重要な活性化のチャンス

医療・福祉

H28.4 小豆島中央病院開院

【懸案事項】

- 島民が利用しやすい病院づくりに向けたアクセスの整備(新病院経路等の再編)

観光

H28.3 瀬戸内国際芸術祭開幕

【懸案事項】

- 観光客の視点での周遊性の確保

教育

H29.4 新設公立高校開校

【懸案事項】

- 始業時間等に合わせたダイヤの改正及び増便

課題

- 小豆島中央病院の運営は、小豆島2町の自治体運営の生命線となっている

- 人口減少社会の中、「観光小豆島」にとって、交流人口の拡大は必要不可欠

- 人づくりの原点である県立高校のレベルアップを図る(教育は島で完結させる)

- 公共のアクセス整備(交通弱者の外出支援、高校への通学、新病院への通院、観光の周遊性確保)

- 高齢者等の交通弱者の外出支援、交通安全対策
- 航路の維持

- 車社会からの脱却
- 家計負担・利用者負担の軽減

コンセプトと取り組み

『負の連鎖』で積み重ねられたバス運賃を抜本的に見直す

公共交通の抜本見直しは、小豆島の浮沈をかけた未来に向けた投資である！
『公共交通が優良な観光資源となり、医療・福祉、教育が自立するための経済基盤となる。』

航路の維持・利便性が高く 低料金の路線バスの実現 は、地方創生の必須要件！

2.3 都市計画区域マスタープラン（土庄・内海都市計画区域）（H24.10）

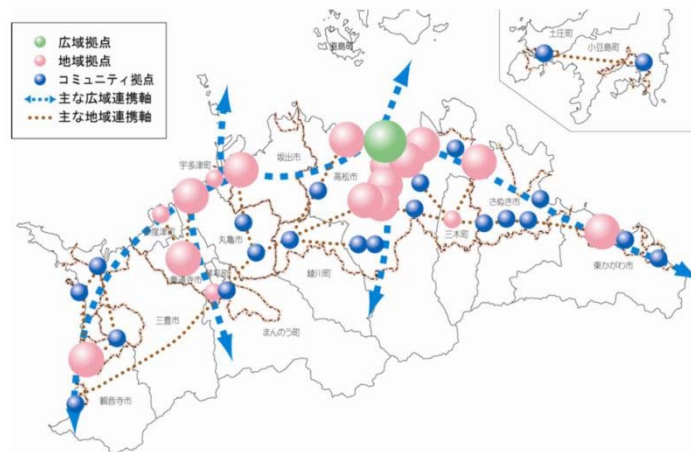
（１）都市づくりの方針および基本理念と目標

■都市づくりの基本理念

豊かな自然に包まれ、ゆとりと活力にあふれた成熟都市

■都市づくりの目標

生活利便性と良好な環境を兼ね備えた持続可能な都市圏の形成
安全・安心で快適な都市の形成
地域の素材を活かした、魅力的なまちの形成
地域に育まれた資源の次世代への継承
新たな連携によるまちづくり



▲香川県における集約型都市構造のイメージ

（２）交通施設の都市計画の決定の方針

■基本方針

産業や観光振興に資する広域交通や、集約拠点の形成を支援する交通ネットワークの形成の促進、また、超高齢社会に対応するとともに、地球温暖化防止に寄与する低炭素社会の実現に向けて、環境負荷が小さく、人や環境にやさしい交通体系の構築を目指します。

■交通体系の整備の方針

a 広域交通体系の拡充

- ＊高松や阪神方面へのアクセス機能を強化する海上交通の維持・拡充
- ＊災害時などの、救援や復旧・復興活動を支援するための、道路の防災対策の強化と、安全で確実な道路ネットワークの形成

b 集約型都市構造の形成を支援する交通体系の整備

- ＊集約型都市構造の実現に向け、集約拠点を形成し、維持するための拠点間や拠点へのアクセスを強化する道路ネットワークの整備
- ＊日常生活を支える自転車歩行者道、公共空間の拡充やバリアフリー化による、安全性・利便性・快適性の高い交通空間の形成

c 持続可能な公共交通体系の形成

- ＊バス路線のサービス向上を図り、持続可能な公共交通体系の形成に努める
- ＊低炭素社会を実現していくために、緑豊かで快適な歩行者空間や、環境負荷の低い自転車を利用しやすい交通環境の整備により、交通行動の転換を促進

土庄都市計画区域マスタープラン方針図



内海都市計画区域マスタープラン方針図



2.4 香川県離島振興計画（H25～H34年度）（小豆島地域振興計画）（H25.4）

（１）振興の基本方針

瀬戸内国際芸術祭を契機とした観光客等による交流人口の増加を継続しつつ、道路・港湾・漁港・農道等基盤施設の整備を行うとともに、医療・教育分野等における環境整備や遊休施設等の有効活用を図るほか、航路・島内交通等による交通利便性等を維持・向上できるように努めることにより、各島の産業の活性化並びに雇用機会の拡大等を行うことで今後より一層、本地域における移住及び定住促進を図っていく。

（２）具体的施策（抜粋）

①交通の確保

土庄町では、航路の維持や安全かつ安定的な輸送の確保、運賃の低廉化及び利用促進の実施に努める。また、本土と比べ、物資の輸送にも費用が多くなる状況であるため、流通の効率化など物資の流通に要する費用の低廉化に向けた取組を促進する。

さらには、島内における住民の重要な移動手段である路線バスの維持及び利用促進策等を実施するとともに、道路、港湾及び漁港施設等のインフラ整備についても、順次実施していく。

航路の維持や利便性の向上は、地域振興活動にとって不可欠なものであり、住民は単に利便性の受益者として、航路について行政や航路事業者に対する要望者の立場にとどまらず、航路の経営改善に向けて直接・間接的に主体性をもった関与が求められている。

このため、航路の維持と地域維持という大きな目的をもった視点に立って事業者、住民、行政の三者が参加する意見調整・交流の場づくりから出発して、イベント、ビジネス、島内観光振興など外への働きかけも含めた経営改善方策を検討する。

小豆島町においても、住民にとって欠くことのできない航路については、維持及び安定的な輸送の確保、さらには利用しやすいダイヤや運賃の低廉化など、利用促進策の向上に努める。

また、他地域と比べ、物資の輸送にも多くの費用がかかる状況であることから、費用の低廉化に向けた取組を促進し、流通の効率化を図る。

島内唯一の公共交通路線バスについては、島民や観光客等の利便性の向上を図るため、新病院の建設や県立高校の統合計画等にあわせ、交通体系の見直しに向けた各種対策を講じていくとともに、利用促進策についても、地域の実情に応じた支援を行い、島内における重要な移動手段である路線バスの維持確保に取り組む。なお、道路、港湾等のインフラ整備についても、必要に応じて順次実施する。

②高齢者福祉の増進

本地域における高齢者の医療及び介護需要などの多様なニーズに配慮しつつ、高齢者が安心して自立した生活を送ることができるように支援する。

公立病院の統合及び小学校の統廃合に伴う土庄中央病院や各小学校の跡地について、福祉施設等として利用するなど、有効な活用策の検討を行う。また、新しい病院の建設に伴い、交通弱者である高齢者の移動手段の確保が不可欠であり、その研究調査を進めるとともに、買い物支援、外出支援等の対策も検討する。

2.5 香川せとうちアート観光圏整備計画（H27.3）

（１）観光圏の区域

「香川せとうちアート観光圏」は、観光圏整備法に基づく観光圏として、平成22年4月28日に国土交通大臣の認定を受け、香川県と8市9町が一体となって、2泊3日以上滞在型観光の推進に取り組んでいる。

香川県 高松市 丸亀市 坂出市 善通寺市 観音寺市 さぬき市 東かがわ市 三豊市
土庄町 小豆島町 三木町 直島町 宇多津町 綾川町 琴平町 多度津町 まんのう町

（２）小豆島滞在促進地区

【区域】土庄町土庄港周辺、小豆島町草壁・坂手・池田港周辺

【設定理由】琴平、塩江と並び本観光圏の三大温泉郷の一つで、圏域内有数の宿泊施設集積地区である。

岡山県の新岡山港や日生港、兵庫県の神戸港や姫路港と定期航路で結ばれており、本観光圏の海の玄関口の一つとしての機能を有している。また、地区内の4つの港と高松港はフェリーや高速艇で結ばれており、とりわけ土庄港と高松港間には、所要時間30分の高速艇が1日16往復運航されているなど、離島ではあるが、圏域内を周遊する観光客にとっての利便性は非常に高い。

地区内には、小説「二十四の瞳」の舞台となった「岬の分教場」や、映画のロケで使用されたセットを公開している「二十四の瞳映画村」、「ミシュラン・グリーンガイド四国WEB版」一つ星の「寒霞溪」、日本のオリーブ栽培発祥の地「道の駅小豆島オリーブ公園」、「銚子溪」など数多くの観光名所や景勝地があり、県内外から年間100万人を超える観光客が訪れる、本圏域を代表する観光地の一つである。加えて近年は、「豊島美術館」や「豊島横尾館」、「美井戸神社とANGER from the bottom」など「瀬戸内国際芸術祭」を契機としたアート資源や、若い女性層を中心に人気を集めている「エンジェルロード」、昔からの町並みや地場産業を活用し、地元が一体となって取り組んでいる「迷路のまち」や「醬の郷」など、新たな観光資源も生まれてきており、また、小豆島観光ボランティアガイドクラブによる観光スポットでのガイドも行われているなど、今後、より一層発展していくポテンシャルを秘めている。

また、地区内では、NPO 法人やボランティアガイド協会などが、春、夏、秋毎に計24コースのまち歩きツアーを実施しており、今後、圏域内の他地区と連携することにより、圏域横断型の滞在型プログラムへと展開していくことが可能である。こうしたことから、この地区を「主たる滞在促進地区」に設定し、本圏域の滞在促進の中核として展開する。

【宿泊施設数】64施設（収容人数 約5,500人）

（３）観光圏整備計画の目標

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ①来訪者の満足度・旅行消費額、 | ②平均宿泊日数・延べ宿泊者数、 |
| ③滞在プログラム（まち歩き）参加者数、 | ④その他の目標 |

（４）計画期間

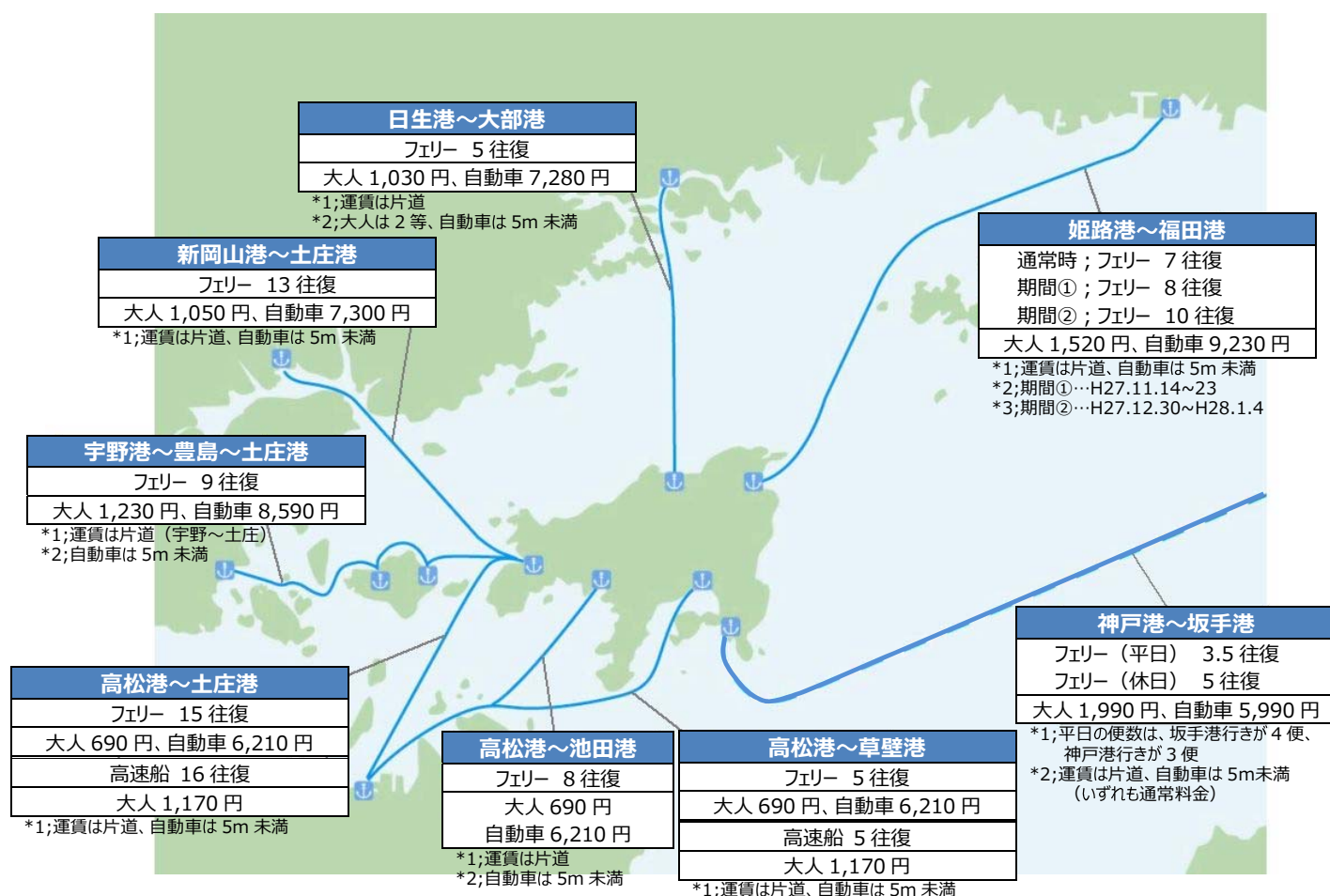
平成27年度から31年度（5箇年）

3. 公共交通の現状等

3.1 航路の状況

- ・小豆島には空路が存在しないため、「船でしか渡れない離島」としては国内最大の人口を有する島である。
- ・小豆島の主要拠点と高松市とを連絡する、土庄港・池田港・草壁港～高松港航路については、1日に49往復のフェリー・高速船が運航する。高松側のバースが限られているため、運航時刻の変更が難しい状況である。
- ・宇野港～土庄港航路については、豊島を経由して、フェリーと旅客船とが交互に運航している。豊島に居住する学生の通学手段としての利用も見られる。
- ・その他、土庄港～新岡山港、大部港～日生港、福田港～姫路港と岡山・関西方面への航路も就航している。

⇒6つの港を玄関口として、高松方面及び岡山・関西方面に1日81往復の船が運航。



出典 ; 各社HPより (2015.11月現在)

3.2 路線バスの状況

1) 運行状況

- ・小豆島オリーブバスが島内全域に運行している。
- ・運賃は距離制で、最大1,180円（土庄港～福田港）。



2) 利用状況

- ・路線バスの平均利用者数は、以下のとおり。
- ・島内の主要施設と観光施設が点在する坂手線・田ノ浦線及び南廻り福田線の利用者数が多い。

路線名	系統 キロ程	1日当たり 運行回数	年間 運行日数	年間 輸送人員	平均 輸送人員	実車 走行キロ
坂手線（土庄港FT～坂手東）	19.2 Km	14.0回	366日	115,630人	11.3人	196,688.4 Km
田ノ浦線（土庄港FT～坂手東）	26.8 Km	3.0回	366日	44,164人	20.1人	58,596.6 Km
南廻り福田線	28.7 Km	9.0回	366日	70,765人	10.7人	189,002.4 Km
北廻り福田線	28.8 Km	9.0回	366日	44,414人	6.7人	189,734.4 Km
大鐸線	8.7 Km	5.0回	366日	10,998人	3.0人	31,842.0 Km
三都線	17.1 Km	6.8回	366日	21,263人	4.3人	85,148.4 Km
四海線	11.1 Km	5.0回	366日	11,084人	3.0人	40,626.0 Km
西浦線	10.4 Km	5.0回	366日	16,519人	4.5人	38,064.0 Km
小部線	18.4 Km	.5回	366日	1,553人	4.2人	6,734.4 Km
神懸線	6.5 Km	4.3回	142日	7,743人	6.3人	8,164.0 Km

3) 年間収支

- ・小豆島オーリーブス(株)の決算状況は以下のとおり。
- ・経常利益については、毎年、約22,000千円の赤字となっており、小豆島の路線バスは、国県町による補助によって、維持・確保されている状況である。

▼決算状況

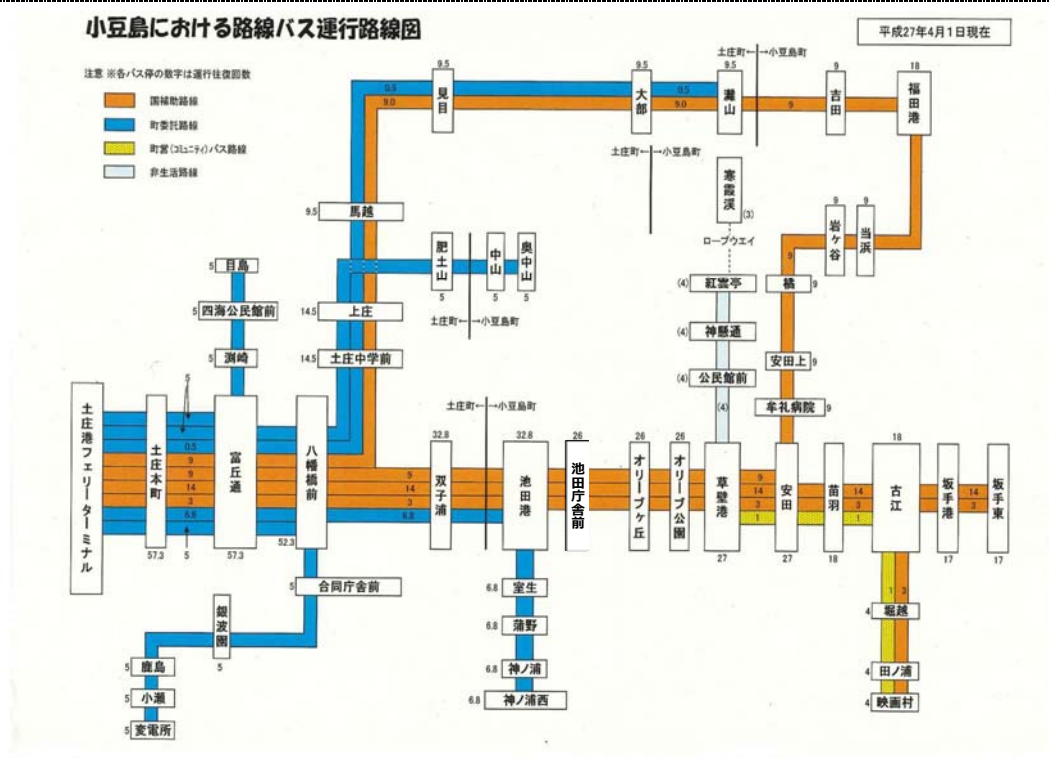
(単位 ; 1,000円)

区分	項目	第3期 (H23.10.1~H24.9.30)	第4期 (H24.10.1~H25.9.30)	第5期 (H25.10.1~H26.9.30)	備考
1.	売上高	168,000	189,100	177,800	
	1)売上高	113,200	140,200	129,600	
	2)業務委託収入	46,000	43,800	43,600	スクール
	3)その他売上	8,800	5,100	4,500	
2.	売上原価	31,100	37,800	37,400	
	1)燃料油脂費	29,800	35,900	35,700	
	2)回転手数料	500	600	600	
	3)外注庸車費	800	1,200	1,100	
	売上総利益	137,000	151,300	140,400	
3.	販売費及び一般管理費	160,500	174,000	162,500	
	1)給与手当等	109,700	115,800	117,200	
	2)消耗品費	2,300	1,600	1,000	
	3)賃借料	7,300	7,600	7,400	
	4)保険料	1,800	1,800	2,200	
	5)車両修繕費	18,100	19,800	16,200	
	6)施設修繕費	0	300	100	
	7)租税公課	2,700	1,900	2,200	
	8)減価償却費	11,500	18,100	9,300	
	9)その他諸経費	4,200	4,200	4,500	
	10)システム保守料	1,300	1,400	1,400	
	11)雑費	1,600	1,600	1,100	
	営業利益	-23,600	-22,700	-22,100	
4.	営業外利益	2,000	1,400	900	
5.	営業外損失	100	900	900	
	経常利益	-21,600	-22,100	-22,100	
6.	特別利益	31,600	25,000	32,800	
7.	特別損失	400	13,000	0	
8.	法人税・住民税及び事業税	1,700	200	300	
	当期純利益	7,900	-10,200	10,400	

出典 ; 小豆島オーリーブス(株)資料より

4) 路線バスの運行形態

- ・小豆島における路線バスの運行形態は以下のとおり。
- ・坂手線及び北廻り・南廻り福田線は国庫補助路線であり、小部線、大鐸線、四海線、三都線、西浦線は町委託路線。



出典) 土庄町・小豆島町資料

▲路線バス運行形態・本数(2015年4月現在)

5) その他 利用促進策

- ・その他、土庄町・小豆島町及びバス事業者が実施している利用促進策は以下のとおり。

【土庄町】

1. バス利用促進

- ①職員出張時の土庄港までの交通費を回数券で支給。
・150～80円券を準備 ⇒183千円
- ②利用促進の啓発 毎月、町広報により周知。

2. 高齢者運転免許自主返納支援事業

開始時期；平成23年4月1日
 支給内容；①IruCaカード1万円分を支給
 ②写真つき住民基本台帳カードの交付
 (手数料免除)
 ③豊島地区限定；航路回数券及び
 IruCaカード 合計1万円分支給
 申請者数；37名(H27.3.28現在)

3. 豊島地区における電動アシスト自転車の運用

実施概要；設置台数40台 1日4時間以内 1,000円
 利用実績(H26年度)；稼働日数 276日
 利用人数 4,866人
 (平均17.6人/日)

【オーリーブバス】

1. 神懸線の運行期間延長

・運行日数拡大(年間166日)、春の運行便数4便⇒6便

2. 各バス停の時刻表変更(文字を大きく)

3. 路線バスの時刻表及び運賃表を作成

【小豆島町】

1. バス利用促進

- ①マイカー通勤者に対する路線バス利用への転換呼びかけ。
・23名が定期利用(H27.2月末現在) ⇒4,224千円
- ②毎週水曜日を「ノーマイカーデー」に設定。
・35名が参加(H27.2月末現在) ⇒892千円

2. 高齢者運転免許自主返納支援事業

開始時期；平成23年4月1日
 支給内容；①バス回数券(月2冊)または
 IruCaカード6,000円分を3年間支給
 ②写真つき住民基本台帳カードの交付
 (手数料免除)
 申請者数；60名(事業開始から262人)
 支援金額；8,361千円

3. 路線バス利用促進活動補助金交付事業

対象事業；①地元商店とタイアップした企画切符の発行等
 ②イベントを活用した路線バスの利用促進
 ③通勤時等利用促進活動
 ④交通結節点における施設提供(待合所等)
 ⑤その他、路線バス利用促進に効果的な事業
 補助金額；①～③ 対象経費の1/2(10万円を限度)
 ④ 駐車場(1台分につき年間2万円)
 駐輪場・待合所(1ヶ所につき年間2万円)
 ⑤町長が必要と認めた額

申請件数；2件
 補助金額；60千円

3.3 路線バスアンケート（住民アンケート）

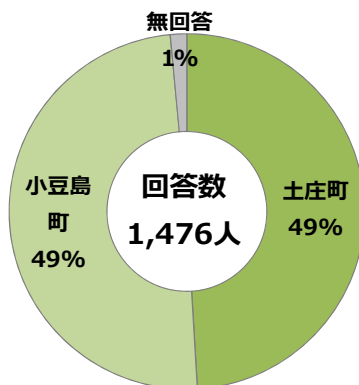
1) 調査概要

- ・路線バスに係る住民の方の意見を把握するため、以下のアンケート調査を実施した。
- ・対象は土庄町・小豆島町の住民とし、アンケート票の郵送配布・郵送回収方式により調査を依頼した。
（※住民基本台帳より、5,000人を無作為抽出。ただし、地区別に抽出割合は考慮。）
- ・回答数は1,476票であり、回収率は30%であった。・回答者の居住地は、土庄町・小豆島町のそれぞれで約半数ずつであり、男女比は、男性 約4割、女性 約6割であった。年代は、60代以上の方が6割を占めた。

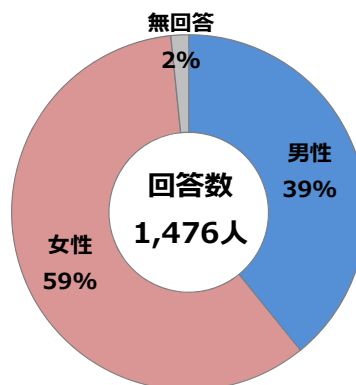
▼住民アンケート調査概要

項目	内容
対象者	土庄町・小豆島町在住の住民 (サンプル調査)
調査時期	2015年7月
調査方法	郵送配布、郵送回収 (+各公民館における据置調査)
配布・ 回収票数	5,000票配布 1476票回収 (回収率30%)

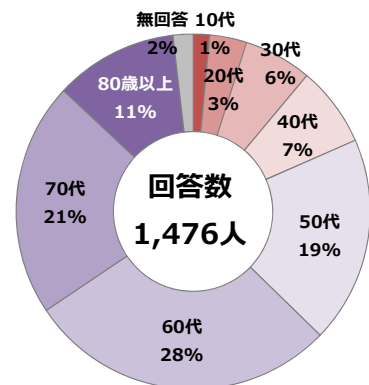
▼回答者属性（町別）



▼回答者属性（性別）



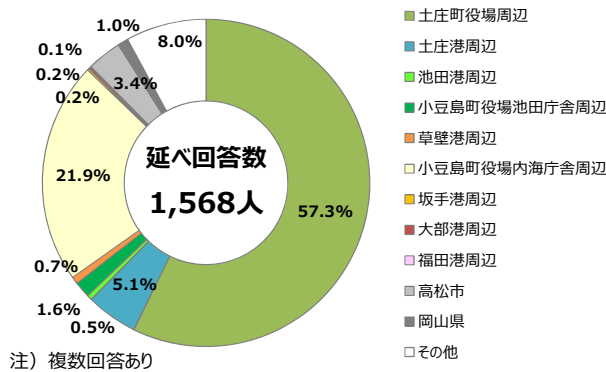
▼回答者属性（年代）



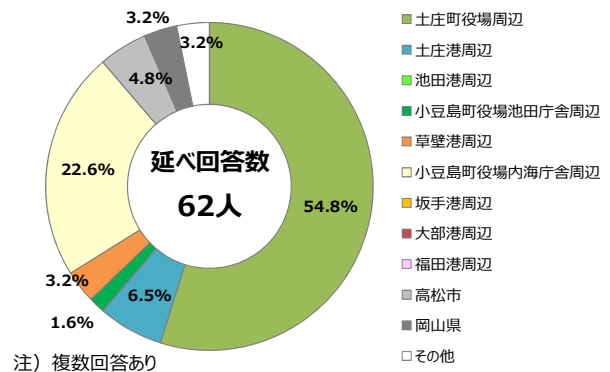
2) 買い物行動

【主な目的地】

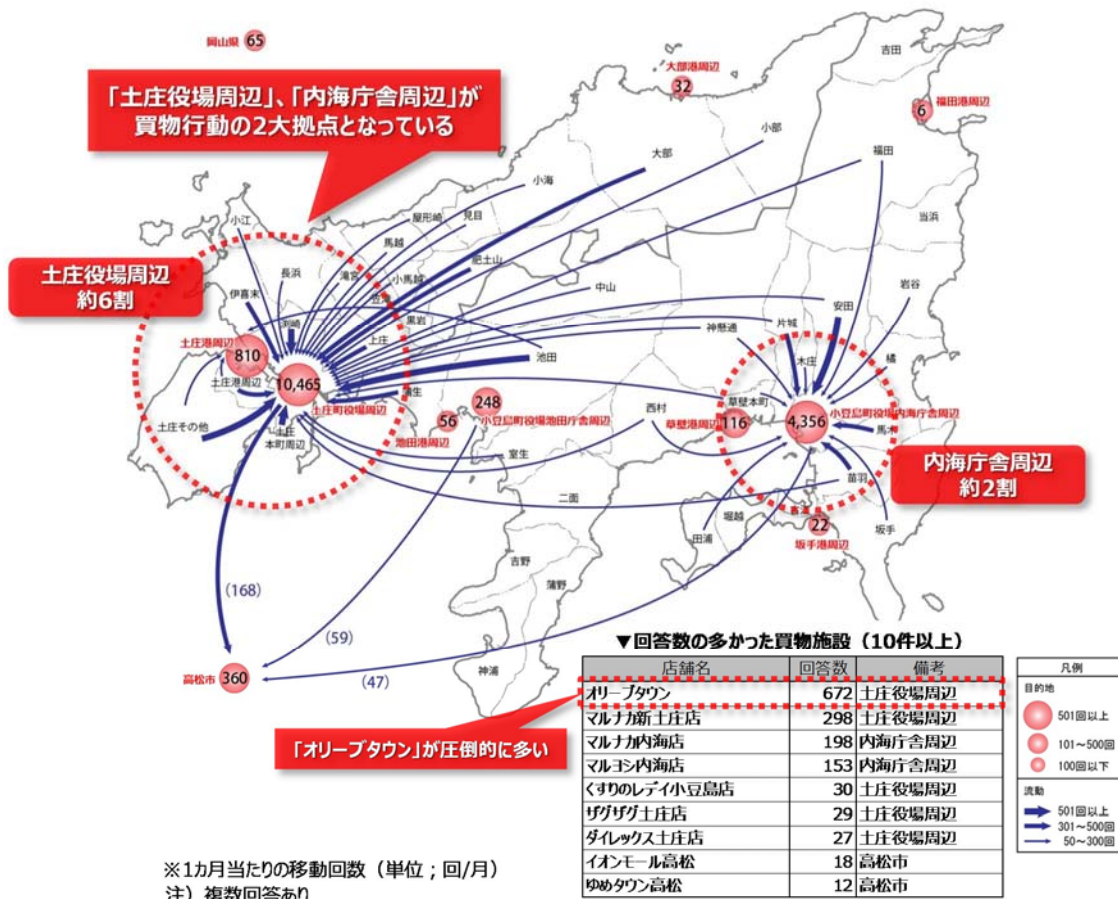
- ・回答者の「買い物」行動の主な目的地は、「土庄役場周辺」が約6割、「内海庁舎周辺」が約2割強と多い。
- ・居住地別の流動をみると、土庄町及び池田地区の方は「土庄役場周辺」へ、内海地区の方は「内海庁舎周辺」へ集まっており、最寄りの地域拠点で主に買い物をしていることがうかがえる。
- ・現在のバス利用者の方の回答は、全手段の約4%程度であるが、買い物先の傾向は全手段と同様である。



▲「買い物」の目的地（全手段）



▲「買い物」の目的地（バス利用のみ）

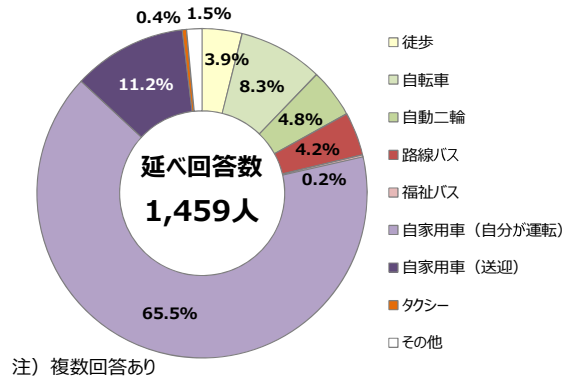


▲「買い物」の目的地と主な流動（全手段）

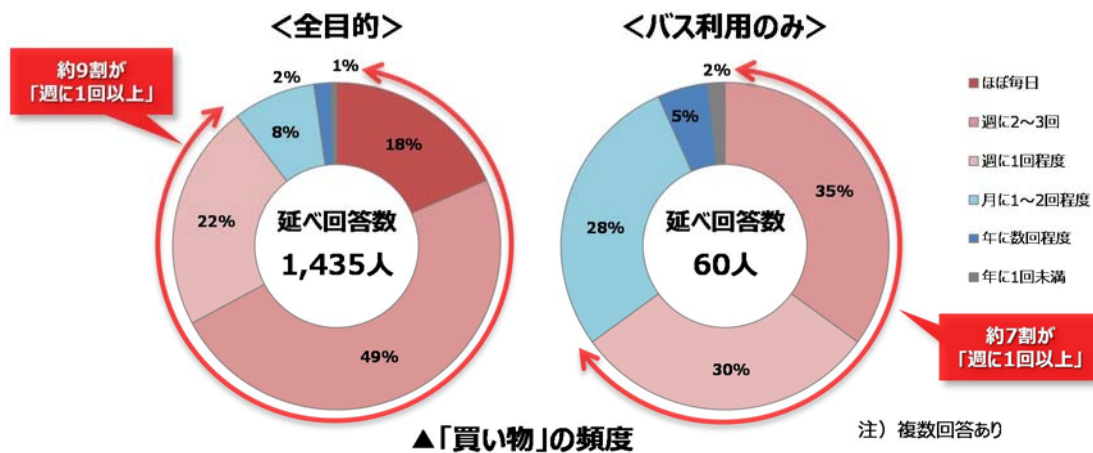
2) 買い物行動

【利用交通手段】

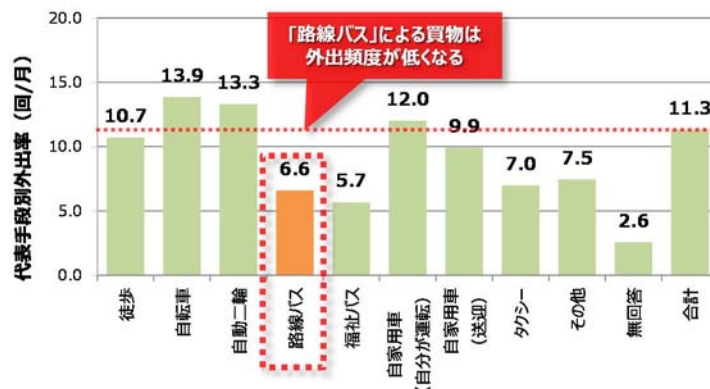
- ・「買い物」行動の利用交通手段は、「自家用車（自分が運転）」が6割以上と多く、「路線バス」は4%程度しかない。
- ・全手段における「買い物」の頻度は高く、「週に1回以上」買い物に出かける人が約9割を占める。
ただし、これをバス利用者の方についてみると、「ほぼ毎日」の方はおらず、「週に2～3回」が約4割弱、「週に1回程度」が約3割、「月に1～2回程度」についても約3割と回数頻度が低くなっている。
- ・交通手段別の外出頻度をみると、全体平均が11.3回/月であるのに対し、路線バスでは6.6回/月となっている。



▲「買い物」行動の利用交通手段



▲「買い物」の頻度

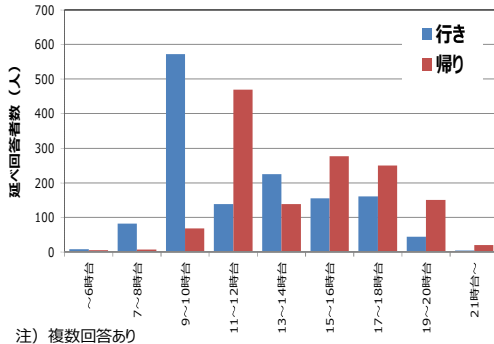


▲交通手段別外出頻度（買い物）

2) 買い物行動

【時間帯】

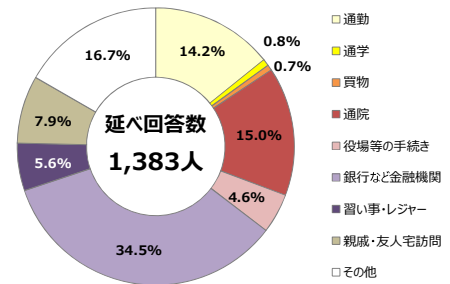
- ・「買い物」の時間帯は、行きは「9～10時台」が最も多いが、それ以降の時間帯でも出かけている。帰日も同様に、「11～12時台」が最も多いが、それ以降の時間帯に帰られている方もいる。
- ・一方、バス利用者の方でみると、行きは「9～10時台」がほとんどであり、帰日も「11～12時台」が最も多い。
- ・「買い物」とあわせて、何らかの用事を済ませる人が約8割以上おり、銀行、通勤、通院などが比較的多い。バス利用者の方についても同様の傾向ではあるが、「買い物+1目的」が多く、銀行、通院が主である。



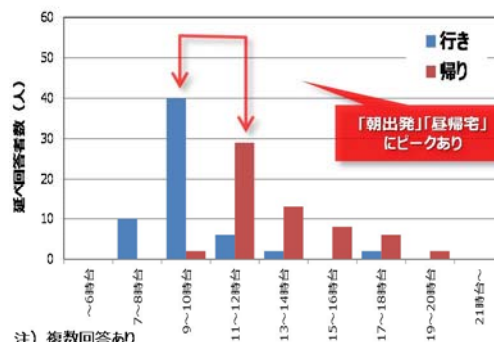
▲「買い物」の時間帯（全手段）

「買い物」のみ	202人
「買い物」+1目的	1,190人
「買い物」+2目的	64人
「買い物」+3目的以上	20人
回答数	1,476人

注) 複数回答あり



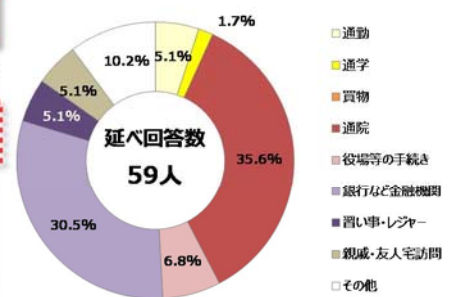
▲「買い物」とあわせて行う行動（全手段）



▲「買い物」の時間帯（バス利用のみ）

「買い物」のみ	7人
「買い物」+1目的	51人
「買い物」+2目的	4人
「買い物」+3目的以上	0人
回答数	62人

注) 複数回答あり

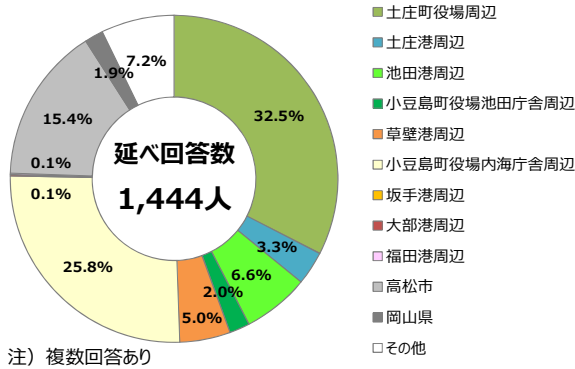


▲「買い物」とあわせて行う行動（バス利用のみ）

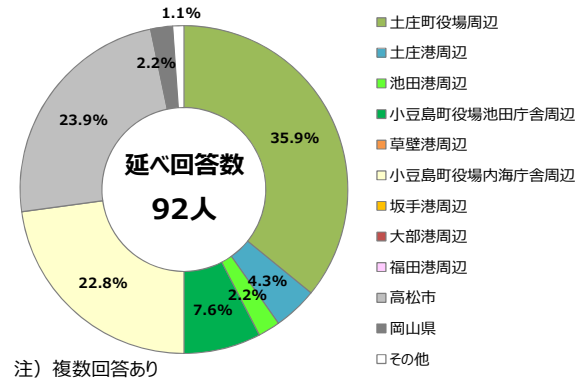
3) 通院行動

【主な目的地】

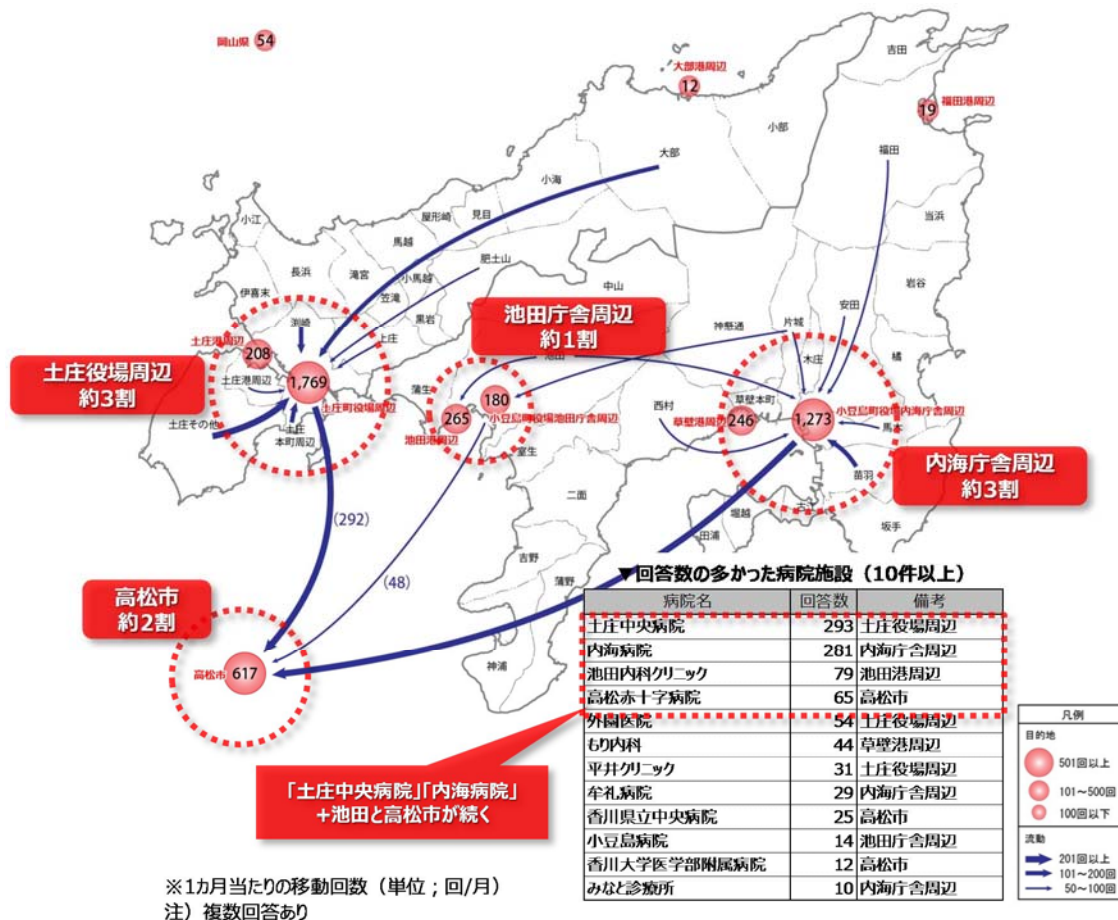
- ・回答者の「通院」行動の主な目的地は、「土庄役場周辺」と「内海庁舎周辺」とが約3割と多いが、「高松市」も約2割と多い。
- ・居住地別の流動をみると、「土庄役場周辺」、「内海庁舎周辺」及び「池田庁舎周辺」を中心とした流動が多い。また、「高松市」への通院も比較的多い。
- ・現在のバス利用者の方の回答は、全手段の約7%程度であるが、「高松市」の割合が全手段に比べ多い。



▲「通院」の目的地（全手段）



▲「通院」の目的地（バス利用のみ）

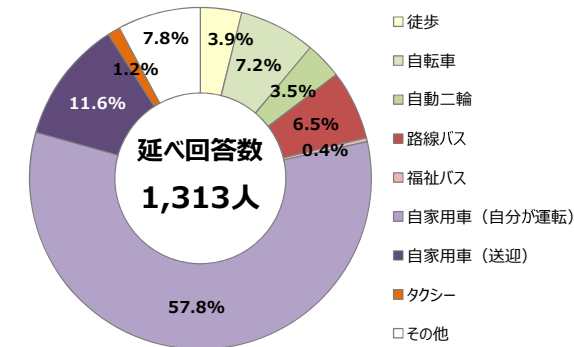


▲「通院」の目的地と主な流動（全手段）

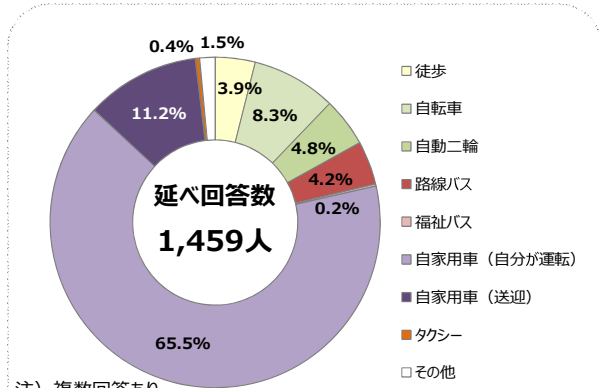
3) 通院行動

【利用交通手段】

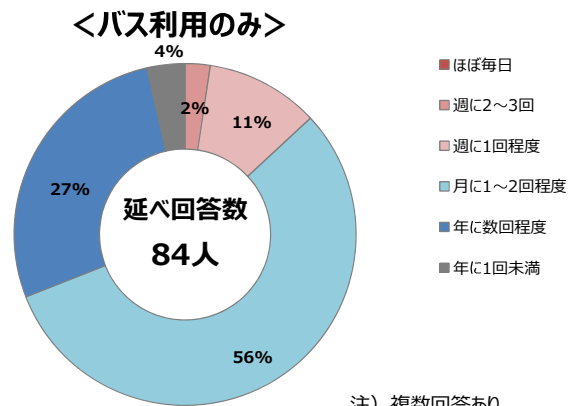
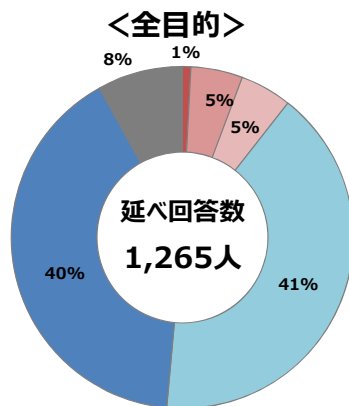
- ・「通院」行動の利用交通手段も、「自家用車(自分で運転)」が6割と多いが、「路線バス」の割合は7%と「買い物」より高い。
- ・全手段における「通院」の頻度は、「月に1～2回程度」、「年に数回程度」が約4割である。
- ・一方、これをバス利用者の方についてみると、「月に1～2回程度」が約6割と増加している。
「年に数回程度」は約3割と全目的に比べやや減少するものの、逆に「週に1回程度」は約1割と増加する。
- ・交通手段別の外出頻度をみると、全体平均が2.9回/月であるのに対し、路線バスでは3.8回/月とやや多くなっている



▲「通院」行動の利用交通手段

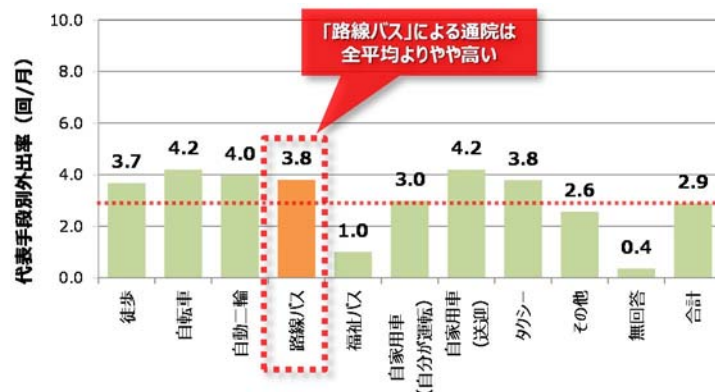


▲再掲；「買い物」行動の利用交通手段



注) 複数回答あり

▲「通院」の頻度

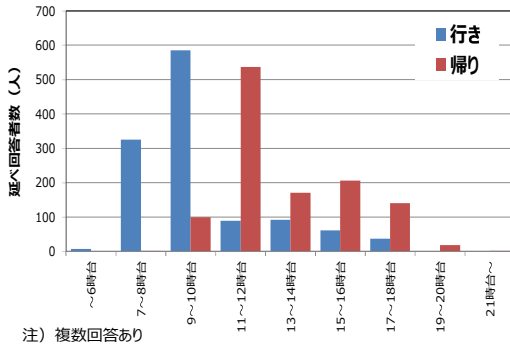


▲交通手段別外出頻度（通院）

3) 通院行動

【時間帯】

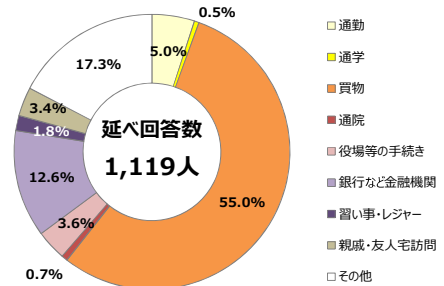
- ・「通院」の時間帯は、行きは「7～8時台」、「9～10時台」と午前中の早い時間からのお出掛けが多い。帰りは「11～12時台」が最も多く、「朝出て昼には帰る」というパターンが多いと思われる。また、バス利用者の方についても、同様の傾向がみられる。
- ・「通院」と合わせて、何らかの用事を済ませる人が約7～8割程度おり、買い物とあわせた行動が多い。バス利用者の方についても同様の傾向である。



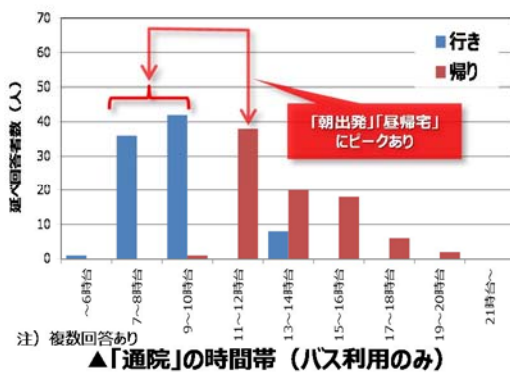
▲「通院」の時間帯（全手段）

「通院」のみ	416人
「通院」+1目的	1,015人
「通院」+2目的	32人
「通院」+3目的以上	13人
回答数	1,476人

注) 複数回答あり



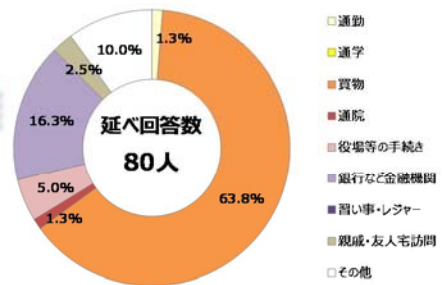
▲「通院」とあわせて行う行動（全手段）



▲「通院」の時間帯（バス利用のみ）

「通院」のみ	13人
「通院」+1目的	67人
「通院」+2目的	6人
「通院」+3目的以上	0人
回答数	86人

注) 複数回答あり

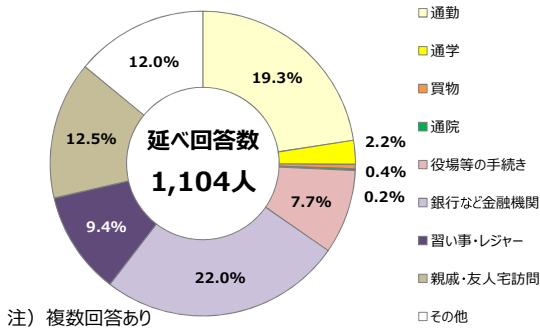


▲「通院」とあわせて行う行動（バス利用のみ）

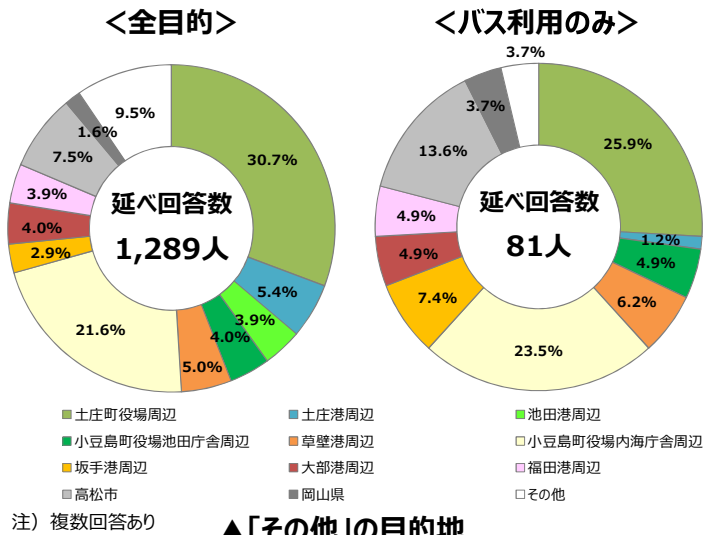
4) その他行動

【主な目的地】

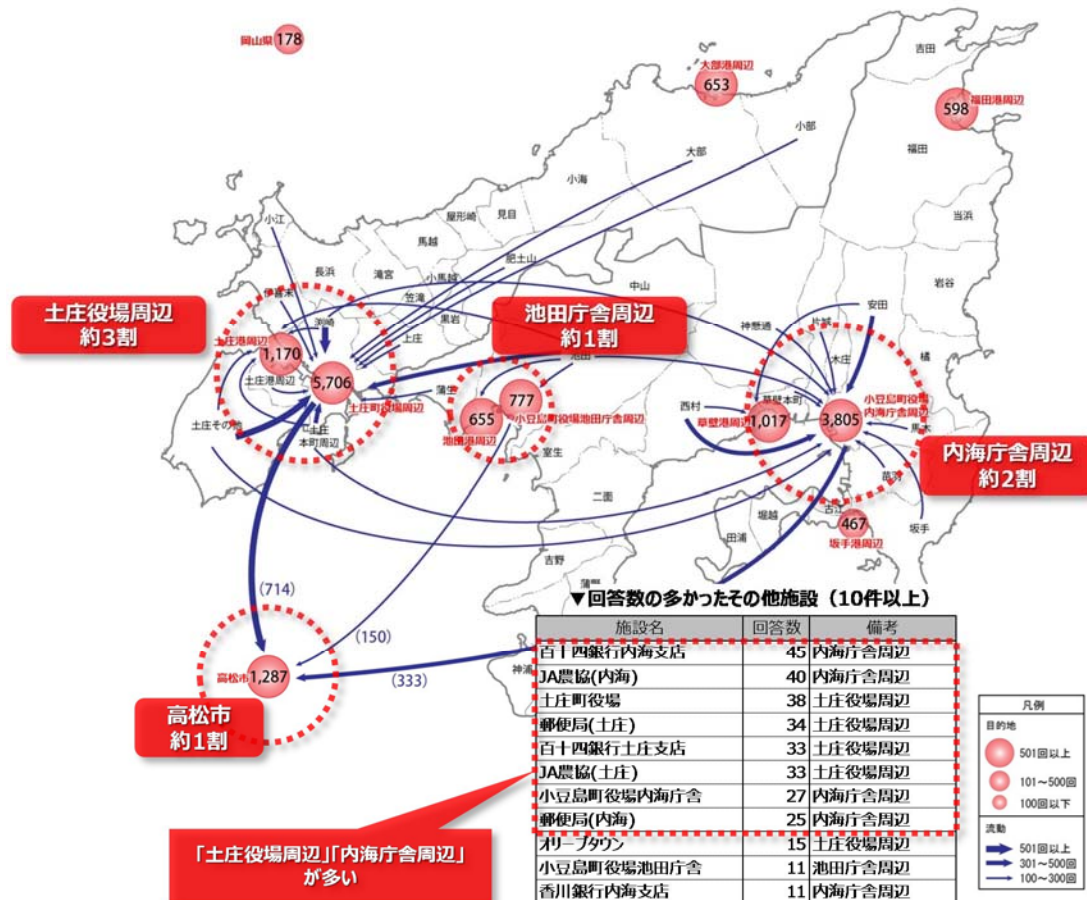
- ・回答者の「その他目的」としては、通勤や銀行が約2割、役場手続や習い事、友人宅訪問などが約1割を占める。
- ・居住地別の流動をみると、「土庄役場周辺」、「内海庁舎周辺」および「池田庁舎周辺」を中心に移動がみられる。また、「大部港周辺」「福田港周辺」を中心とした動きのほか、「高松市」の移動も多い。
- ・現在のバス利用者の方の回答は、全手段の約6%程度であるが、「高松市」の割合が全手段に比べ多くなっている。



▲「その他」の目的内訳



▲「その他」の目的地



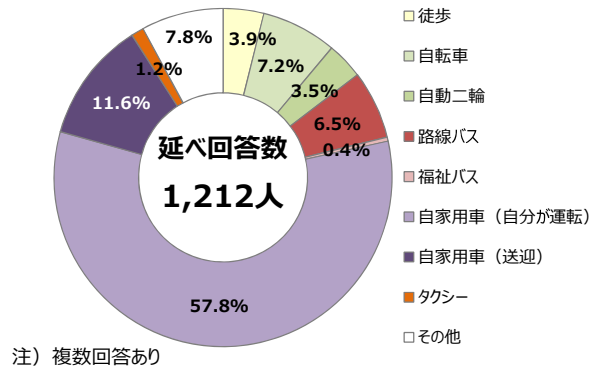
※1カ月当たりの移動回数（単位：回/月）
注) 複数回答あり

▲「その他」の目的地と主な流動（全手段）

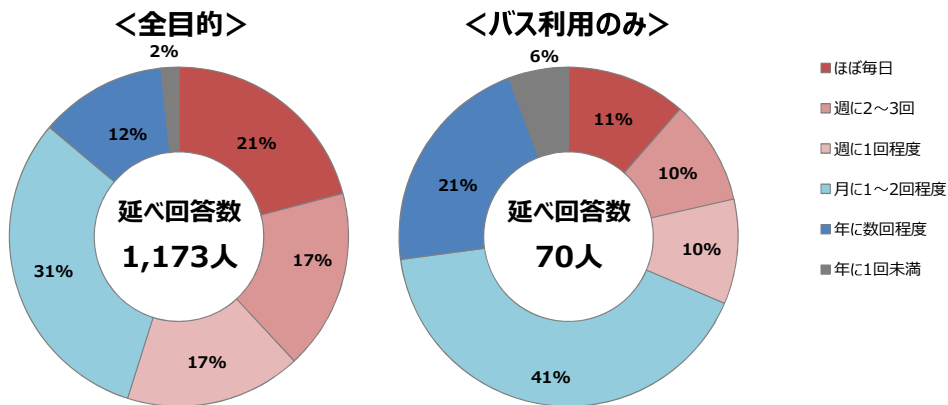
4) その他行動

【利用交通手段】

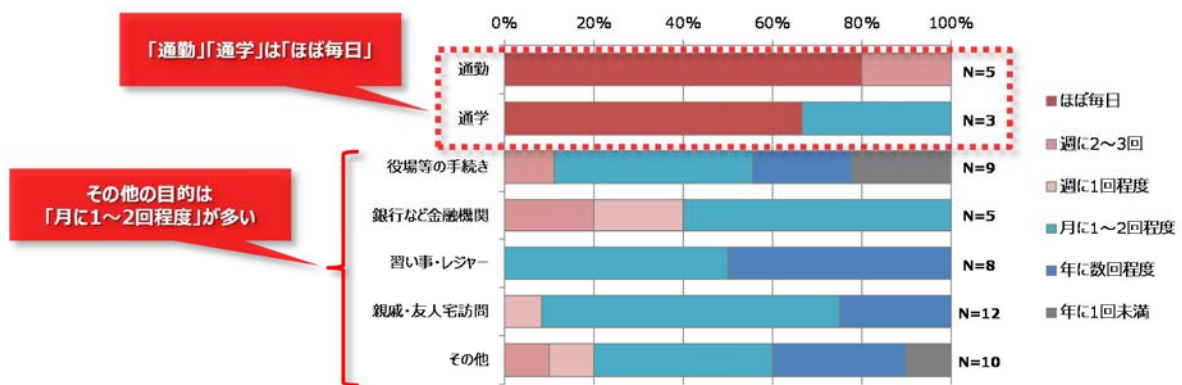
- ・「その他」行動の利用交通手段も、「自家用車(自分で運転)」が多いものの、「路線バス」の割合も6%程度存在する。
- ・頻度についてみると、バス利用者の方では、「ほぼ毎日」は通勤・通学目的である。
また、銀行についても「週に1回程度」以上となっており、比較的使用頻度は高い。
- ・その他の目的は、「月に1～2回程度」となっており、頻度的には低い



▲「その他」行動の利用交通手段



▲「その他」の頻度

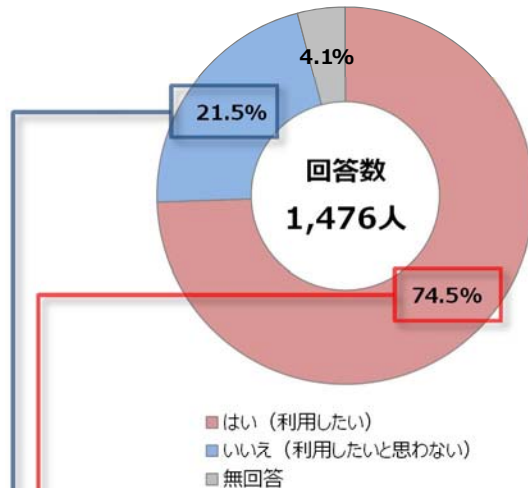


▲「その他」の頻度（バス利用のみ）の目的内訳

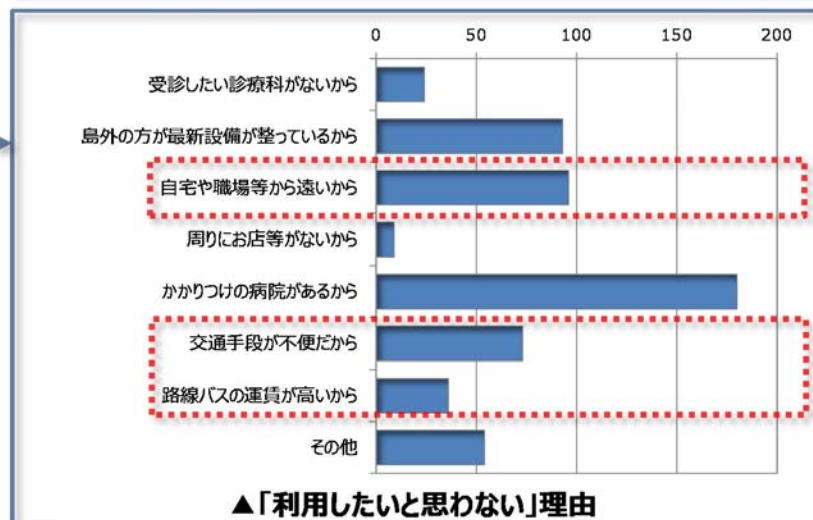
5) 新病院の利用意向

【利用意向】

- ・回答者のうち、新病院の利用意向は全体で7割強である。
- ・利用したい理由としては、「診療内容が充実」、「最新の機器や設備」、「自宅や職場から近い」といった意見が高かったものの、「ついでに用事」については回答数が低かった。
- ・利用したいと思わない理由としては、「かかりつけの病院があるから」が多く、「島外の方が最新設備が整っている」のほか、「自宅や職場から遠い」や「交通手段が不便」など、移動の不便さを挙げている人が多くみられた。



▲新病院の利用意向

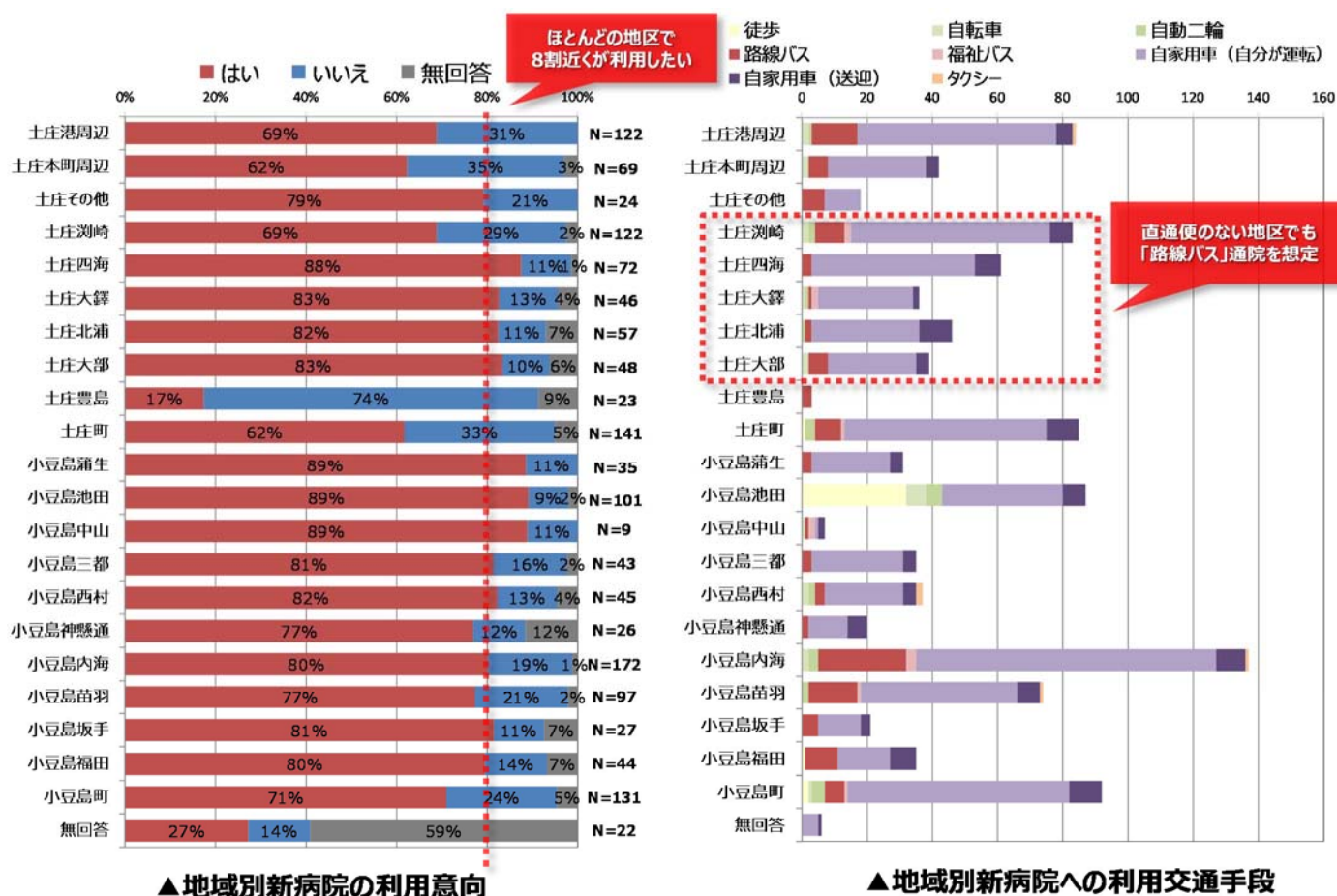


移動の不便さが
利用しない理由
となっている

5) 新病院の利用意向

【地域別利用意向及び利用交通手段（想定）】

- ・新病院の利用意向を地域別にみると、ほとんどの地域で8割近い方が「新病院を利用したい」と回答している。
- ・地域別利用交通手段別にみると、ほとんどが「自家用車(自分で運転)」を想定しているものの、比較的、路線バスが便利である「土庄港周辺」や「小豆島内海」では、「路線バス」を想定している人が多い。
- ・また、現在、直通便の無い「土庄町湊崎～大部」についても、「路線バス」による通院を想定されている方がいる。

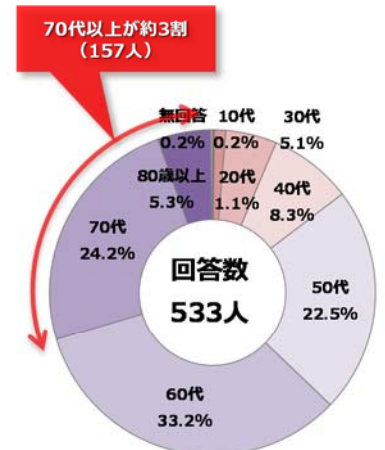
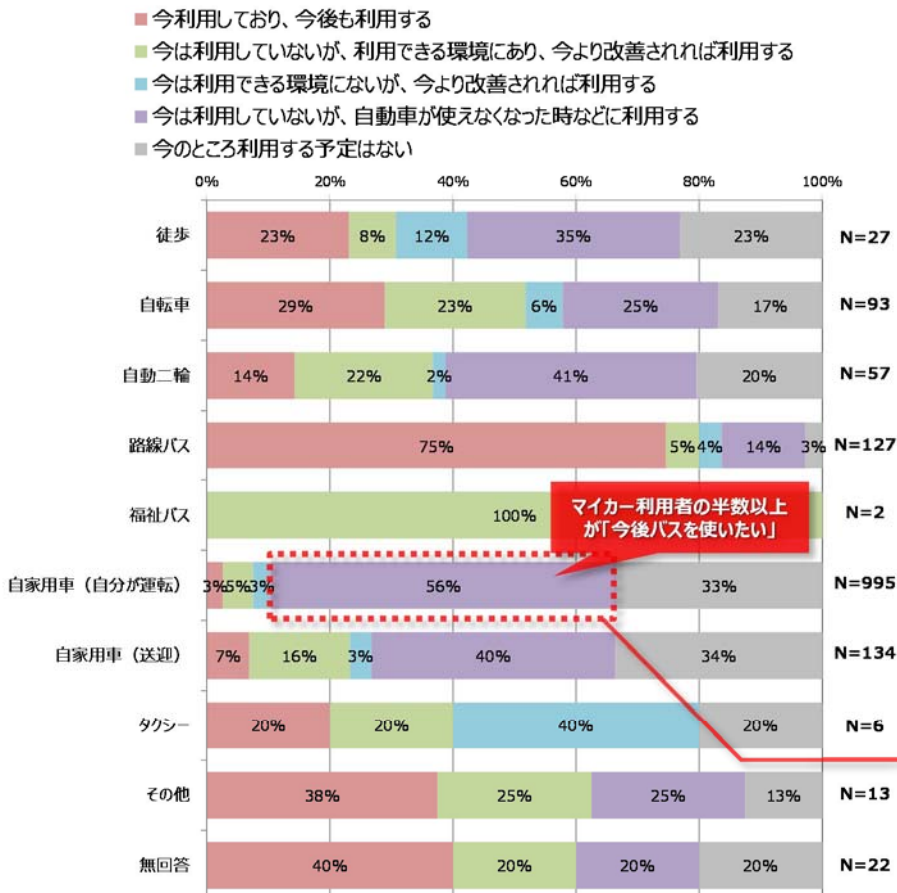
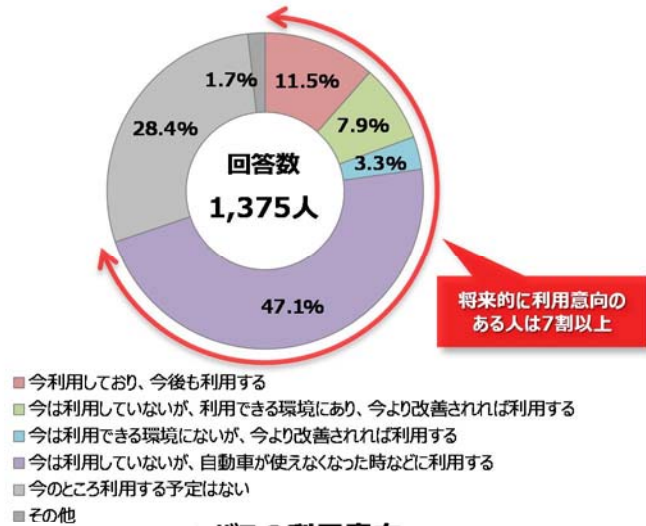


6) 路線バスの利用意向

【利用意向】

- ・現在、路線バスを利用している人は1割程度だが、将来的に利用意向がある人は7割以上である。
- ・代表交通手段別※にみると、現在「自家用車（自分が運転）」の約半数以上が、自動車が使えなくなった時には路線バスを利用したいと回答しており、その約3割が70代以上である。

※全ての目的のうち、最も頻度の高い交通手段を『代表交通手段』として設定。



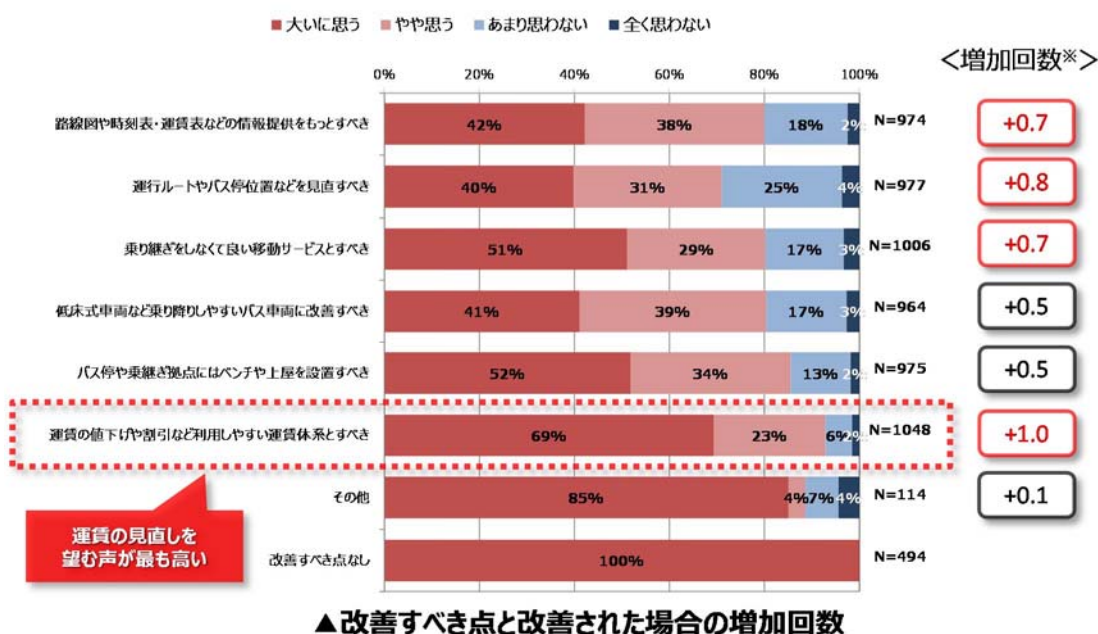
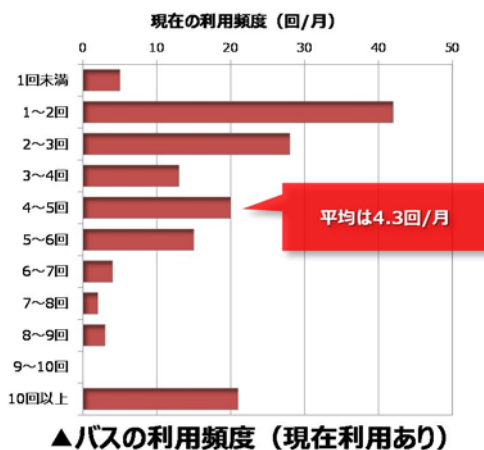
▲マイカー利用者で「今後バスを使いたい」と思っている人の年代

▲代表交通手段別にみたバスの利用意向

6) 路線バスの利用意向

【改善すべき点と利用頻度】

- ・現在、路線バスを利用している人の月当たり平均利用回数は4.3回/月である。
- ・改善すべき点は、「運賃体系の見直し」が最も多く、それに伴う利用回数の増加見込みも大きい。
- ・その他、「ルートやバス停の見直し」や「乗り継ぎの少ないサービス」も重視されている。



※増加回数 = Σ （回答者増加回数）÷バス利用者数

【主な自由意見】

- ・自家用車がないのでバスしか移動手段がない。新病院を利用しやすいよう便利にして欲しい。
- ・乗継なしに小豆島新病院へ行ける運行ルートとなることが一番の望み。
- ・子供宅で2泊の不便な病院通いをしています。バスでスムーズに行ける病院を期待しています。
- ・乗継がなくなるのがベストであるが、それが無理ならせめて乗換えの待ち時間を10分以内に。
- ・離島（豊島）なので船の時間に間に合わない。
- ・バスと船の連絡をもっと良くしてほしい。
- ・車両は小さくても良いので便数を増やして欲しい。
- ・バスに車椅子が乗れるとよい。
- ・ショッピングセンターまたはふれあい広場とバスステーションを合体。待ち時間を有意義に過ごせる。
- ・運賃が安くなり便数が増えれば、子供にバスを使わせたいが、今は親の送迎が必須になっている。
- ・運行ルート、バス停位置を全く知らないなので、利用したいができていない。県外の者にはわかりにくい。

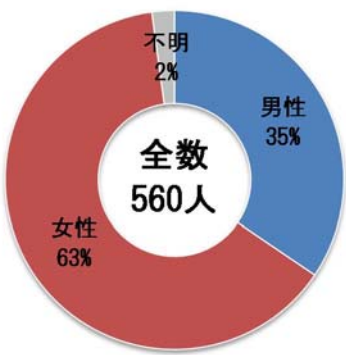
3.4 病院アンケート（来院者アンケート）

1) 調査概要

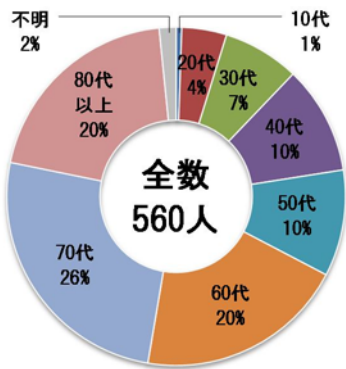
- ・既存の病院に来院している方の意見を把握するため、以下のアンケート調査を実施した。
- ・対象は以下の病院施設への来院者とし、アンケート票の留置き回収方式により調査を依頼した。
- ・回答数は小豆島町で317票、土庄町で243票と、合計560票のご意見を得た。
- ・性別では、女性が約6割を占め、年代では7割近くが60代以上であった。

▼病院アンケート調査概要

項目	内容
対象者	右に示す病院にアンケートを設置
調査時期	2015年7月
調査方法	各病院における据置調査
回収票数	560票回収



▲回答者の性別



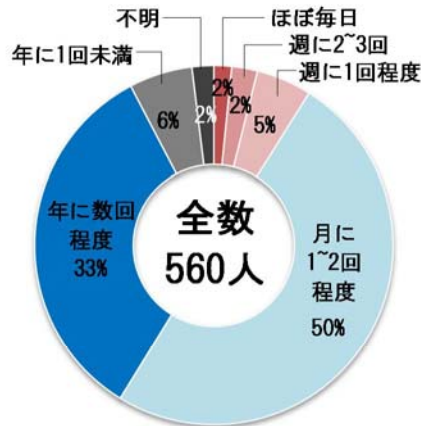
▲回答者の年代

▼病院アンケート回収内訳

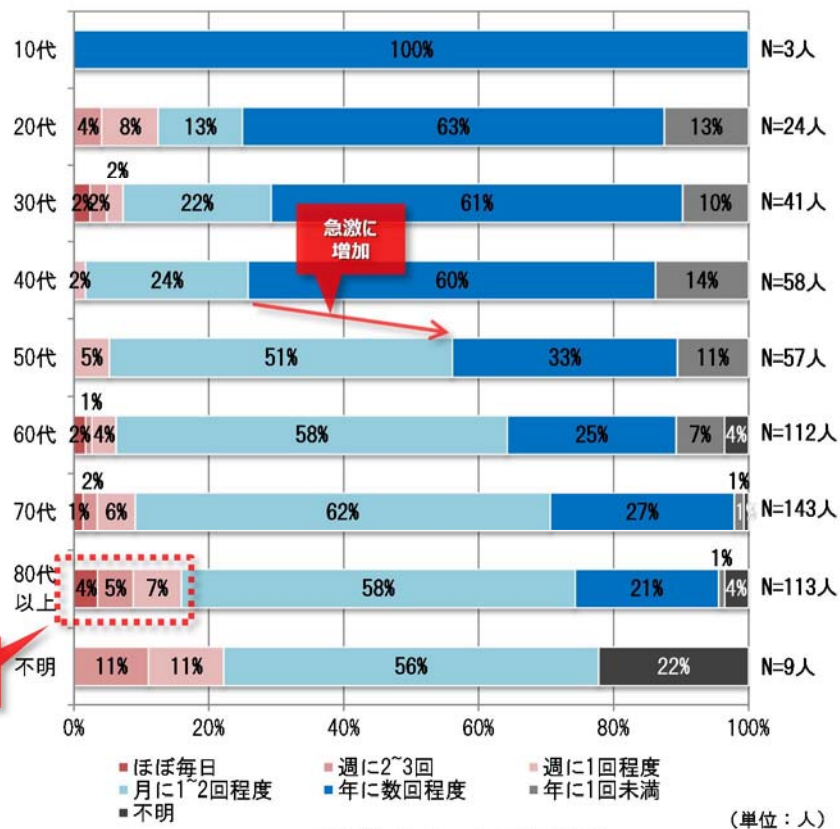
	NO.	施設名	住所	設置部数	回収状況
小豆島町	1	内海病院	小豆島町片城甲44-95	-	138票
	2	牟礼病院	小豆島町安田甲33	30部	2票
	3	もり内科	小豆島町西村甲1468-1	30部	26票
	4	小豆島病院	小豆島町池田2519-4	30部	25票
	5	池田内科クリニック	小豆島町池田1-6	30部	126票
土庄町	1	土庄町立土庄中央病院	土庄町淵崎甲1400-2	320部	243票
	3	大森外科医院	土庄町淵崎甲2137-5	30部	
	4	三枝医院	土庄町甲420	30部	
	5	外園医院	土庄町甲730-5	30部	
	6	平井クリニック	土庄町甲1360-105	30部	
	7	みなと診療所	土庄町伊喜末81-32	30部	
	8	三浦眼科医院	土庄町淵崎甲1940	30部	
合計					560票

2) 利用頻度

- ・来院者の利用頻度をみると、「月に1～2回程度」が約5割、「年に数回程度」は約3割である。
- また、「週に1回以上」は、全体の約1割程度である。
- ・年代別にみると、50代以上から急激に「月に1～2回程度」と病院とのかかわりが高くなる。
- 70代以上では約1割が、80代以上では約2割が「週に1回以上」の来院である。



▲病院の利用頻度

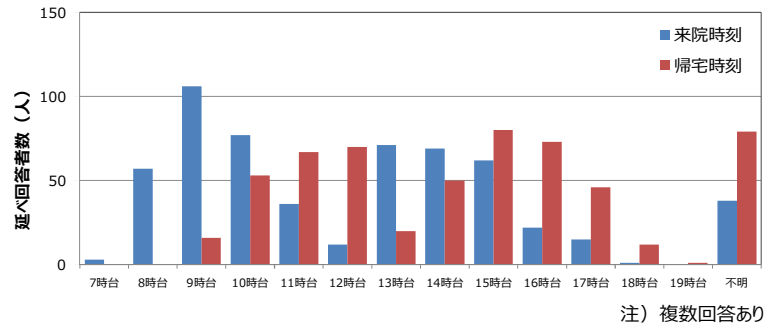


▲病院アンケート回収内訳

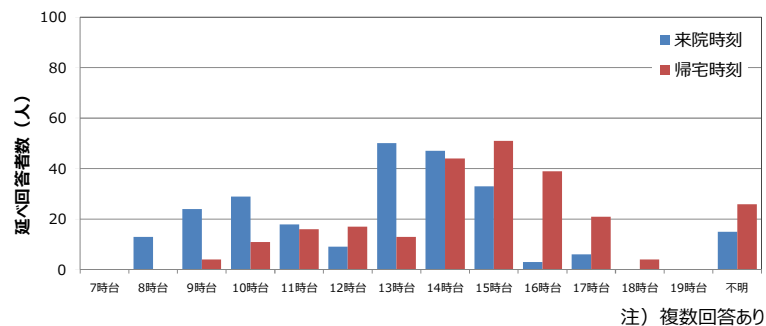
(単位: 人)

3) 利用時間帯

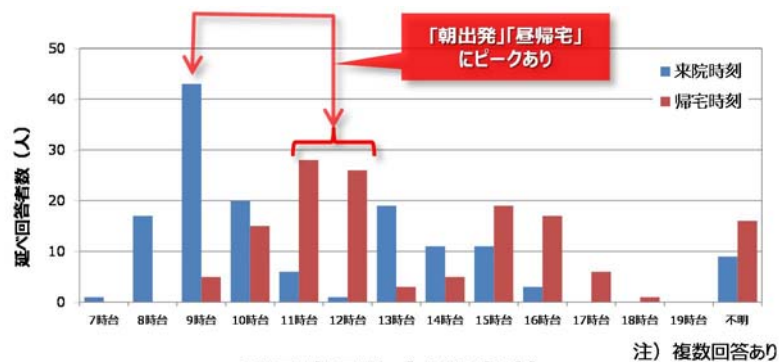
- ・来院者の利用時間帯をみると、来院時刻では午前中と昼過ぎに、帰宅時刻では昼までと、夕方までの時間帯での移動が多い。
- ・地域別にみると、土庄町の病院は、比較的長い時間帯で利用がなされているが、小豆島町の病院は、来院は朝方、帰宅は昼前ごろにピークがみられる。



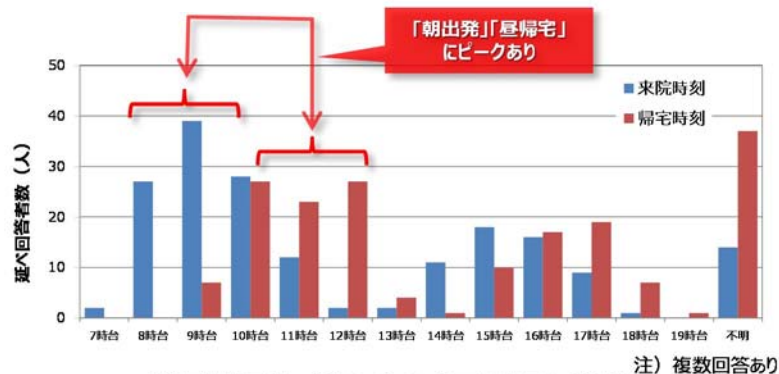
▲利用時間帯（全体）



▲利用時間帯（土庄町の病院）



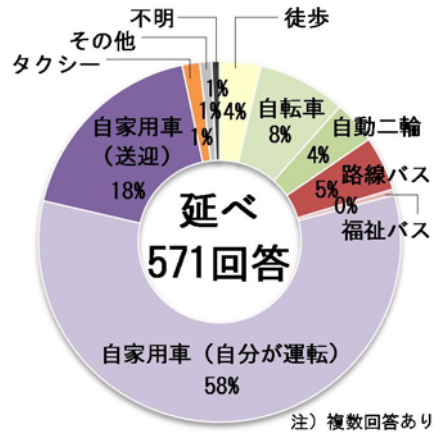
▲利用時間帯（内海病院）



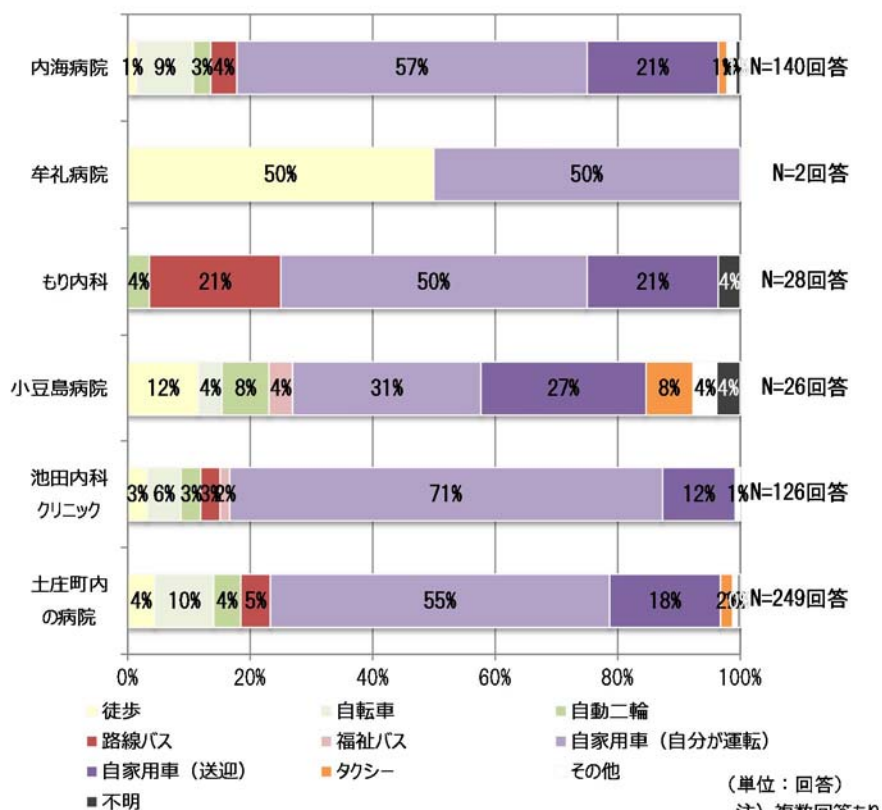
▲利用時間帯（その他の小豆島町の病院）

4) 利用交通手段

- ・来院者の利用交通手段をみると、約6割が「自家用車（自分が運転）」であり、「路線バス」は5%程度である。
- また、「自家用車（送迎）」の割合も、約2割程度みられる。
- ・病院別にみても、「路線バス」利用は少なく、近場は「徒歩・自転車」、遠方は「自家用車（運転&送迎）」に依存している。



▲病院の利用交通手段

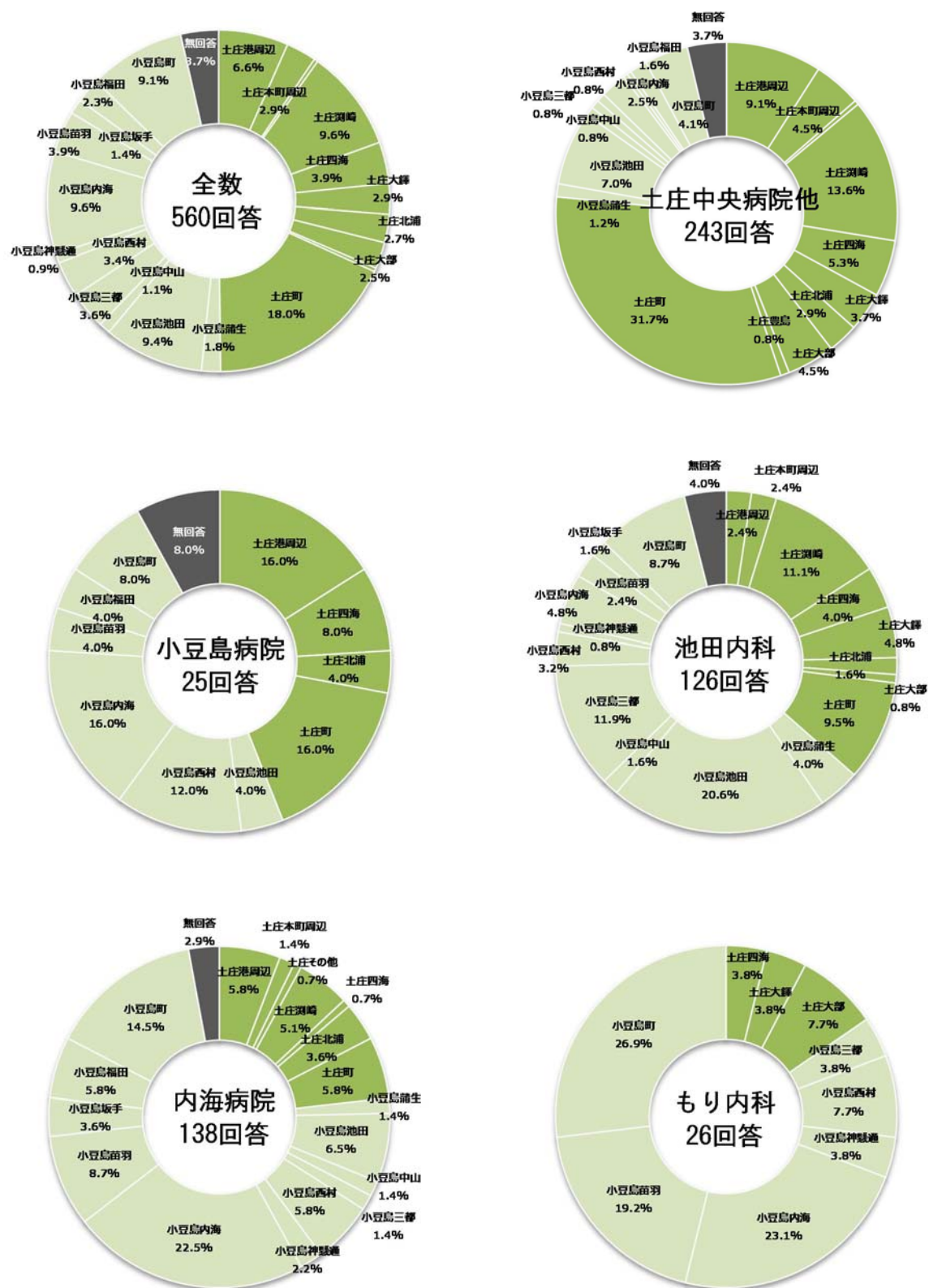


▲病院別の利用交通手段

3.4 病院アンケート（来院者アンケート）

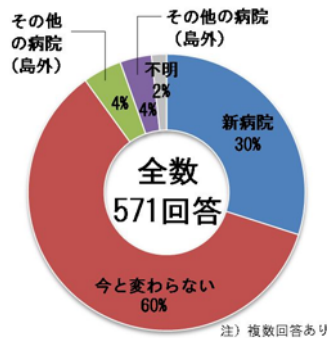
「参考；来院者の居住地分布」

・各病院におけるアンケート回答者の居住地分布を以下に示す。
（なお、「牟礼病院」の回答者は2名であり、いずれも小豆島町の居住者であった。）

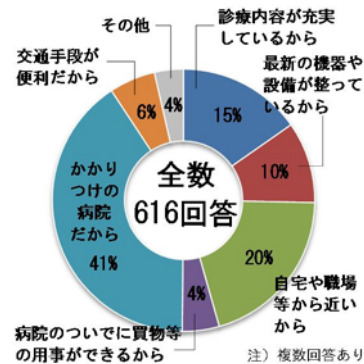


5) 新病院の利用意向

- ・新病院の利用意向をみると、内海病院や土庄町内の病院での利用意向が高い。
- ・「新病院を利用する理由」をみると、「診療内容が充実」や「最新の機器や設備」という意見が多く、新病院への期待が大きいことがわかる。
- ・反対に「利用しない理由」をみると、「自宅や職場に近いから」や「かかりつけの病院だから」という意見が高く、立地場所や、医師やスタッフとの信頼関係が、現時点における来院先の選択要素としてあげられていることが分かる。

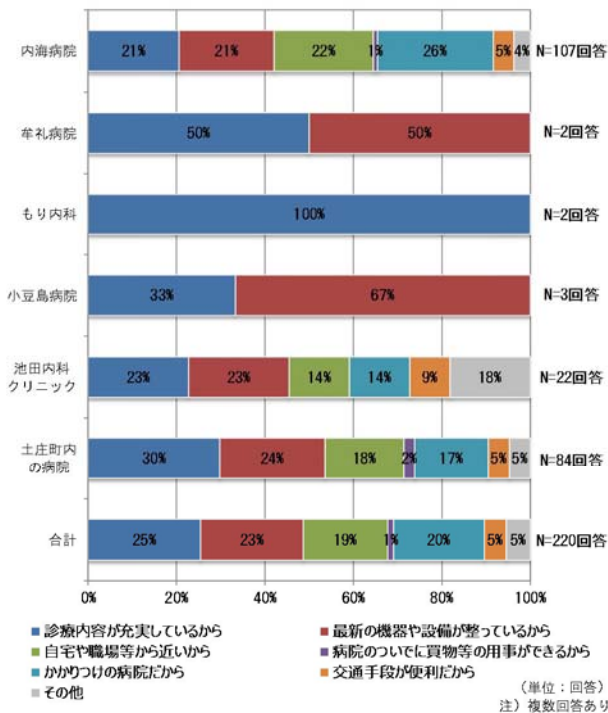


▲新病院の利用意向

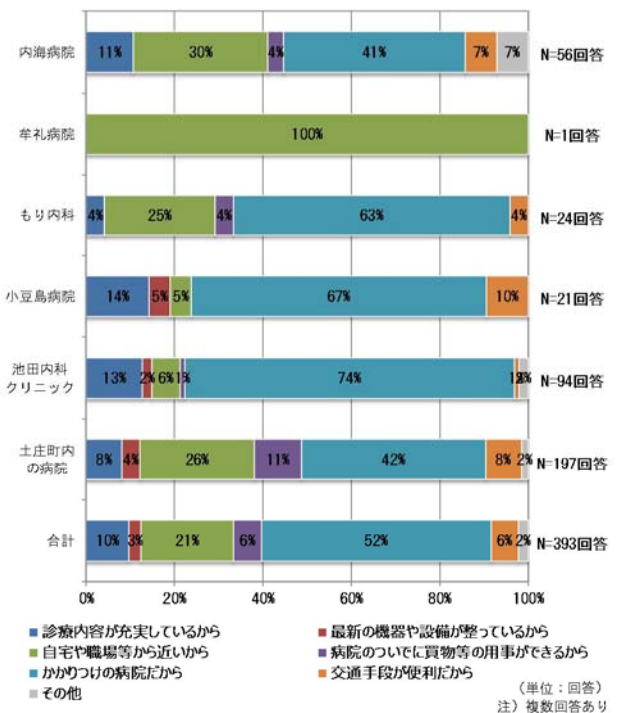


▲その理由

【新病院を利用する理由】

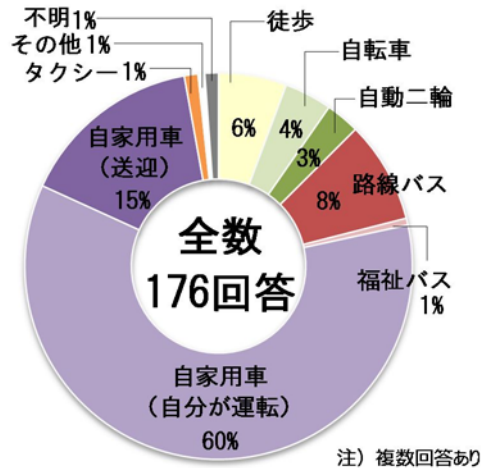


【新病院を利用しない理由】

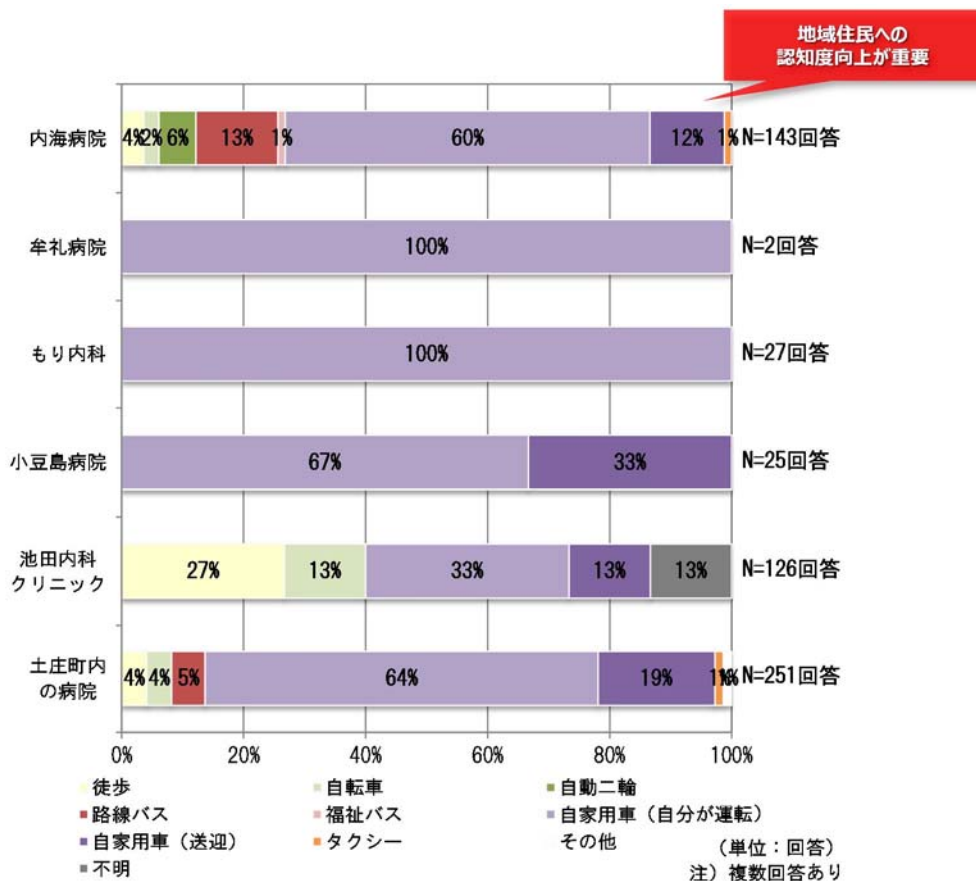


6) 新病院利用意向者の利用交通手段

- ・新病院に利用意向がある方の利用交通手段をみると、こちらも、約6割が「自家用車（自分で運転）」であり、「自家用車（送迎）」が約2割、「路線バス」は8%程度である。
- ・また、「路線バス」利用を想定しているのは、利便性の良い、内海病院、土庄町の病院の方のみであり、今後の公共交通網の検討とあわせ、地域住民への認知度向上をいかに図るかが重要と思われる。



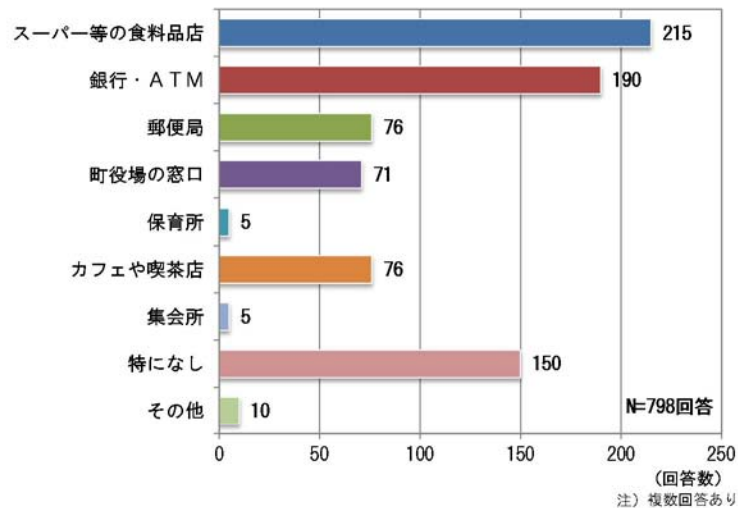
▲新病院の利用交通手段



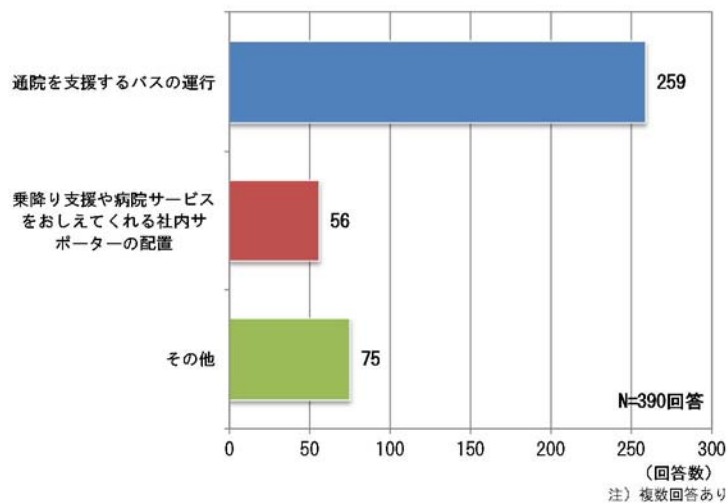
▲新病院別の利用交通手段

7) 新病院利用にあたってのまちづくりの方向性

- ・新病院周辺で利用したい施設としては、以下のとおりであり、「買い物」や「銀行」などといった複数の目的を可能とする、施設配置や、仕組みづくりが求められていると考えられる。
- ・また、「カフェや喫茶店」といった休憩施設的な場所を求める声も比較的に見られ、人々が気軽にくつろげる空間についてもまちづくりの方向性として留意すべきであると考えられた。
- ・さらに、公共交通への期待としては、「通院を支援するバスの運行」への回答が高いとともに、その他意見としては、「運賃の安いバスで病院まで行きたい。（無料や・低価格）」や、「乗り換えなしのバスを運行してほしい。（マイクロバス・家や病院の近く）」といった声があがっている。



▲新病院周辺で利用したい施設



【その他の主な意見】

- ・運賃を安くして欲しい（19）
- ・乗り換えなしのバスが欲しい。（24）

▲公共交通への期待

3.5 通学アンケート

1) 調査概要

- ・統合高校への通学に関する意見を把握するため、以下のアンケート調査を実施した。
- ・対象は以下の土庄町及び小豆島町の中学生とし、アンケート調査を依頼した。
- ・回答数は566票、回収率は85.5%であった。

▼通学アンケート調査概要

項目	内容
対象校	右に示す中学校
調査時期	2014年12月
調査方法	学校による配布・回収
回収票数	566票回収

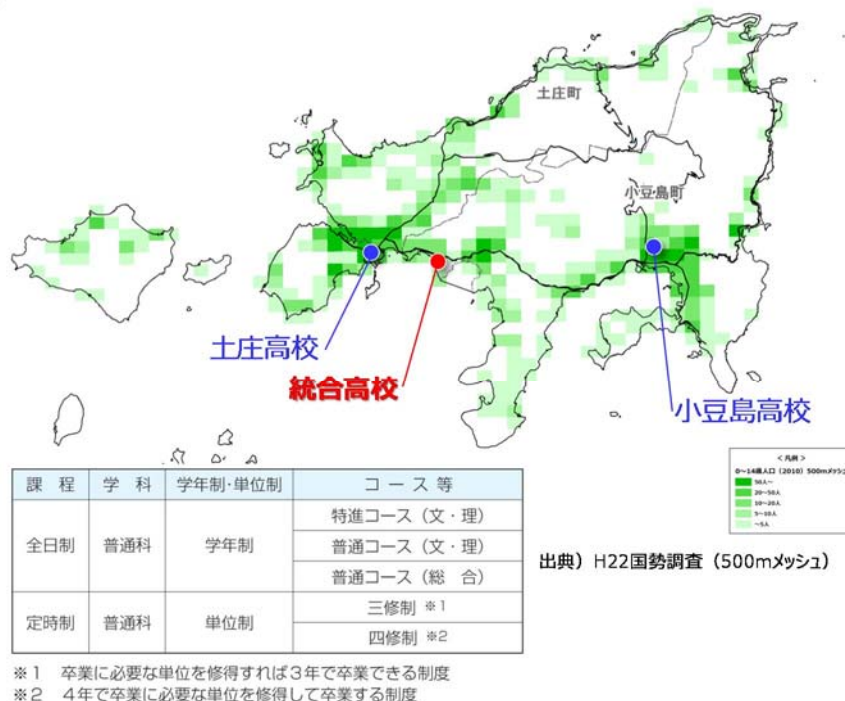
▼通学アンケート回収内訳

中学校	生徒数 (人)	回答者数 (人)			回答率
		学年別		計	
小豆島中学校	340	1年生	89	307	90.3%
		2年生	112		
		3年生	106		
土庄中学校	311	1年生	77	248	79.7%
		2年生	77		
		3年生	94		
豊島中学校	11	1年生	3	11	100.0%
		2年生	3		
		3年生	5		
計	662	1年生	169	566	85.5%
		2年生	192		
		3年生	205		

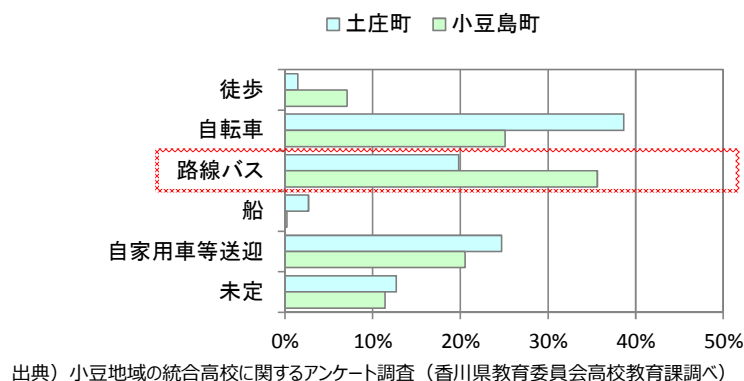
出典;小豆地域の統合高校に関するアンケート調査（香川県教育委員会高校教育課調べ）

2) 統合高校への利用手段

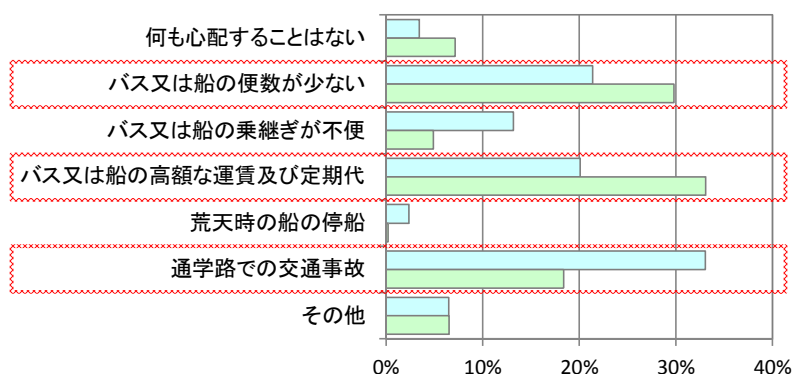
- ・将来の高校生となる0～14歳人口は土庄、池田、内海地区の中心部に多いが、全域に薄く・広く分布している。
- ・通学アンケート調査の結果によると、路線バスでの通学意向が土庄町で2割、小豆島町で3割強ある。
- ・通学時の懸念事項として、『交通事故』のほかに、『バス等の便数が少ないこと』や『高額な運賃・定期代』が多くあげられている。



▲0～14歳人口分布（2010年）



▲統合高校への利用交通手段（予定）



▲通学における懸念事項

3) 統合高校への利用手段（地区別）

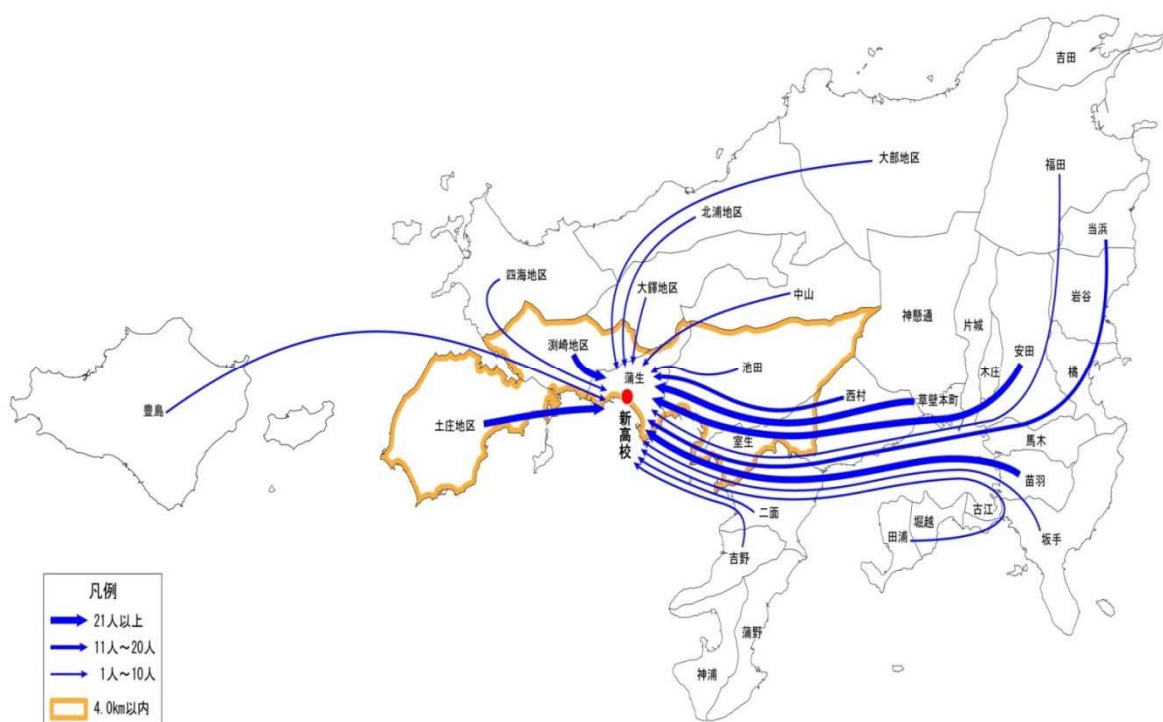
- ・統合高校への通学手段として、路線バスのみの利用を想定している生徒は91人であり、他の交通手段とあわせて、路線バス利用を想定している生徒は146人の合計237人であった。（回答者の約4割）
- ・そのうち、現在、直通バスの無い土庄町の「湊崎」「四海」「大鐸」「北浦」「大部」地区からは、47人が路線バス利用を想定している。

▼路線バス利用者

地区	路線バス のみ	路線バスと併用					計
		自転車	船	送迎	自転車 船	自転車 送迎	
土庄本町周辺	5	8		2		10	25
土庄瀨崎	2	6			1	12	21
土庄四海		1		8		1	10
土庄大鐸		1				2	3
土庄北浦	4			5		1	10
土庄大部				3			3
土庄豊島			3		6		9
小豆島池田	4	5				1	10
小豆島中山						2	2
小豆島三都	1	2		4		3	10
小豆島西村	5	1		4		1	11
小豆島内海	37	5		15		9	66
小豆島苗羽	19	4		5			28
小豆島坂手	8	1		2			11
小豆島福田	6			12			18
計	91	34	3	60	7	42	237

**直通便のない地区
から47人がバス利用を想定**

※複数回答あり



出典) 小豆地域の統合高校に関するアンケート調査
(香川県教育委員会高校教育課調べ)

4. 地域公共交通の役割と課題整理

4.1 地域公共交通の役割

1) 土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略 に基づく役割

◆ 基本目標① ; 人の流れを創る

・人の流れを創るためには、「(1)交流人口の増加による賑わいづくり」と「(2)移住・定住による流入人口の増加」が基本的方向として掲げられており、地域公共交通としては、島内における周遊性向上による観光利便性を強化するとともに、小豆島地域に暮らす、訪れる、全ての人々が安心して移動できる交通手段となり、観光面及び日常生活面における利便性向上を果たすことが求められている。

◆ 基本目標② ; 魅力ある産業を創る

・魅力ある産業を創るためには、「(1)地場産業の強化による安定した雇用」と「(2)地域経済を牽引する新たな活力創出」が基本的方向として掲げられており、地域公共交通の利便性向上が、通勤行動の支援につながり、魅力ある産業創りに寄与するものと考えられる。

◆ 基本目標③ ; 子育てを楽しめる環境を創る

・子育てを楽しめる環境を創るためには、「(1)結婚から子育てまでの切れ目ない支援」と「(2)ワークライフバランスの推進」が基本的方向として掲げられており、地域公共交通としては、子育て支援、特に小豆島地域における子どもたちの通学行動を支援し、子どもたちが安全で安心な移動ができるとともに、保護者や地域への負担軽減に寄与することが求められている。

◆ 基本目標④ ; 時代に合った住みやすいまちを創る

・時代に合った住みやすいまちを創るためには、「(1)安心・安全・安定のまちづくり」と「(2)既存ストックの有効活用」、「(3)連携中枢都市圏による広域連携の推進」が基本的方向として掲げられており、安心できる生活基盤の整備、とりわけ、医療体制の整備について、地域公共交通は、新病院へのアクセス、特に高齢者が安心できる移動を確保することが求められている。

2) 小豆島町創生総合戦略 に基づく役割

◆ 基盤をつくる施策① ; 小豆島中央病院を核とした地域医療の充実

・小豆島中央病院を核とした地域医療の充実を図るためには、地域公共交通としては、新病院へのアクセス、特に高齢者が安心できる移動を確保することが求められている。

◆ 基盤をつくる施策② ; 新しい高校を活かした文武両道の人づくり

・新しい高校を活かした文武両道の人づくりのためには、地域公共交通としては、統合高校への通学行動を支援し、子どもたちが安全で安心な移動ができるとともに、保護者や地域への負担軽減に寄与することが求められている。

◆ 基盤をつくる施策③ ; 利用者の視点に立った公共交通の再生

・利用者の視点に立った公共交通の再生を図るためには、公共交通の利用者の真のニーズを把握し、それらに可能な限り対応していくことが重要であり、地域公共交通としては、新病院への通院や統合高校への通学など、新たな拠点への対応、生活基盤としての公共交通の強化を図るとともに、地域観光の周遊性確保などにも寄与することが求められている。

◆ 基盤をつくる施策④ ; 瀬戸内国際芸術祭2016の取組み

・瀬戸内国際芸術祭2016の取組みに対応するためには、地域公共交通としては、島内における周遊性向上による観光利便性を強化し、国内だけでなく海外からの訪問を促す、持続可能な観光産業の形成に向けた交通基盤としての役割を果たすことが求められている。

3) 都市計画マスタープラン（土庄・内海都市計画区域）に基づく役割

◆ 広域交通体系の拡充

- ・高松や阪神方面へのアクセス機能を強化する海上交通の維持・拡充が必要。

◆ 集約型都市構造の形成を支援する交通体系の整備

- ・集約型都市構造の実現に向け、集約拠点を形成し、維持するための拠点間や拠点へのアクセスを強化する道路ネットワークの整備が掲げられており、公共交通網もこれら道路ネットワークを有効に活用した体系化が必要と考えられる。

◆ 持続可能な公共交通体系の形成

- ・バス路線のサービス向上を図り、持続可能な公共交通体系の形成に努めることが求められている。
- ・低炭素社会を実現していくために、緑豊かで快適な歩行者空間や、環境負荷の低い自転車を利用しやすい交通環境の整備により、交通行動の転換を促進することが必要。

4) 香川県離島振興計画（H25～H34年度）（小豆島地域振興計画）に基づく役割

- ・瀬戸内国際芸術祭を契機とした観光客等による交流人口の増加、道路等基盤施設の整備や医療・教育分野等における環境整備等より、産業の活性化並びに雇用機会の拡大等を行い、本地域における移住及び定住促進を目指しており、公共交通は、航路・島内交通等による交通利便性等を維持・向上できるよう努めることが求められている。
- ・路線バスについては、島民や観光客等の利便性の向上を図るため、新病院の建設や県立高校の統合計画等に合わせ、交通体系の見直しに向けた各種対策を講じていくとともに、利用促進策についても、地域の実情に応じた支援を行い、島内における重要な移動手段である路線バスの維持確保に取り組むことが求められている。
- ・特に新しい病院の建設に伴い、交通弱者である高齢者の移動手段の確保が不可欠であり、その研究調査を進めるとともに、買い物支援、外出支援等の対策も検討することが必要である。

5) 香川せとうちアート観光圏整備計画 に基づく役割

- ・小豆島滞在促進地区では、既存の観光名所や景勝地における観光とあわせ、近年の「瀬戸内国際芸術祭」を契機としたアート資源や、若い女性層を中心に人気を集めている「エンジェルロード」、昔からの町並みや地場産業を活用し、地元が一体となって取り組んでいる「迷路のまち」や「醤の郷」など、新たな観光資源も生まれてきて。
- ・また、小豆島観光ボランティアガイドクラブによる観光スポットでのガイドも行われているなど、今後、より一層発展していくポテンシャルを秘めている。
- ・公共交通は、小豆島及びその周辺における島々を周遊する航路の維持・拡充を図るとともに、島内においては、路線バスによる周遊が可能となり、「まち歩きツアー」や「滞在型プログラム推進」など各種取り組みを支援することが求められている。

6) 小豆島の地域公共交通が担う役割

・「土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「小豆島町創成総合戦略」に示される小豆島地域が目指す将来像及び各種上位計画等を踏まえ、地域公共交通が担う役割を整理する。

◆小豆島の地域公共交通が担う役割

役割1 平成28年度以降、従来の土庄地区、内海地区に加え、新病院・統合高校が設立される池田地区の3つの拠点を中心とした新たな集約型まちづくりがすすめられている。

この大きな転換期において、小豆島の地域公共交通もまちづくりの動脈として機能し、島内外及び主要拠点間におけるアクセス性の強化と、交通結節点における機能強化より、人々の安全で安心な移動を支援し、新たなまちづくりの魅力向上に寄与することが求められている。

役割2 新病院・統合高校が池田地区に統合されることにより小豆島に暮らす人々にとって、従来の行動パターンに大きな変更が想定される。

小豆島の地域公共交通については、人々の新たな行動パターンや真のニーズに対応することにより、通学行動では、学生や保護者、地域への負担を軽減するとともに、通院行動では、高齢者等の安全で安心な移動を確保し、さらには、買い物支援、外出支援等へのサポートにも展開していくことが求められている。

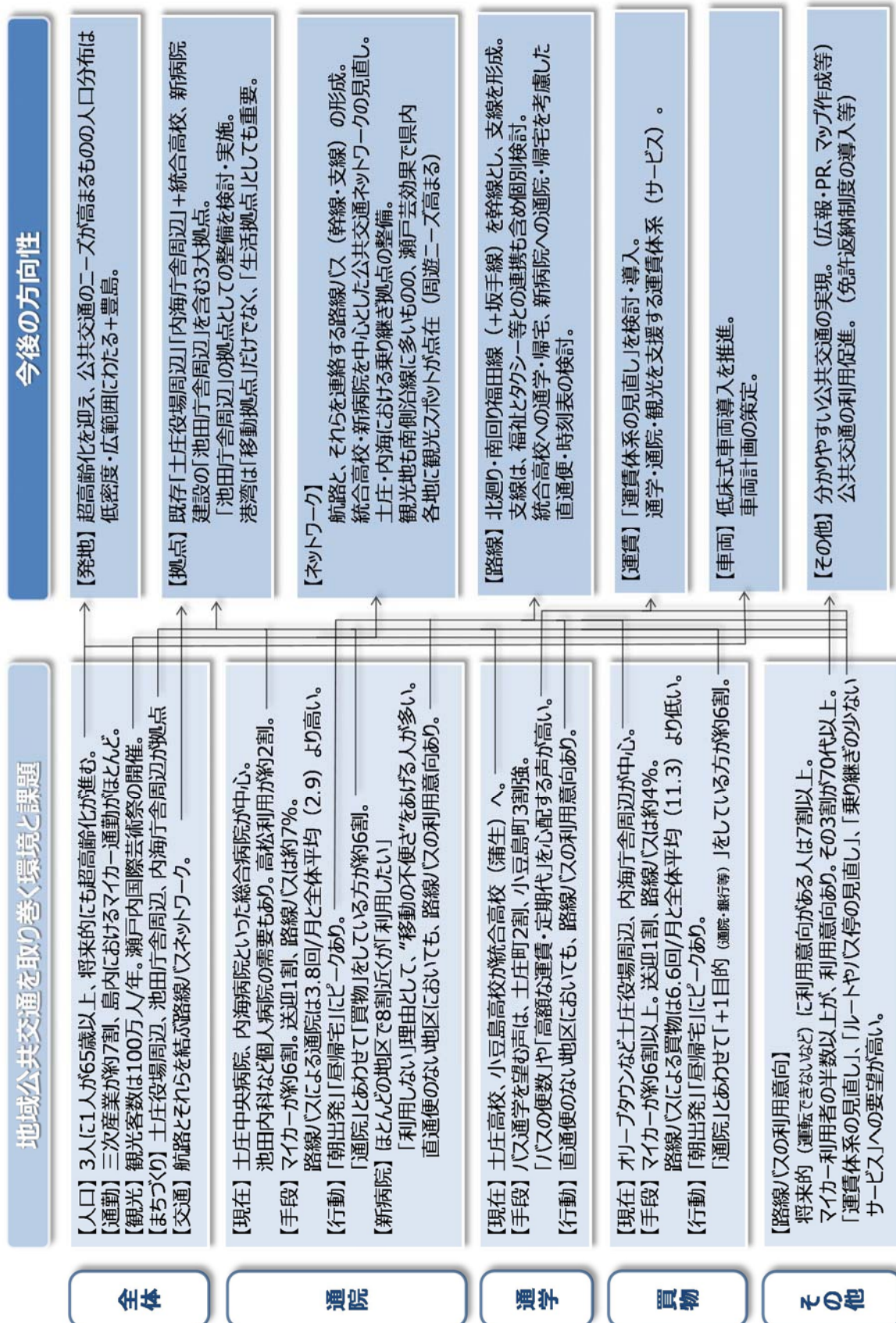
役割3 小豆島は年間100万人もの観光客が来島し、公共交通はその移動手段として重要な役割を担ってきた。特に近年では「瀬戸内国際芸術祭」の開催を期に、航路を使って瀬戸内の島々を周遊する新たな観光スタイルが生まれ、小豆島の地域公共交通についても、航路・陸路が一体となった、分かりやすい公共交通網を形成することが求められている。

役割4 小豆島の安心できる生活基盤として地域公共交通の役割を果たすためには、人々の真のニーズを常に把握し、ニーズの変化や新たなニーズへの対応が常に求められる。

小豆島の地域公共交通を持続可能なものにするためには、人々のニーズを常に調査するとともに、利用促進策の実施、他分野連携を進めることが必要である。

4.2 地域公共交通の課題整理

・地域の現状及び公共交通の現状等を踏まえ、地域公共交通を取り巻く環境と課題の整理、今後の方向性について以下に整理する。



5. 基本的な方針

・小豆島地域が目指す将来像における公共交通の役割を果たし、かつ、現在の地域課題を解消するため、地域公共交通に係る基本方針を以下のとおり定めるものとする。

■基本方針

小豆島地域の新たなまちづくりを推進することによって、小豆島地域に暮らす、訪れる、全ての人々にとって、魅力のある、にぎわいのある小豆島を目指す。

その中で、地域公共交通は、島内外を連絡する軸として、まちづくりの骨格を形成し、全ての人々に安全で安心な移動を提供する。

そのためには、小豆島地域の拠点間を強く結びつけ、拠点までのアクセス性の高い地域公共交通網を形成するとともに、人々のニーズに応じた運行を行い、「交通弱者にもストレスなく移動できる小豆島」、「過度な自動車利用に頼らない小豆島」、「観光客が再び訪れたいと思う小豆島」となるための地域公共交通網の再編・見直しを実施する。

[小豆島地域が目指す地域公共交通利用者のイメージ]

区分		地域				備考	
		地域拠点間		郊外エリア内			
利用者像	交通弱者 (高齢者) (学生等)	航路 + 路線バス (幹線)		路線バス (支線) + コミバス	福祉バス	タクシー	※各モードの スムーズな 乗り継ぎ
	一般住民						
	観 光 客			タクシー			

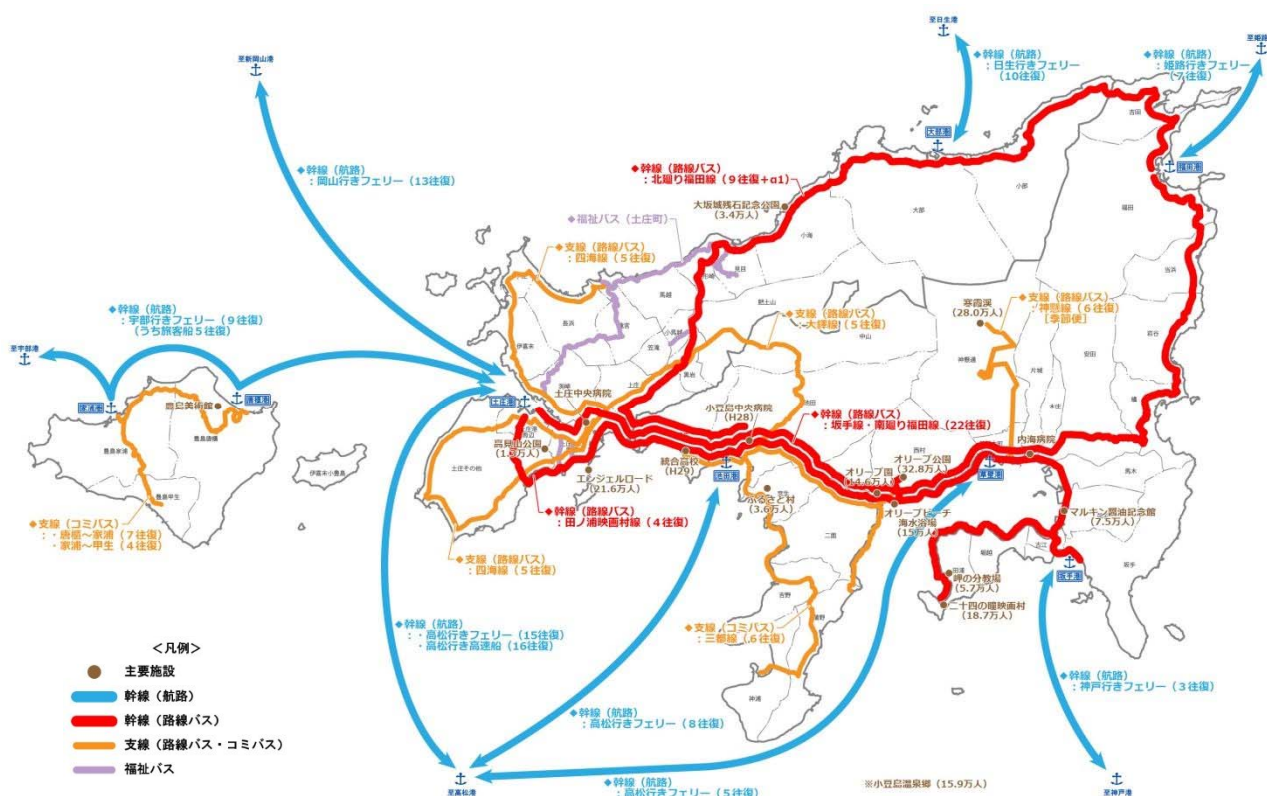
「小豆島地域が目指す地域公共交通網のイメージ」

<航路及び路線バス等、複数の交通モードによる最適な路線網（幹線・支線）の形成>

- 航路と小豆島地域における主要拠点を連絡する路線バスにより地域公共交通網の幹線を形成する。
- 支線については、路線バス・コミュニティバス・福祉バスなど、多様な交通モードにより、地域住民の通院・通学・買物といった日常的な行動に伴う移動を支援する。
- 「各港湾」及び「土庄中央病院（土庄診療所）」、「小豆島中央病院」、「内海病院（内海診療所）」は、各交通モード間の乗り継ぎ拠点として整備する。

<人々のニーズに応じたシステムの運行>

- 地域の主要産業である観光を支援するため、各港湾と主要観光地とを連絡する分かりやすい運行を行う。
- 地域住民の通勤・通学・通院・買い物と行った日常的な行動に配慮し、航路と路線バスとの乗り継ぎや、幹線・支線との接続、学校の始業・帰宅時刻に配慮した運行、通院や買物といった人々の生活パターンに配慮した運行を行う。



▲小豆島地域が目指す地域公共交通網のイメージ

6. 計画の目標

- ・各基本方針の内容に即した計画の目標を以下に示す。
- ・あわせて、目標の達成度を評価するための数値目標も示す。

[計画目標]

- 目標 1 : 新たな拠点づくり・まちづくりに対応した、地域公共交通の再構築
- 目標 2 : 人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現
- 目標 3 : 多様な観光資源を活かす、魅力的な地域公共交通の実現
- 目標 4 : 安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現

[数値目標]

- ✓ 数値目標1 ; 新たな拠点（池田地区）における平均乗降人数を5,000人/月以上とする。
(将来 H32年度 まで)

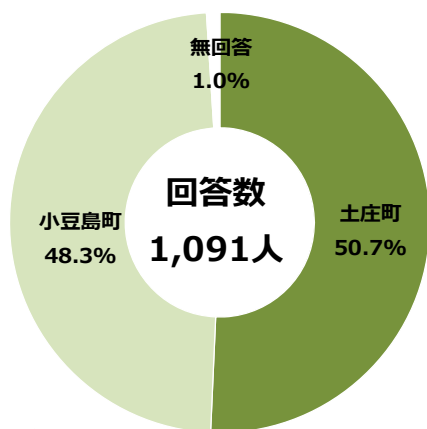
⇒ 目標 1 の達成状況を把握するため、新たな拠点である池田地区における利用者数を数値目標として設定する。
⇒ 池田地区においては、新病院の開院及び統合高校の開校があることから、多くの人々の路線バス利用が期待される。
特に通院に関しては、多くのアンケート回答者が路線バスによる通院を希望しており、それらニーズの達成を数値目標として設定する。

(新病院の1日の外来患者数 550 人/日×2 回(往復)×20 日=22,000 人/月)

(外来患者のバス利用率を現状 6.5%から 2 倍の 13%まで引き上げると、乗降人数は、22,000 人/月×13% = 2,860 人/月)

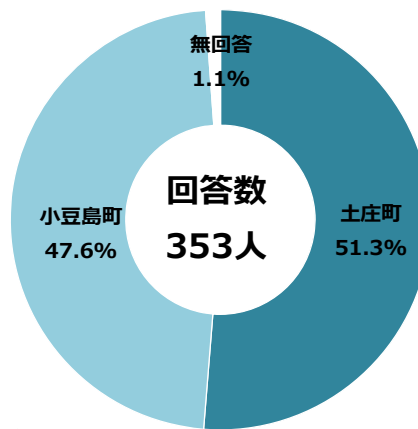
(現況の乗降人員 2,000 人/月+2,860 人/月=4,860 人/月≒数値目標 5,000 人/月)

(参考 ; 現況の平均乗車人員は、1,500~2,000 人/月程度)



出典 ; 住民アンケートより

▲参考 ; 島内における通院者（全手段）



出典 ; 住民アンケートより

▲参考 ; 島外における通院者（全手段）

[数値目標]

✓ 数値目標2；通学定期の購入者数を統合高校生徒数の15%以上とする。（将来 H32年度 まで）

⇒ 目標 1～2の達成状況のうち、特に通学移動に係る達成状況を把握するため、通学定期の購入割合を数値目標として設定する。

⇒ 通学アンケート回答者における路線バス利用意向（バスのみ）91 人÷アンケート回答者 566 人＝16.1%より、数値目標として設定する。

▼【再掲】路線バス利用意向

地区	路線バス のみ	路線バスと併用					計
		自転車	船	送迎	自転車 船	自転車 送迎	
土庄本町周辺	5	8		2		10	25
土庄湊崎	2	6			1	12	21
土庄四海		1		8		1	10
土庄大鐸		1				2	3
土庄北浦	4			5		1	10
土庄大部				3			3
土庄豊島			3		6		9
小豆島池田	4	5				1	10
小豆島中山						2	2
小豆島三都	1	2		4		3	10
小豆島西村	5	1		4		1	11
小豆島内海	37	5		15		9	66
小豆島苗羽	19	4		5			28
小豆島坂手	8	1		2			11
小豆島福田	6			12			18
計	91	34	3	60	7	42	237

出典）小豆地域の統合高校に関するアンケート調査
（香川県教育委員会高校教育課調べ）

✓ 数値目標3；フリー乗車券の販売枚数を対前年度以上とする。（瀬戸芸開催時期は対前回）

⇒ 目標 3 の達成状況を把握するため、観光客の利用が多いと考えられるフリー乗車券の販売枚数を数値目標として設定する。

⇒ 販売枚数は、前年度値を上回ることを基本目標とするとともに、瀬戸内国際芸術祭開催期間においては、前回開催期間との比較により、数値目標の達成状況を確認する。

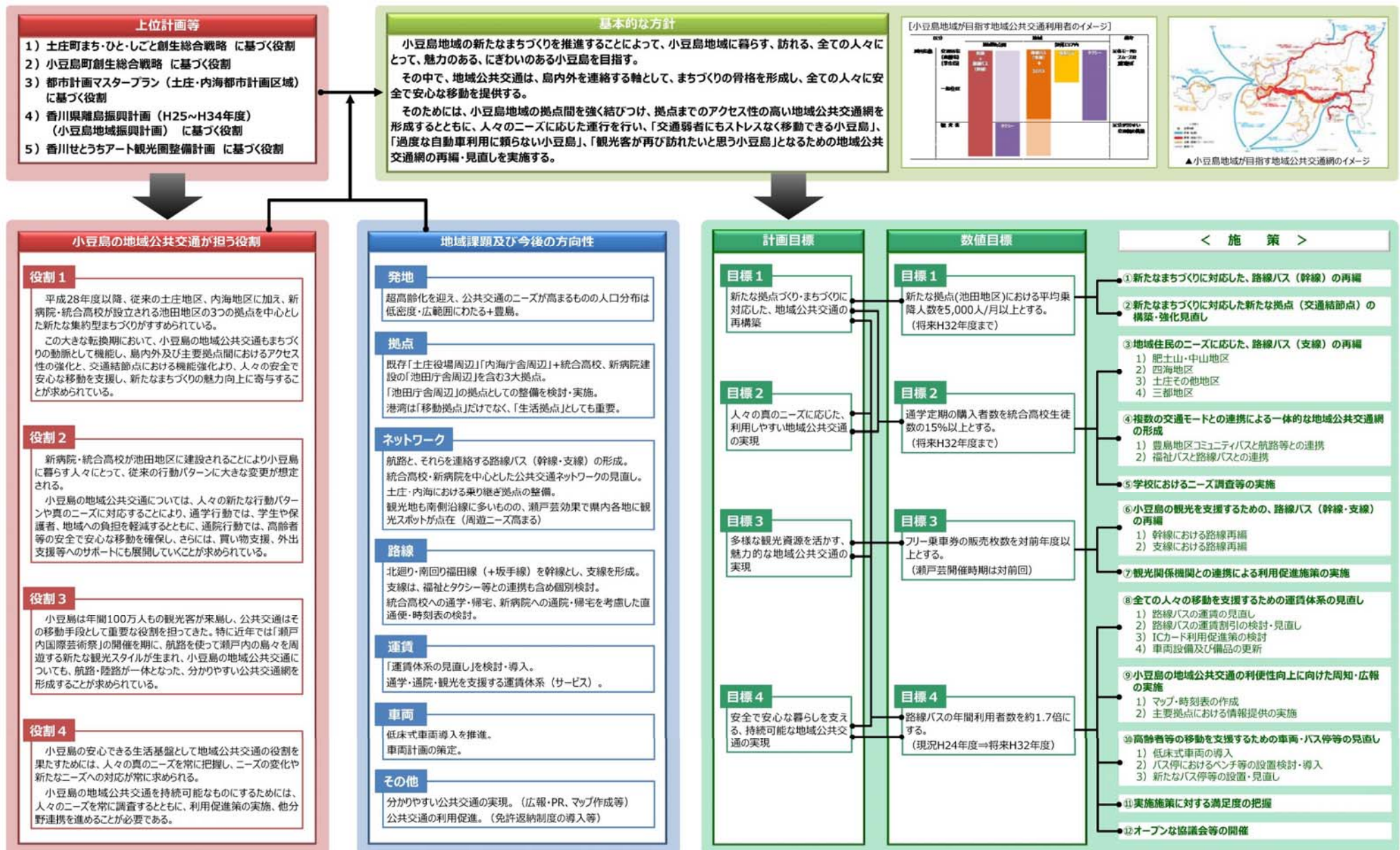
✓ 数値目標4；路線バスの年間利用者数を約1.7倍にする。（現況 H24年度⇒将来 H32年度）

⇒ 目標 1～4 の達成状況を把握するため、年間利用者数を数値目標として設定する。

⇒ 年間利用者数は、前年度数値を上回ることを基本目標とし、運賃値下げによる増加やアンケート結果を参考にした努力目標を加味した試算結果（第 20 回協議会）をもとに 1.7 倍を数値目標として設定する。

7. 目標達成のための施策・事業

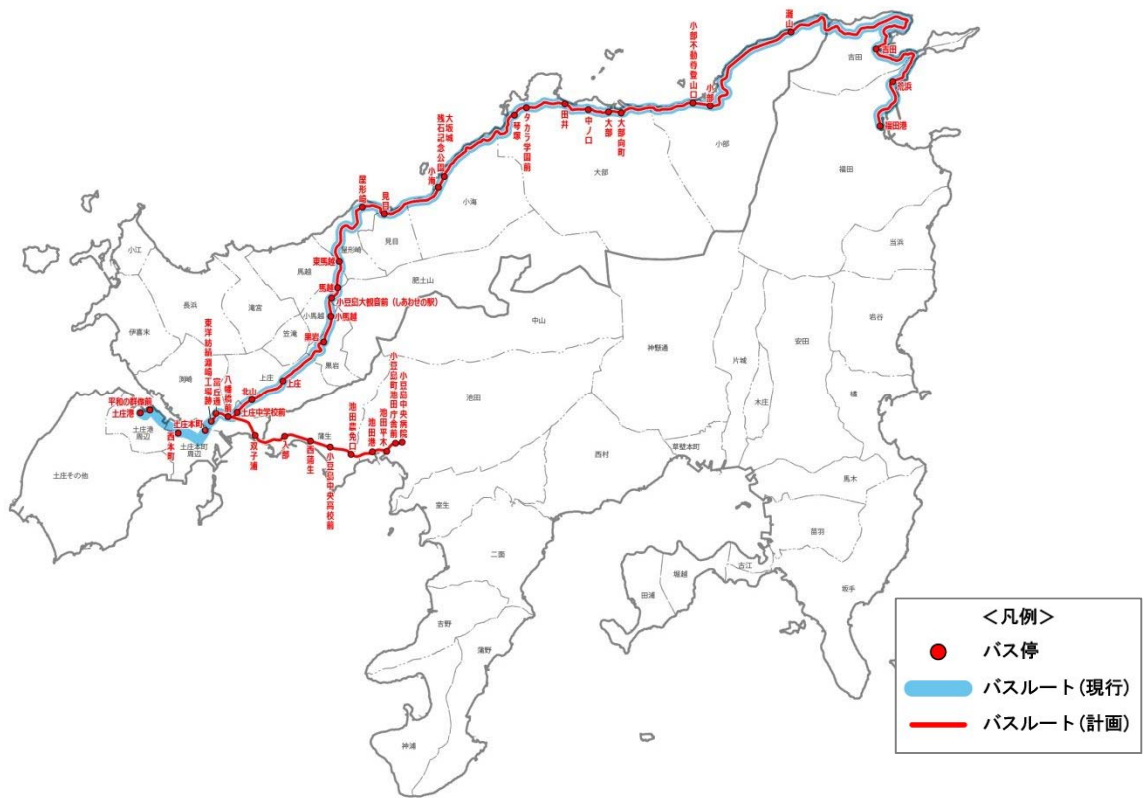
・各目標を達成させるための施策・事業を以下のとおり設定した。



【目標1：新たな拠点づくり・まちづくりに対応した、地域公共交通の再構築】

施策①：新たなまちづくりに対応した、路線バス（幹線）の再編

- ・実施の目的
⇒島内外を接続する航路と、土庄・内海地区と合わせ、池田地区を新たな拠点とした幹線交通軸の形成。
- ・事業の概要
⇒既往路線である「坂手線・南廻り福田線」、「北廻り福田線」を対象とし、土庄地区（土庄診療所）、池田地区（小豆島中央病院）、内海地区（内海診療所）との接続を図るための路線再編を行う。
⇒幹線の路線再編については、数値目標の達成状況等のチェックによる PDCA を行いながら、利用者のニーズに可能な限り対応できるように随時見直しを行うものとする。



▲例：北廻り福田線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

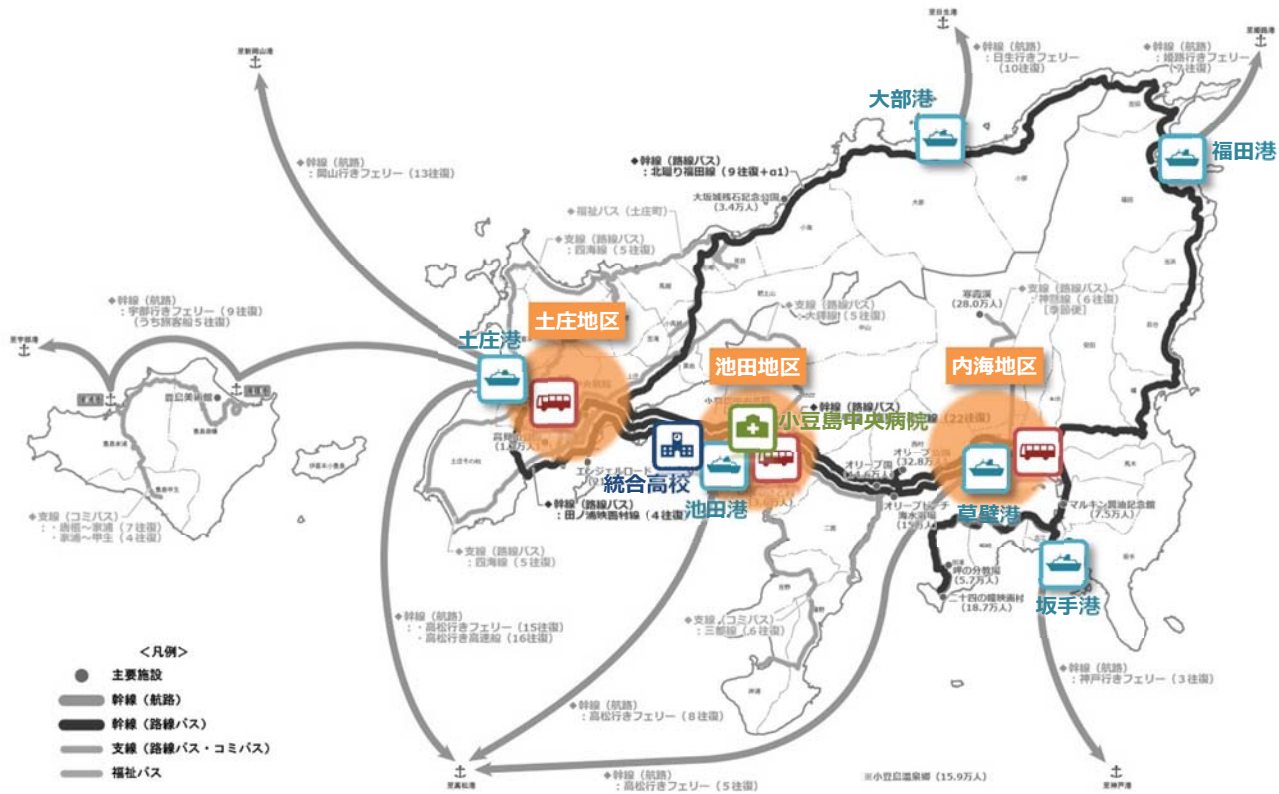
施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
幹線における 路線再編	・坂手線 ・南廻り福田線 ・北廻り福田線	バス事業者	航路との接続、通院・通学時間との整合等、ダイヤの調整にも配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	運行計画の策定	運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			運行継続（見直し）	
				満足度調査		満足度調査

【目標1：新たな拠点づくり・まちづくりに対応した、地域公共交通の再構築】

施策②：新たなまちづくりに対応した新たな拠点（交通結節点）の構築・強化見直し

- ・実施の目的
⇒新たなまちづくりに対応した地域公共交通体系を構築するための、交通結節点の構築・強化見直しを実施する。
- ・事業の概要
⇒主要な交通結節点の構築及び機能強化を目的に、交通結節点における駐車場や駐輪場の設置を行い、パークアンドライドやサイクルアンドライド等を推進する。
⇒交通結節点の構築・強化見直しについては、アンケート結果等において利用者のニーズを把握しながら、協議会においてその必要性と優先順位とを検討し、関係機関との個別調整結果を踏まえながら、随時、推進していくものとする。



・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
交通結節点の構築・強化見直し	・土庄診療所 ・小豆島中央病院 ・内海診療所 ・各港湾施設	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者等	まちづくりとの連携

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
		（※調整のついた施策・事業から随時実施）				
			施策・事業		施策・事業	
			満足度調査		満足度調査	

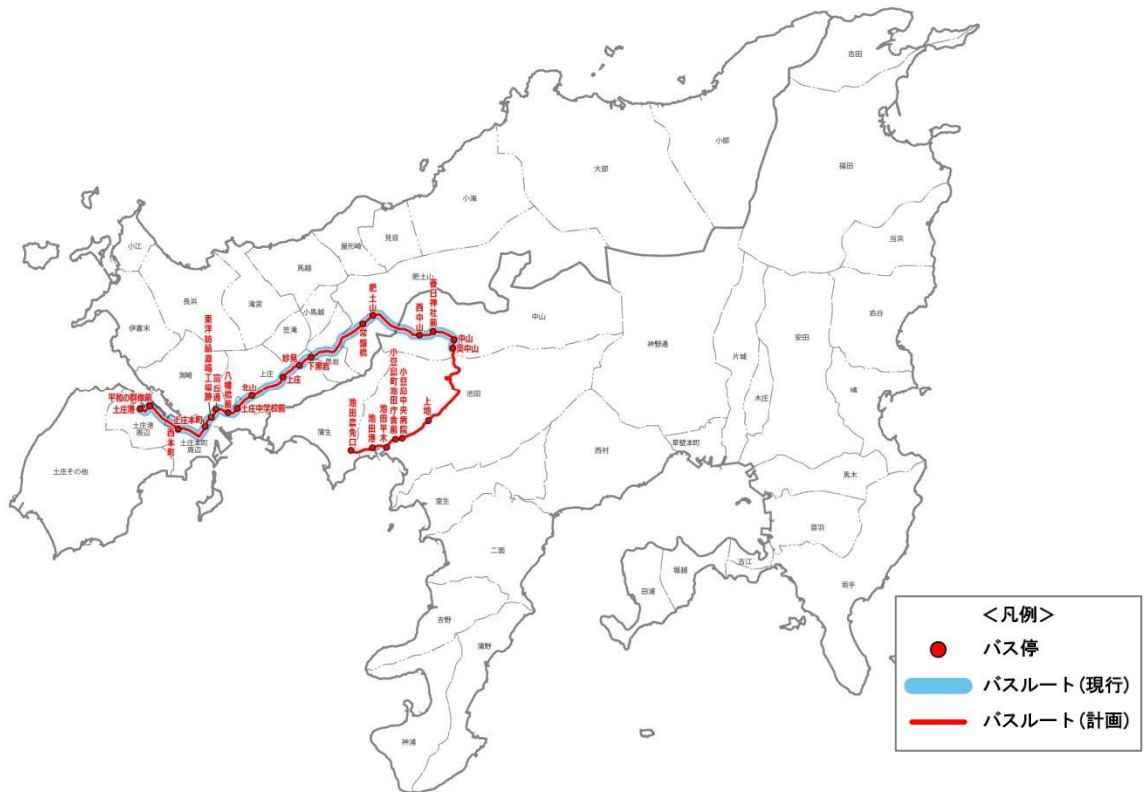
【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策③：地域住民のニーズに応じた、路線バス（支線）の再編

- ・実施の目的
⇒地域住民の通院・通学、買物といった日常的な行動に伴う移動を支援する公共交通網の形成。

1) 肥土山・中山地区

- ・事業の概要
⇒既往路線である「大鐸線」を対象とし、路線名を「中山線」と改称するとともに、土庄地区（土庄診療所）と、商業施設（オーリーブタウン）及び池田地区（小豆島中央病院）との接続を図るための路線再編を行う。



▲中山線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
支線における 路線再編	・中山線	バス事業者	統合高校までの終点延伸について検討（必要性・可能性含め）。

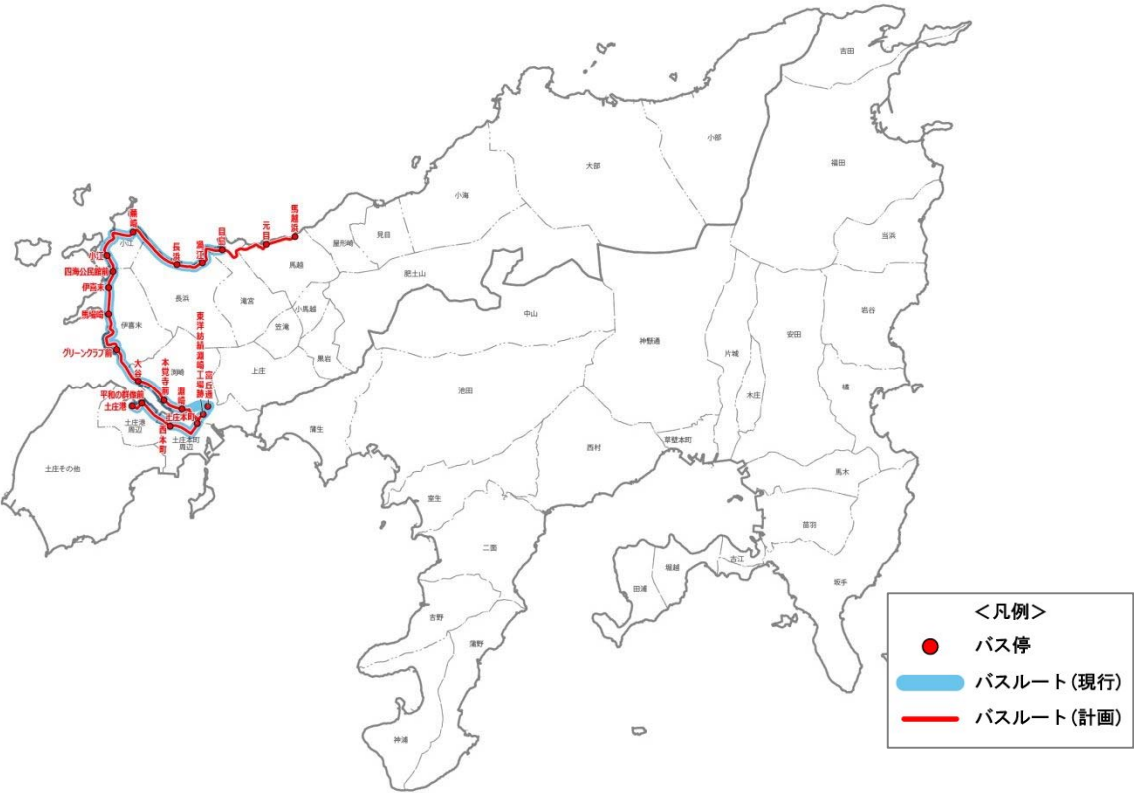
	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	運行計画の策定	運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			運行継続（見直し）	
				満足度調査		満足度調査

【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策③：地域住民のニーズに応じた、路線バス（支線）の再編

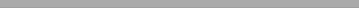
2) 四海地区

- ・事業の概要
⇒既往路線である「四海線」を対象とし、土庄地区（土庄診療所）及び商業施設（オーブタウン）を経由するとともに、乗り継ぎによって池田地区（小豆島中央病院）との接続を図るための路線再編を行う。



▲四海線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

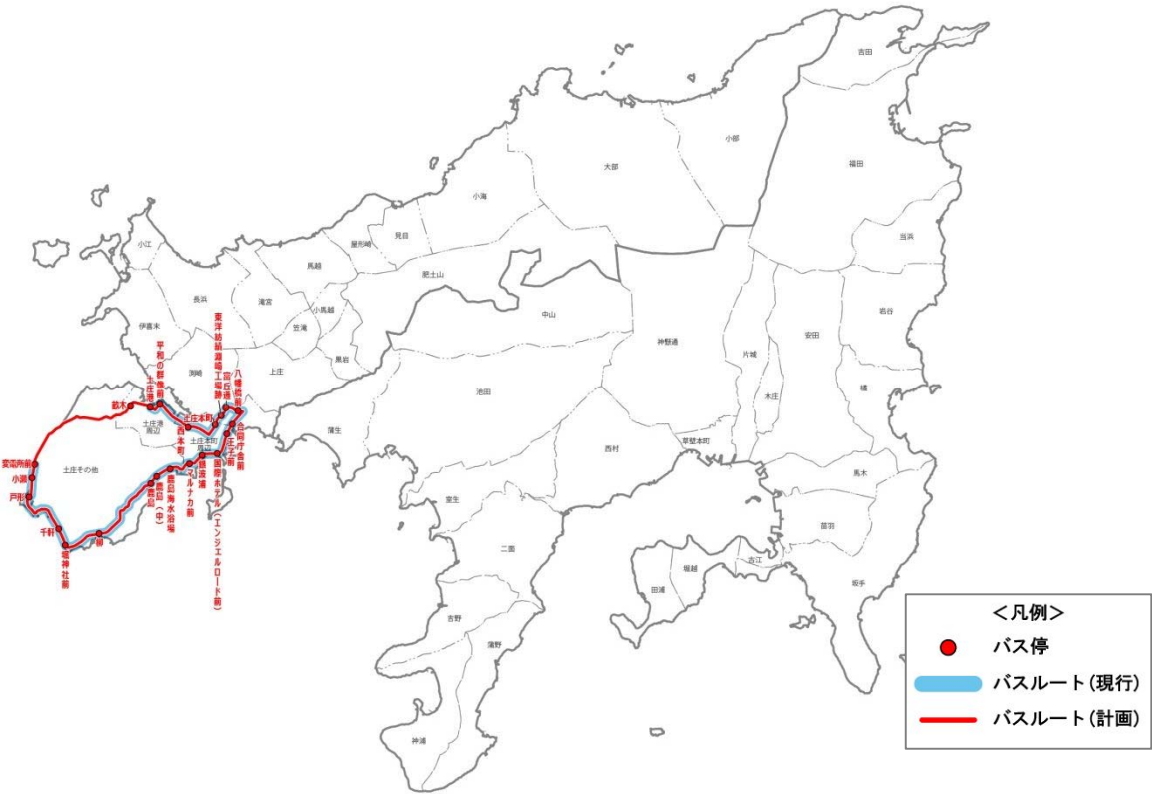
施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考			
支線における 路線再編	・四海線	バス事業者	土庄診療所における乗り継ぎ利便性について 配慮。			
実施時期	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
	 運行計画の策定	 運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			 運行継続（見直し）	
				 満足度調査		 満足度調査

【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策③：地域住民のニーズに応じた、路線バス（支線）の再編

3) 土庄其他地区

- ・事業の概要
⇒ 既往路線である「西浦線」を対象とし、土庄地区（土庄診療所）及び商業施設（オーブタウン）を経由するとともに、乗り継ぎによって池田地区（小豆島中央病院）との接続を図る。また、周回性の確保及び土庄港と主要施設等を結ぶための路線再編を行う。



▲西浦線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

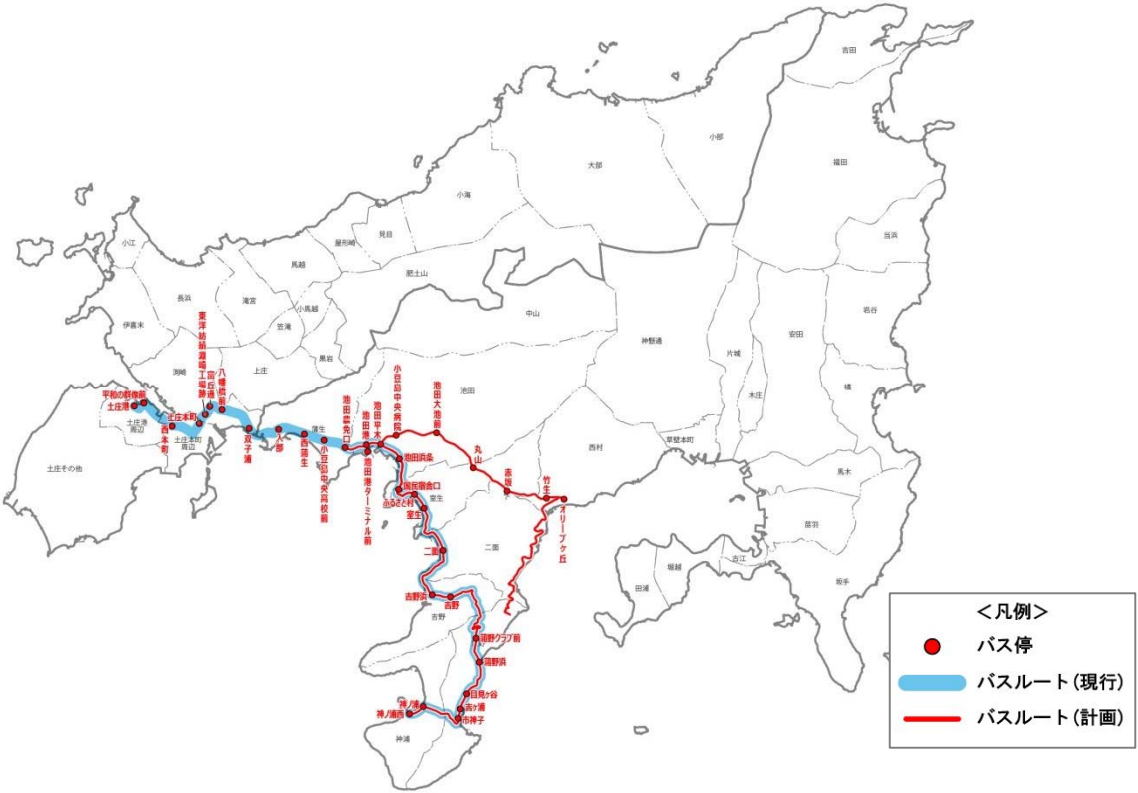
施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考			
支線における 路線再編	・西浦線	バス事業者	土庄診療所における乗り継ぎ利便性について 配慮。			
実施時期	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
						
	運行計画の策定	運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			運行継続（見直し）	
				 満足度調査		 満足度調査

【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策③：地域住民のニーズに応じた、路線バス（支線）の再編

4) 三都地区

- ・事業の概要
⇒バス事業者の車両台数やドライバーの数など運行管理の面から、既往路線である「三都線」を、コミュニティバスに変更し、地域内及び池田地区（小豆島中央病院）への移動について利便性向上を図る。



▲三都線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考			
支線における 路線再編	・三都線	小豆島町	小豆島中央病院における乗り継ぎ利便性について 配慮。			
実施時期	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
	 運行計画の策定	 運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			 運行継続（見直し）	
				 満足度調査		 満足度調査

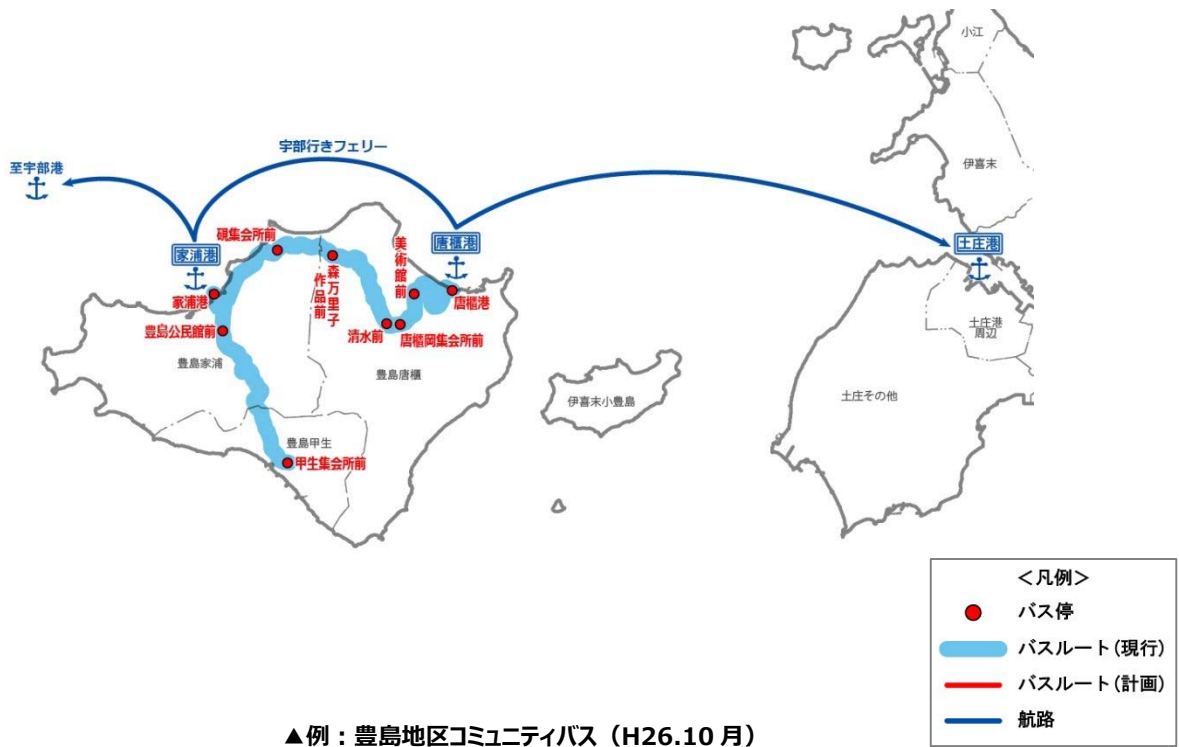
【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策④：複数の交通モードとの連携による一体的な地域公共交通網の形成

- ・実施の目的
⇒航路と路線バス、福祉バス等といった、複数の交通モードとの連携により、人々の快適な移動・乗り継ぎを支援する、一体的な地域公共交通網の形成。

1) 豊島地区コミュニティバスと航路等との連携

- ・事業の概要
⇒既往路線である「豊島地区コミュニティバス」と航路、航路と島内路線バスとの接続について、利用者のニーズに応じた、連携を検討・実施する。
⇒豊島地区のコミバスとの連携については、アンケート結果等において利用者のニーズを把握しながら、そのニーズに可能な限り対応できるように随時見直しを行うものとする。



・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	実施時期	備考
豊島コミュニティバスと航路等との連携	・豊島コミュニティバス・航路等	小豆島地域公共交通協議会 土庄町	随時	統合高校までの乗り継ぎ利便性について配慮。乗り継ぎ地点や乗り継ぎ運賃等について配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	運行計画の策定	運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			運行継続（見直し）	
				満足度調査		満足度調査

【目標2：人々の真のニーズに応じた、利用しやすい地域公共交通の実現】

施策④：複数の交通モードとの連携による一体的な地域公共交通網の形成

2) 福祉バスと路線バスとの連携

・事業の概要

⇒土庄町が運行する福祉バス等と島内路線バスとの接続について、利用者のニーズに応じた、連携を検討・実施する。

⇒福祉バスとの連携については、関係機関との調整を図りつつ、随時見直しを行うものとする。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	実施時期	備考
福祉バスと路線バス等との連携	・福祉バス・路線バス等	小豆島地域公共交通協議会 土庄町 バス事業者等	随時	乗り継ぎ地点や乗り継ぎ運賃等について配慮。
福祉有償運送の導入	・小豆島町内	小豆島町社会福祉協議会	随時	バス、タクシー事業によるサービスを補完するため社協が自家用車による有償運送を実施。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

施策⑤：学校におけるニーズ調査等の実施

・実施の目的

⇒バスによる通学利用者を増やすため、路線バスのPRを行うとともに、利用者ニーズ調査等を行う。

・事業の概要

⇒通学に路線バスを利用する可能性の高い中学生等を対象に、路線バスの乗り方や料金体系、各種サービス等の紹介を行い、路線バスに対するアンケートを行うとともにアンケート調査を実施し、現況の課題と次年度以降の利用見込みを把握し、通学行動に対応した運行計画の見直しを行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
学校におけるニーズ調査等	・小豆島地域	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者 土庄町 小豆島町	調査対象及び手法等については随時検討。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	情報収集・計画案	情報収集・計画案	情報収集・計画案	情報収集・計画案	情報収集・計画案
			施策実施	施策実施	施策実施	施策実施

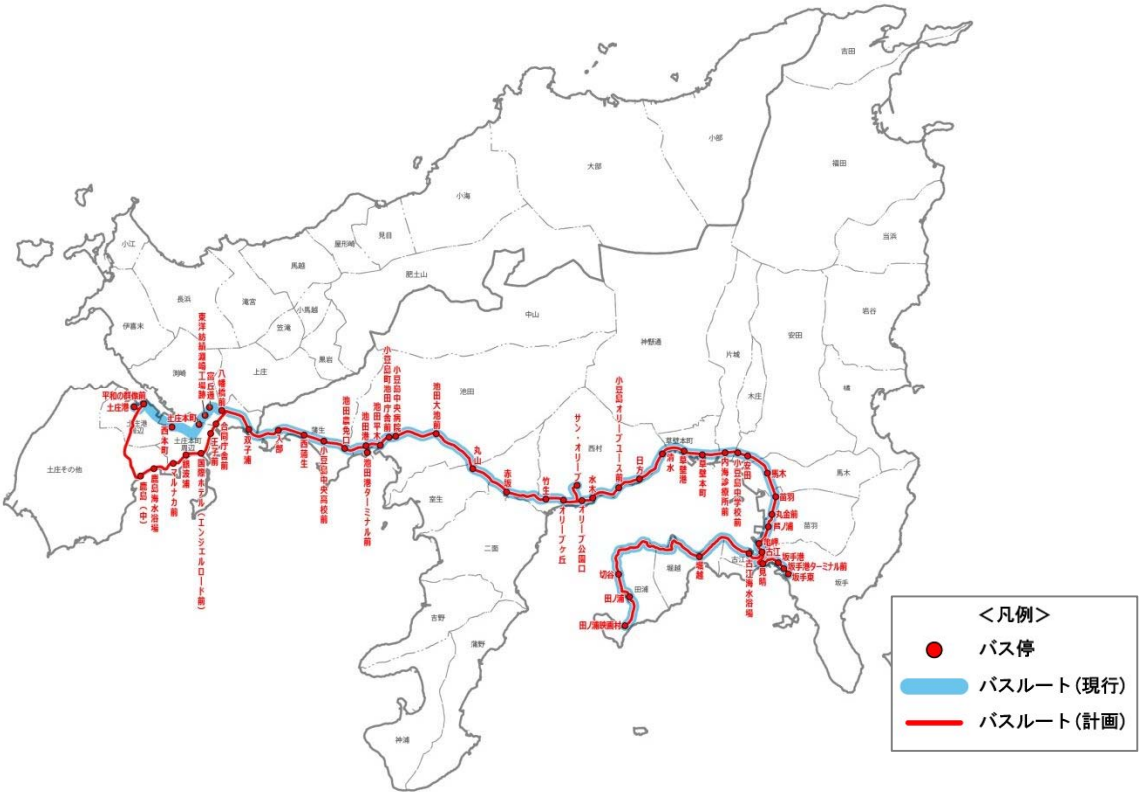
【目標3：多様な観光資源を活かす、魅力的な地域公共交通の実現】

施策⑥：小豆島の観光を支援するための、路線バス（幹線・支線）の再編

- ・実施の目的
⇒島内の主要港湾と主要観光施設とを分かりやすく接続する観光交通軸の形成。

1) 幹線における路線再編

- ・事業の概要
⇒既往路線（幹線）である「田ノ浦映画村線」を対象とし、通院・通学の足を確保するとともに「エンジェルロード（土庄）」、「道の駅小豆島オリブ公園（西村）」、「寒霞溪」、「二十四の瞳映画村（田ノ浦）」等との接続を図るための路線再編を行う。
⇒観光を支援するための幹線の路線再編については、数値目標の達成状況等のチェックによる PDCA を行いながら、観光客のニーズに可能な限り対応できるように随時見直しを行うものとする。



▲例：田ノ浦映画村線の再編（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
幹線における 路線再編	・田ノ浦映画村線	バス事業者	航路との接続、神懸線との連携等、ダイヤの調整にも配慮。

	基準年	前期		後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度 H32 年度
実施時期	運行計画の策定	運行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			運行継続（見直し）
				満足度調査	満足度調査

【目標3：多様な観光資源を活かす、魅力的な地域公共交通の実現】

施策⑥：小豆島の観光を支援するための、路線バス（幹線・支線）の再編

2) 支線における路線再編

・事業の概要

⇒ 前回の瀬戸内国際芸術祭 2013 では、島内におけるアート作品を周遊する路線を新設しているほか、「三都線」や「田ノ浦線」などの既往路線（支線）の増便など、会期限定のバス路線を設置し、来訪者の移動を支援してきた。

今回の瀬戸内国際芸術祭 2016 でも、同様の移動支援を検討・実施し、観光の活性化を図る。

⇒観光を支援するための支線の路線再編については、数値目標の達成状況等のチェックによる PDCA を行いながら、観光客のニーズに可能な限り対応できるように随時見直しを行うものとする。



▲参考：瀬戸内国際芸術祭 2016 時における増便等の状況（案）

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考			
支線における 路線再編	・会期限定バス路線 (小豆島全域)	バス事業者	航路との接続、神懸線との連携等、ダイヤの調整にも配慮。			

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	 運行計画の策定	 瀬戸芸 2016	 評価・検証	 運行計画策定？	 瀬戸芸 2019？	 評価・検証

【目標3：多様な観光資源を活かす、魅力的な地域公共交通の実現】

施策⑦：観光関係機関との連携による利用促進施策の実施

・実施の目的

⇒香川県及び各自治体、その他関係機関が積極的に行っている観光施策について、小豆島地域に係る案件については積極的に連携することにより、公共交通の利用促進を目指す。

・事業の概要

⇒両町の事務局担当者が香川県及び町内等における観光関連機関との情報収集を行い、年に1回開催される協議会において情報共有と、利用促進施策案を提案し、協議会において具体的な検討・実施を行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
観光関連機関との連携	・小豆島地域	小豆島地域 公共交通協議会 土庄町 小豆島町	調査対象及び手法等については随時検討。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	情報収集・施策案	情報収集・施策案	情報収集・施策案	情報収集・施策案	情報収集・施策案
			施策・事業	施策・事業	施策・事業	施策・事業

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑧：全ての人々の移動を支援するための運賃体系の見直し

・実施の目的

⇒運賃体系の見直しにより、島内における移動をより活性化させることを目指す。

1) 路線バスの運賃の見直し

・事業の概要

⇒既往路線バスの運賃の見直しを行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
路線バスの運賃の見直し	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域 公共交通協議会 バス事業者	乗り継ぎ時におけるサービス水準のあり方に配慮。 他の交通機関等との連携。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期		試行実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			試行継続（見直し）	
				満足度調査		満足度調査

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑧：全ての人々の移動を支援するための運賃体系の見直し

2) 路線バスの運賃割引の検討・見直し

・事業の概要

⇒既往路線バスに係る運賃割引（定期券・回数券・観光フリー切符等）の検討・見直しを行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
路線バスの運賃割引の検討・見直し	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者	ICカードへの対応方法検討。 他の交通機関等との連携。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随意時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

施策⑧：全ての人々の移動を支援するための運賃体系の見直し

3) ICカード利用促進策の検討

・事業の概要

⇒ICカードの利用促進を図るための各種施策について検討・実施を行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
ICカード利用促進策の検討	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者	他の交通機関等との連携。 高齢ドライバーの運転免許証の自主返納者に対して IC カード（記名式）を交付し、利用促進を図る。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随意時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑧：全ての人の移動を支援するための運賃体系の見直し

4) 車両設備及び備品の更新

- ・事業の概要
⇒利用者の利便性向上及び継続的な運行を維持するため、車両設備及び備品の更新を適宜実施する。
- ・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	実施時期	備考
運賃表示、音声案内、ICカード等の変更 車両運賃箱の計画的更新	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者	H28～32年度	

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	更新計画の策定	更新実施（※必要に応じ、軽微な変更は実施）			更新継続（見直し）	
				満足度調査		満足度調査

施策⑨：小豆島の地域公共交通の利便性向上に向けた周知・広報の実施

- ・実施の目的
⇒小豆島における地域公共交通を周知し、全ての人が安全で安心な移動ができるように支援する。

1) マップ・時刻表の作成

- ・事業の概要
⇒小豆島における地域公共交通を利用する方の移動を支援するためのマップ・時刻表の作成を行う。
⇒情報提供の方法については、従来の手法と合わせ、ICT の活用など、より積極的な情報発信につとめ、観光・医療等との連携を図るものとする。
- ・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
マップ・時刻表の作成	・小豆島全域	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者	地域住民・観光客など、利用者目線にたった分かりやすさに配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
		(※調整のついた施策・事業から随意時実施)		施策・事業 満足度調査		施策・事業 満足度調査

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑨：小豆島の地域公共交通の利便性向上に向けた周知・広報の実施

2) 主要拠点における情報提供の実施

・事業の概要

⇒小豆島に係る主要拠点（港湾（小豆島以外を含む）、主要結節点 等）において、小豆島の地域公共交通を利用する方の移動を支援するための情報提供を実施する。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
主要拠点における情報提供の実施	・小豆島に係る主要拠点	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者	地域住民・観光客など、利用者目線にたった分かりやすさに配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随意時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

施策⑩：高齢者等の移動を支援するための車両・バス停等の見直し

・実施の目的

⇒高齢者の通院や買い物等、特に地域公共交通による支援が必要な移動に対し、安全で安心なサービスを提供する。

1) 低床式車両の導入

・事業の概要

⇒高齢者の乗降時の負担を軽減するため、低床式車両を随時導入する。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
低床式車両の導入	・小豆島全域における路線バス	バス事業者	車両の配置計画に基づく、段階的な導入検討。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随意時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑩：高齢者等の移動を支援するための車両・バス停等の見直し

2) バス停におけるベンチ等の設置検討・導入

・事業の概要

⇒高齢者のバス待合い時の負担を軽減するため、各バス停におけるベンチや上屋などの設置を随時検討・導入する。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
バス停におけるベンチ等の設置検討・導入	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者 等	今後の維持管理（方法・費用）についても配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

施策⑩：高齢者等の移動を支援するための車両・バス停等の見直し

3) 新たなバス停等の設置・見直し

・事業の概要

⇒高齢者を含む利用者のニーズに対応し、新たなバス停（フリー乗降を含む）の設置・見直しを、随時検討・実施する。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	備考
新たなバス停等の設置・見直し	・小豆島全域における路線バス	小豆島地域公共交通協議会 バス事業者 等	今後の維持管理（方法・費用）についても配慮。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	具体案の検討・関係機関調整				
	(※調整のついた施策・事業から随時実施)			施策・事業		施策・事業
				満足度調査		満足度調査

【目標4：安全で安心な暮らしを支える、持続可能な地域公共交通の実現】

施策⑪：実施施策に対する満足度の把握

・実施の目的

⇒本計画に基づき実施する施策に対して、利用者等ニーズを踏まえた改善を継続的に実施するため、実施施策に対する満足度調査を行う。

・事業の概要

⇒地域住民等を対象に満足度調査を実施し、実施施策に対する評価と必要に応じ、見直しの検討・実施を行う。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	実施時期	備考
実施施策に対する満足度調査	・小豆島地域	小豆島地域公共交通協議会	前期 後期	調査対象及び手法等については随時検討。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定		施策・事業	満足度調査		施策・事業 満足度調査

施策⑫：持続可能な地域公共交通の実現に向けたオープンな協議会等の開催

・実施の目的

⇒小豆島の地域公共交通を持続可能なものとするためには行政や事業者だけでなく、実際の利用者である住民側からも公共交通を育むための取り組み参加が不可欠である。

⇒そこで、住民等の積極的な参画を促すため、協議会へのオブザーバーとして参加や、別途、作業部会や勉強会の設立など、協議会を通じたオープンな参画の場を柔軟に設けることとする。

・事業の概要

⇒住民等の積極的な参画を促すため、オープンな協議会を今後も継続的に開催するとともに、必要に応じ、作業部会や勉強会などを設立し、持続可能な地域公共交通とするための検討・施策導入を行う。

⇒なお、住民参画だけでなく、他部門（観光や商店街等）や他方面（防災や医療）、新たな取り組み（航路・タクシーとの連携、乗り合いバスの新規導入等）など、それぞれのテーマに応じた適切な参画を促す。

・主な事業エリア及び実施主体・実施時期

施策・事業名	主な事業エリア	実施主体	実施時期	備考
オープンな協議会等の開催	・小豆島地域	小豆島地域公共交通協議会	H28～32年度	住民参画だけでなく、他方面等との交流・連携を積極的に実施。

	基準年	前期			後期	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
実施時期	計画策定	協議会の定期開催（オブザーバーの参加）				
		(※必要に応じ設置)→	作業部会・勉強会等			

8. 計画の達成状況の評価

- ・各目標の達成状況を確認するため、PDCAサイクル（Plan（事業の計画策定）・Do（実施）・Check（評価）・Act（改善点の抽出））に基づく評価を毎年実施し、協議会・両町議会における確認と、必要に応じ計画の評価・見直しを行い、より良い取組みとなるように改善する。
- ・また、行政や交通事業者だけでなく、市民、小豆島地域の商業・病院施設・学校等の関係者など、多様な主体が関与しながら計画を推進するため、市民ニーズを適宜収集しながら、事業の達成状況を検証する。
- ・さらに、本計画全体に関しても、計画の前期（中間年次）、後期（最終年次）に目標指標に対する評価を行い、適宜計画全体の見直しを行う。

【計画年次全体における PDCA サイクル】

項目	基準年	小豆島地域公共交通網形成計画 2015					
		前期			後期		
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	
P（計画の策定）	2015 計画策定						
D（施策・事業の実施）		施策・事業の実施（前期）			施策・事業の実施（後期）		
			(満足度調査)		(満足度調査)		
C（計画の評価）			前期実施施策・事業の評価		後期実施施策・事業の評価		
A（計画の見直し）				後期計画の見直し		次期計画の策定※	

※「次期計画の策定」は必要に応じ検討。

【単年次における PDCA サイクル】

項目	単年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
P（計画の策定）											次年度計画の策定※	
D（施策・事業の実施）	事業の実施											
											見直し案の準備※	
C（計画の評価）												
A（計画の見直し）												

※「事業内容の見直し」については必要に応じ検討。